参考資料４.

令和３～７年度
機関ごとの具体的な取組

令和３年度 機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機　　関　　名	取組状況
1	奈良市	奈良市防災スピーカー（同報系防災行政無線屋外拡声子局）の増設
2	大和高田市	防災教育・避難訓練の実施
3	大和郡山市	
4	天理市	
5	橿原市	洪水ハザードマップの更新
		公共下水道（雨水）函渠整備
6	桜井市	
7	御所市	
8	生駒市	総合防災訓練の実施
9	香芝市	ため池の治水利用による流域対策
10	葛城市	
11	平群町	平群町防災ハザードマップ（詳細版）の作成
12	三郷町	
13	斑鳩町	斑鳩町防災ハザードマップの活用
14	安堵町	安堵町ハザードマップの作成・配布
15	川西町	洪水ハザードマップの周知
16	三宅町	三宅町洪水ハザードマップ作成の作成・配付・説明
		三宅町まるごとまちごとハザードマップの看板を町内に設置
		避難確保計画の作成支援
17	田原本町	
18	高取町	
19	明日香村	地震を想定した防災訓練
20	上牧町	
21	王寺町	まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知
		防災情報ネットワークの冗長化
22	広陵町	浸水想定区域における防災訓練
23	河合町	大和川にかかる避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成及び公表
24	大淀町	
25	奈良県	洪水を安全に流すためのハード対策の実施
		システム改修、水位計、カメラ設置
		ホットラインの構築・実施
		防災学習の実施
26	近畿日本鉄道 株式会社	－
27	西日本旅客鉄道 株式会社	－
28	奈良地方気象台	重要水防箇所合同巡視
		水災害教育等の実施
29	近畿地整 大和川河川事務所	合同巡視による重要水防箇所の再点検を実施

奈良市の取組状況

（奈良市防災スピーカー（同報系防災行政屋外拡声子局の増設））

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良市
具体的取組	奈良市防災スピーカー（同報系防災行政無線屋外拡声子局）の増設
主な内容	市内の同報系防災行政無線屋外拡声子局を増設し、防災情報発信を強化

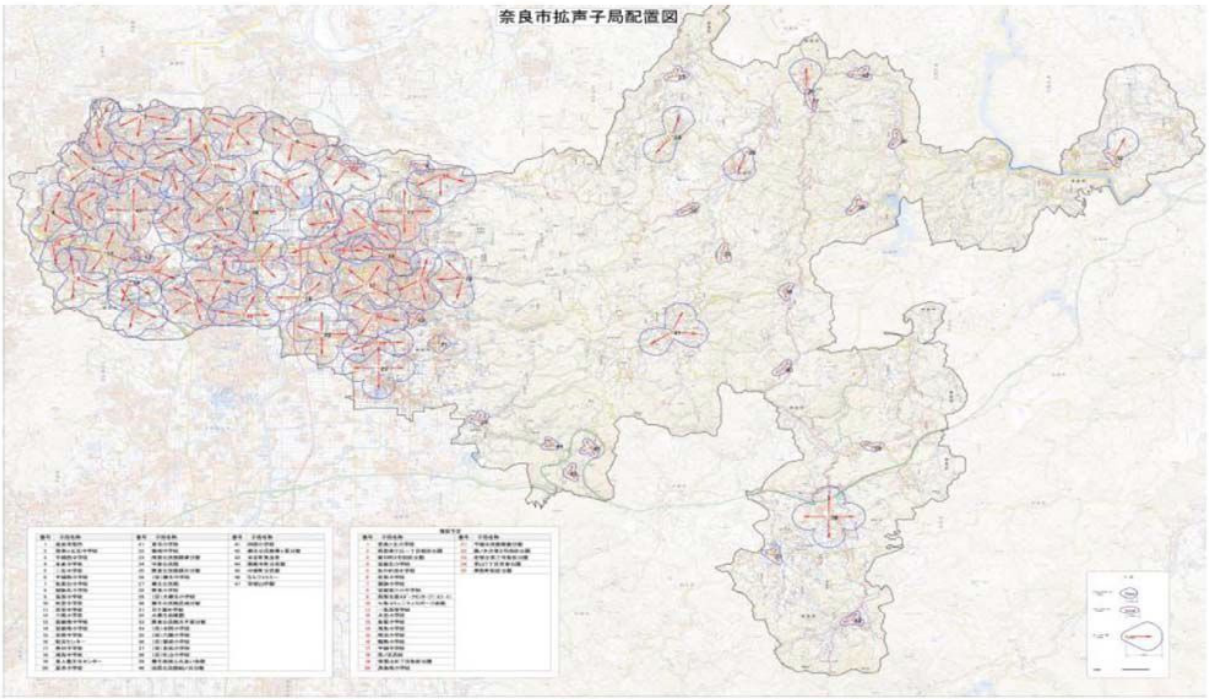
○事業概要

◆奈良市では平成２７年度から防災スピーカー（同報系防災行政無線屋外拡声子局）を市内４７箇所に設置し、気象情報や避難情報等を放送してきたが、可聴範囲を拡大するため、新たに２５箇所に防災スピーカーを増設し、令和３年９月から全７２箇所の運用を開始して防災気象情報や避難情報を直接的に住民に伝える手段として活用している。

◆緊急情報をいち早く伝え注意を喚起するため、緊急安全確保や避難指示の発令時には放送の冒頭にサイレン音を吹鳴する。

防災スピーカー整備状況

【防災スピーカー配置図】



【令和３年度設置箇所一覧】

番号	子局名称	番号	子局名称
1	登美ヶ丘小学校	14	飛鳥小学校
2	西登美ヶ丘一丁目街区公園	15	明治小学校
3	朝日町二丁目１号街区公園	16	鶴舞小学校
4	富雄北小学校	17	平城中学校
5	あやめ池小学校	18	西の京高等学校
6	伏見小学校	19	帝塚山五丁目街区公園
7	都跡小学校	20	済美南小学校
8	富雄第三小中学校	21	平城公民館歌姫分館
9	西部生涯スポーツセンター	22	藤ノ木台第２号街区公園
10	七条コミュニティスポーツ会館	23	佐保台第３号街区公園
11	一条高等学校	24	青山七丁目街区公園
12	大宮小学校	25	押熊町街区公園
13	佐保小学校		

○周知

- 市の広報紙、ＨＰで同報系防災行政無線の増設の周知を行った。

大和高田市の取組状況

（防災教育・避難訓練の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	大和高田市民生委員
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	災害が発生した際の民生委員としての行動、防災意識向上

〇日時・参加機関
日時：令和３年５月２８日　場所：大和高田市中央公民館
対象：高田校区民生委員（約３０人）

〇内容
・本市の地形特性及びそれに伴う災害リスクについて説明。
・地震・水害についての基礎知識及び避難時の行動についての講義を実施。
・高齢者でも実施可能な家屋浸水対策等について説明。

橿原市の取組状況
（洪水ハザードマップの更新）

水防災意識社会
再構築ビジョン

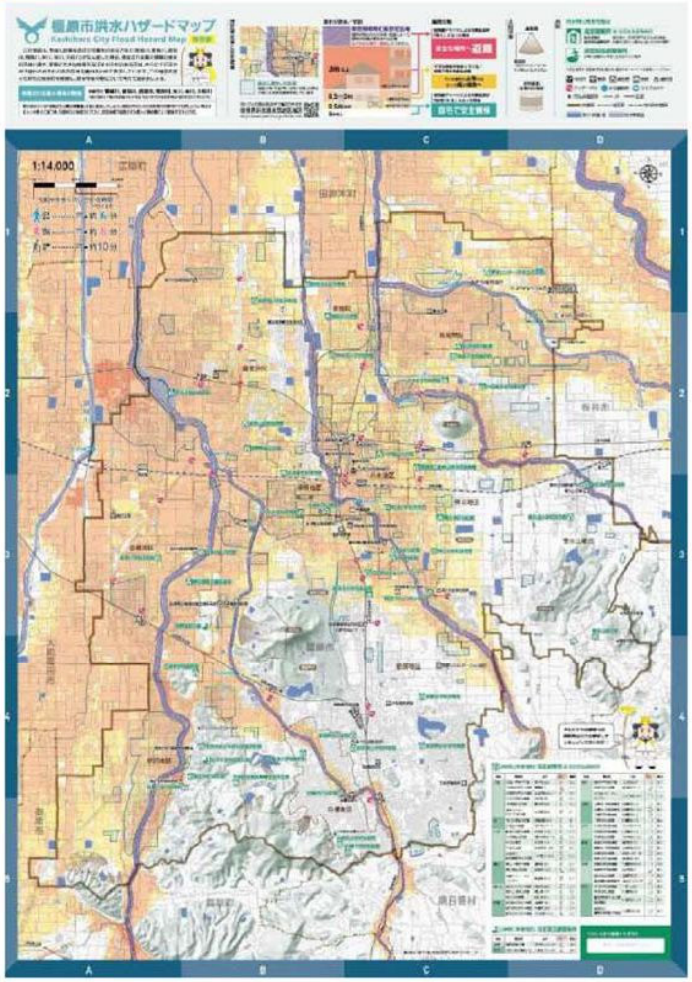
共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	橿原市
具体的取組	橿原市ハザードマップの作成と市内全戸配布
主な内容	新たな洪水浸水想定区域図に基づいた浸水深とチャート式を活用したハザードマップの作成

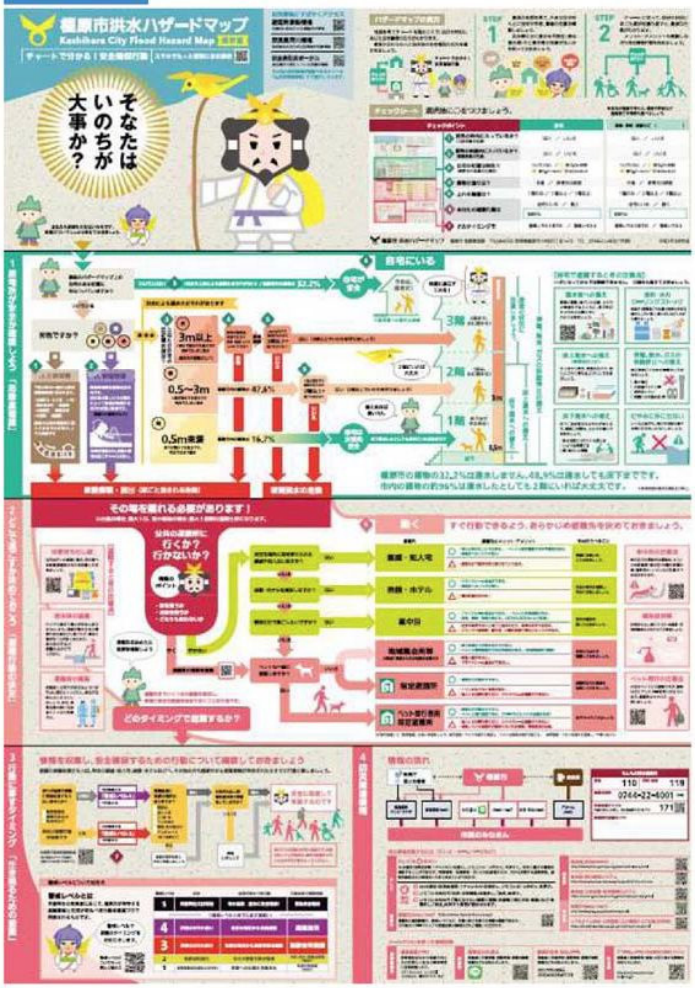
■特徴
- 情報面はチャート式とし、浸水の深さや状況に応じた選択を繰り返すと最適な安全確保行動が示される。
- QRコードからスマートフォンのＧＰＳ位置情報を用いて現在地の危険度と適切な避難行動を検索することができる。
- 最新の「避難情報発令の際に用いる警戒レベル」についても記載。

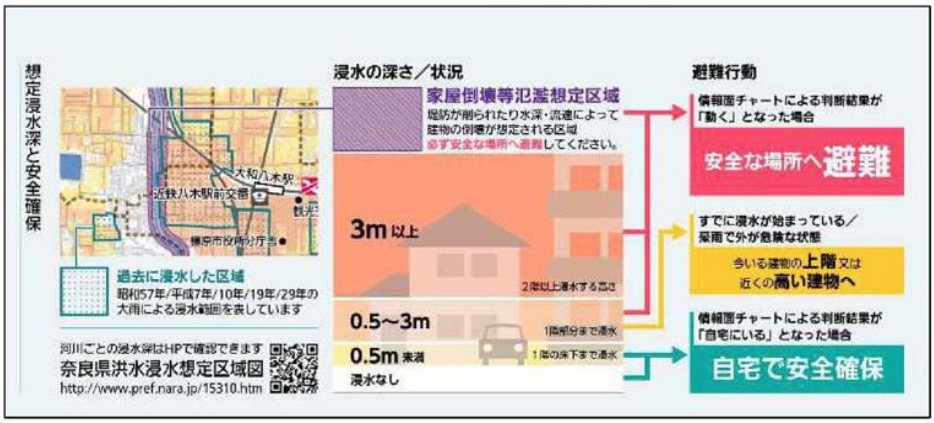
■配布・周知
- 市内全戸に配布（令和３年６月）及びホームページに掲載。

地図面



情報面





GPSを活用した危険度判定と避難行動の提供

情報面（表紙）

（例）

GPSにより現在地の危険度を判定し、状況に応じた避難行動が表示される

橿原市の取組事例
【公共下水道（雨水）函渠整備】

取組機関名	橿原市
取組事例	公共下水道（雨水）函渠等の整備
主な内容	公共下水道（雨水）事業認可区域内において、概ね10年に1回の大雨に対応可能な雨水排水施設を整備

橿原市の公共下水道（雨水）事業について

○分流式下水道
○事業開始年度：昭和45年～
○事業認可区域：3,460ha
○進捗率　　：86.61%（令和3年3月31日現在）

整備前　平成28年9月集中豪雨 34.0mm/h

整備中　公共下水道築造工事 曽我川左岸排水区（令和2年度）L=80m

整備後

整備効果について

○橿原市は、10年確率計画降雨47mmに対応するため、「飛鳥川右岸排水区」「曽我川左岸排水区」等の整備を推進。
○平成30年度からは「安全・安心で住みつづけたくなるまち かしはら」を掲げ、5カ年計画の浸水対策下水道事業を実施し、計約3.4ha の整備完了を目標としている。
○令和3年5月に曽我川左岸排水区（橿原市雲梯町地内）の一部を完了した。
○令和3年7月集中豪雨（時間最大降雨43.5mm）で効果を発揮し、浸水被害の発生を防止・軽減。

生駒市の取組状況
（総合防災訓練の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	生駒市
具体的取組	生駒市総合防災訓練
主な内容	令和３年度生駒市総合防災訓練を実施し、大規模災害発生時の応急対策に関する各種計画等の検証・確認と関係者の理解の向上、住民の防災意識の高揚を図った。

○概要

■日　時　：　令和3年11月14日（日）（一部（オンラインイベント）を13日に実施）
■場　所　：　生駒市役所・各避難所など
■参加者　：　約3000名
■参画団体：　各自治会・自主防災会、生駒市社会福祉協議会、消防団、陸上自衛隊第7施設群・生駒市アマチュア無線非常通信協力会、防災関連企業等（防災ブース展示）
■実施内容：　(1) 対策本部図上訓練
(2) 住民避難～避難所受け入れ・運営
(3) シェイクアウト訓練
(4) ボランティアセンター運営訓練
(5) 防災アトラクション
(6) 防災講演会
(7) 防災ブース展示

○総合防災訓練の様子

●対策本部図上訓練

●避難所運営訓練

●防災講演会

●防災ブース展示

香芝市の取組状況
（ため池の治水利用による流域対策）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	香芝市
具体的取組	ため池の治水利用による流域対策
主な内容	既存ため池における洪水調整施設の整備

○流域対策の必要性

一級河川大和川水系葛下川の流域に位置する香芝市では、近年の著しい市街化や集中豪雨等の異常気象により、流域における浸水被害発生の危険性が高まっていており、「ため池の治水利用」等、流域の保水・遊水機能を回復させるための対策が必要である。

○事業概要

本事業は、本市瓦口地内の「橋詰池」において、大雨時に雨水を貯留できるよう、既存の余水吐を改造し、洪水調整施設を整備するものである。

地元水利組合との協議により治水利用について同意が得られたため、令和元年度から工事着手し、令和２年度に完成した。

○期待される効果

「橋詰池」は、浸水常襲箇所に近接しており、本事業により池周辺や下流域における浸水被害の防止効果が期待できる。

○施設諸元

橋　詰　池

現況	満　水　位	WL. 58.82
	満水面積	３，９００㎡
	貯水容量	８，３００㎥
受益地面積からの計算による利水容量		３，８００㎥
計画	満　水　位	FWL. 58.06
	満水面積	３，５００㎡
	治水容量	２，７００㎥
	貯水容量	５，４００㎥

全景（着手前）

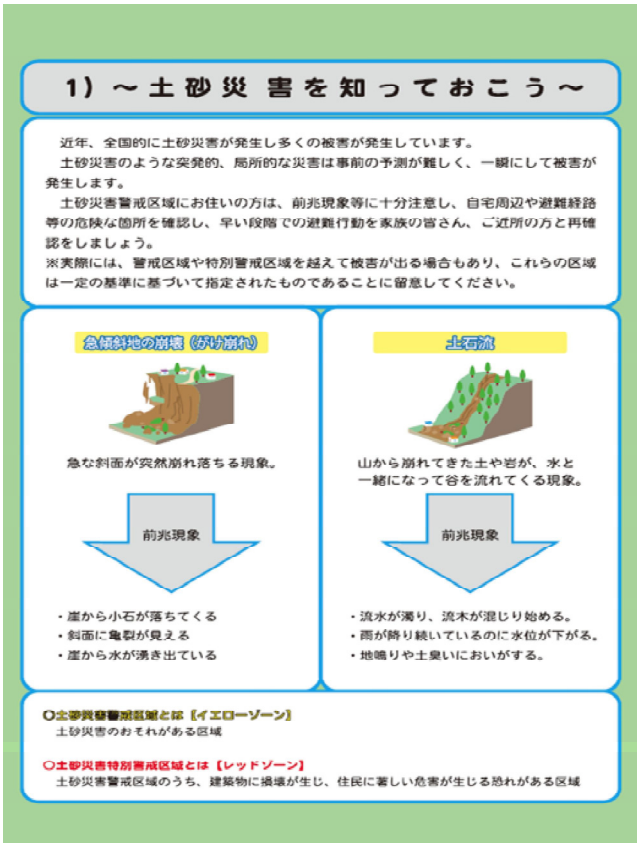
余水吐（着手前）

平群町の取組状況
（平群町防災ハザードマップ（詳細版）の作成）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名： 平群町
具体的取組： 平群町防災ハザードマップ（詳細版）の作成
主な内容 ： 平群町防災ハザードマップ（詳細版）の作成と各戸への配布
実施時期 ： 令和３年５月
概　　要 ： 令和２年３月に作成した、平群町防災ハザードマップを住民の防災意識の向上、知識の充実を図るために詳細版を作成し、町内全戸に配布し啓発に努めた。



斑鳩町の取組状況

水防災意識社会
再構築ビジョン

（斑鳩町防災ハザードマップの活用）

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

●取組機関名： 斑鳩町

●具体的取組： 斑鳩町防災ハザードマップの活用

●主な内容： 斑鳩町防災ハザードマップの全戸配布と活用

●実施時期： 令和３年４月～

●事業概要：
　斑鳩町防災ハザードマップについて、富雄川と竜田川の浸水想定区域の見直しがあったことから、令和3年3月に更新を行い、3月末から4月にかけて町内全戸(11,967世帯)に配布を行った。また、災害対策基本法改正に伴う避難情報の変更に関する啓発チラシを作成し、町HPに掲載するとともに、行政出前講座等で資料として活用し、啓発普及に努めた。

ハザードマップ

啓発チラシ　表

啓発チラシ　裏

安堵町の取組状況
（安堵町ハザードマップの作成・配布）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	安堵町
具体的取組	安堵用ハザードマップの作成
主な内容	新たな洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップを作製し町内全戸に配布

【事業概要】
従来の洪水ハザードマップは平成２８年度に作成し、以後いくつかの修正を挟みながら発行してきたが、作成時より浸水想定区域が大きく変化しているため、現状の想定に合わせるよう更新した。
また、町内で起こり得る災害リスクをより明確にし、防災知識の充実を図るため、ため池ハザードマップを盛り込んだ冊子タイプの洪水ハザードマップを作成し、町内全戸に配布することで啓発に努めた。

【実施時期】
令和3年3月　安堵町ハザードマップの作成
令和3年4月　町内全戸（3,300世帯）への配布

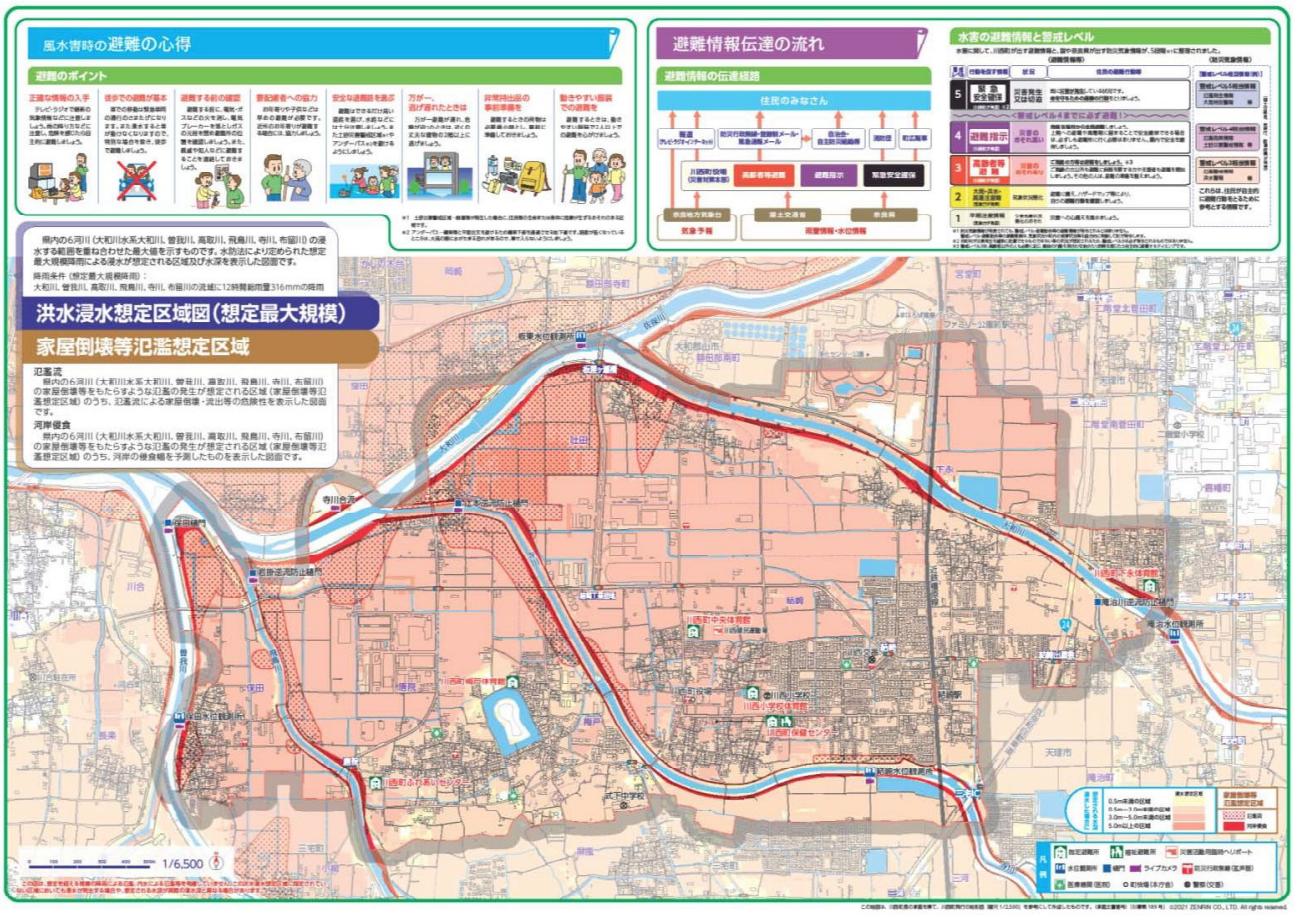
川西町の取組状況
（洪水ハザードマップの周知）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

具体的取組	令和2年度作成洪水ハザードマップの住民周知
主な内容	川西町ホームページ上に洪水ハザードマップ（Web版・PDF版）を掲載

洪水ハザードマップ（一枚物）



ホームページURL
https://www.town.nara-kawanishi.lg.jp/contents_detail.php?co=cat&frmId=6458&frmCd=18-1-3-0-0

三宅町の取組状況

（三宅町洪水ハザードマップ作成の作成・配付・説明）

水防災意識社会
再構築ビジョン

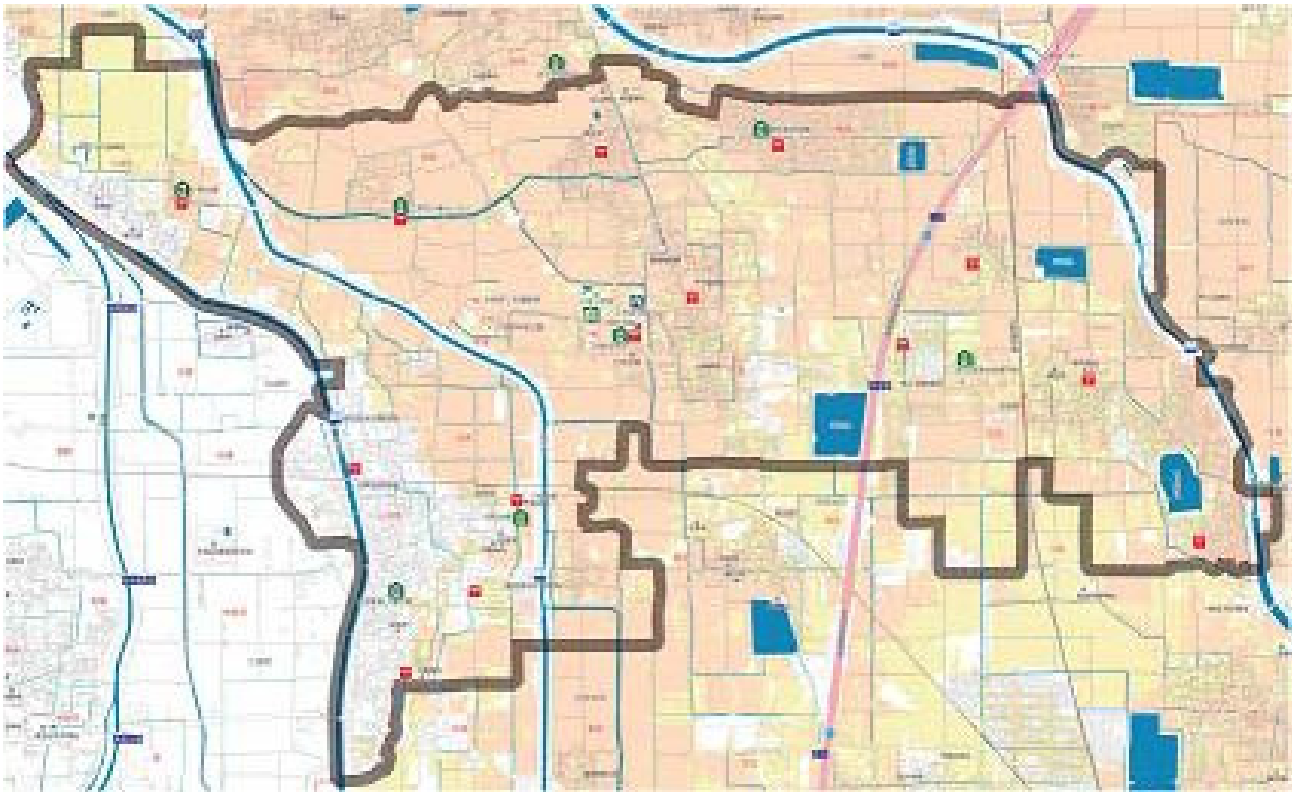
取組機関名	三宅町
具体的取組	三宅町洪水ハザードマップを作成する。
主な内容	三宅町内における浸水深・避難場所等の啓発冊子を作成し、住民等に周知する。

○概要

平成27年5月に水防法が改正され、想定最大規模降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を作成するとともに、現行ハザードマップの情報に下記内容を新規に作成周知する。

◆浸水継続時間
◆家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
◆家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）。

○マップ内容



○配付・周知

- 自治会長会・自主防災会で説明（令和３年４月）
- 町内全戸及び事業所に対し配付。（令和３年７月）
- 町内転入者に対し配付。（随時）

三宅町の取組状況

（三宅町まるごとまちごとハザードマップの看板を町内に設置）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	三宅町
具体的取組	三宅町まるごとまちごとハザードマップの看板を町内に設置
主な内容	現地における浸水深・避難場所等を住民に知らせる

○概要

自らが生活する地域の水害の危険性を実感できるよう、居住地域をまるごとハザードマップと見立て、生活空間である“まちなか”水防災に関わる情報を標示する取組

◆災害時に住民が安全かつ迅速に避難するためには、洪水への意識を高めるとともに、浸水深・避難場所等を事前に知らせておく事が重要である。
◆住民にとってわかりやすいまるごとまちごとハザードマップづくりを進め、発災時には命を守るための住民の自主的な避難行動を促し、被害を最小限にとどめる。

○マップ内容

浸水 4.1 m

○配付・周知

- 自治会長会・自主防災会で説明（令和３年４月）
- 町内全戸及び事業所に対し配付。（令和３年７月）

三宅町の取組状況
（避難確保計画の作成支援）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	三宅町
具体的取組	要配慮者利用施設の避難確保計画作成等支援
主な内容	要配慮者利用施設の避難確保計画作成を支援するため作成講習会を実施する。

○概要

水防法の改定により、要配慮者利用施設の避難確保計画作成、それに基づく訓練の実施が義務づけられたことに伴い、避難確保計画が作成出来ていない施設や、水害に対する避難訓練の実施方法がわからない施設を対象に講習会を実施し計画作成の支援を実施。

◆令和３年１２月１６日(木)　14:00～16:00　三宅町役場　本庁舎３階　第１会議室
◆参加者：施設関係者９名（会場）、周辺の10市町（WEB方式）　◆

○内　容

【施設の浸水深確認】

【高齢者等避難の行動理解】

【避難訓練の理解】

【講習会会場の様子】

【講師による説明】

○配付・周知

- 要配慮者利用施設事業者への説明会（令和３年１２月１６日）
- 避難確保計画の提出【事業者→町】（令和４年１月）
- 全対象施設の避難確保計画の作成完了（令和４年３月）

明日香村の取組状況
（地震を想定した防災訓練）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	明日香村
具体的取組	令和３年１１月２８日（日）大地震を想定した防災訓練を実施しました。
主な内容	明日香村・明日香村消防団・旧高市地区住民（参加者６５６名）による防災訓練を実施。

○日時・参加機関

明日香村・明日香村消防団・旧高市地区住民（参加者６５６名）

令和３年１１月２８日（日）午前９：００～

当日の訓練スケジュール

【1部】避難誘導訓練

８時５５分　訓練開始の事前周知放送が防災無線で入る。

９時００分　地震発生！緊急地震速報が防災無線で鳴る！

９時０１分　地震が収まる。各大字の集合場所へ避難開始

９時２０分　各大字の集合場所へ集合完了。各大字単位で安否確認を実施。

９時３０分　村が指定する避難場所へ避難開始。

１０時００分　各大字住民がそろい次第、避難訓練終了。

【2部】防災活動体験

１１時００分～１２時００分

段ボールベットや簡易トイレ等防災資器材の見物や、ＡＥＤ体験等を指定避難所である聖徳中学校にて実施。

～防災訓練の目的と目標～

目的　：　自分とその周辺の命を守るためには、どのように避難・救助をすればよいかを考え、実践する。

目標　：　①避難連絡体制の確認。
②避難経路や避難場所、避難方法の確認と実践。
③配慮が必要な方の避難方法や支援の確認と実践。
④住民同士が協力しての、安否確認・避難行動の実践。

⇒　地震発生時を想定し、身を守る行動～避難方法の確認・実践。

～当日までの事前準備として実施～

・令和3年11月12日（火）19:00～　明日香村中央公民館
防災訓練の事前説明会
・防災訓練の趣旨・概要説明
・質疑応答・意見交換等

○当日の様子

◆ 役場内の訓練状況

▲ 災害対策本部の設置及び、住民・消防団への情報伝達を行う様子。

◆【1部】避難誘導訓練

▲ 地域住民の避難と、集合場所での安否確認の様子。

◆【2部】防災活動体験

▲ 地域住民による段ボールベッド等の見物、消防署員の指導によるAED体験の様子。

王寺町の取組状況
（まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	王寺町
具体的な内容	まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知
主な内容	令和元年度に町内215箇所の電信柱に標識を設置。令和3年度は、さらなる整備に向け避難所誘導看板および土砂災害（特別）警戒区域電柱巻付け看板の設置を行う。

○事業概要

・災害対策基本法に定められた「指定避難所」等については、全国的に標準化された図記号を用いることが望ましいことから、災害種別記号（ピクトグラム）を使い、標識システムの表示方法に倣って避難所標識や避難所誘導看板の新設および更新を行う。

○事業内容

・避難所入口など目につきやすい場所に標識を設置し、その場所が洪水・土石流・がけ崩れ・大規模火災などどのような災害の避難に適しているかを表示し、平常時からその場所への避難のイメージを避難訓練などを通じて形成する。

○事業効果・目標

・令和元年度に防災ハザードマップの改定と災害リスク等の周知を目的とした洪水想定水位標識を町内215箇所に設置し、令和3年度においては、標識システムの表示方法等を用いた指定避難所等看板標識および誘導看板を設置することで、住民だけでなく、観光客や外国人等に対してもより効果的に避難所への誘導を図り、災害リスクの理解の促進に努めることを目標とする。

王寺町の取組状況
（防災情報ネットワークの冗長化）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	王寺町
具体的な内容	防災情報ネットワークの冗長化
主な内容	㈱建設技術研究所と連携し、災害対応業務必要な情報を管理し職員の参集や避難情報の発令等タイムラインに沿ってとるべき災害対応行動を職員間で共有できる防災行動支援システムを共同して構築する。

○事業概要

・町と株式会社建設技術研究所が「防災力向上に向けた研究開発に係る連携協定」を締結し、水害に対し地域防災計画や災害対応マニュアル等をシステム化し、リアルタイムでの被害状況等の把握や、防災行動（業務継続計画における行動やタイムライン等）を管理・共有・支援するシステムを共同で開発

○事業内容

・情報収集機能として、関係機関の既存システムと連携し、気象・水位情報等災害対応業務に必要な情報を一元管理でき、現場の職員と災害対策本部との間で画像や位置情報等がリアルタイムに情報共有できるシステムを構築する。
・タイムラインで定めている行動項目を時系列に管理（システム化）したうえで、行動内容をシステムに反映し、共有できるシステムを構築する。

○事業効果・目標

・情報をより正確に収集、分析することで災害対応業務における効率化と現場と本部の情報や指示の円滑な伝達が可能になる。
・収集した情報から職員召集のタイミングや避難情報発令の判断等とるべき災害対応行動がリアルタイムで発信できる
・防災行動をデータベース化し、情報を蓄積、分析することにより持続可能な防災行動の検証や改善を図ることができる。

●今後のスケジュール

◆令和２年度　　対象被害の設定と被害想定の分析・防災行動、防災関連計画等の整理
⇒防災行動支援システム基本設計**【防災行動の洗い出し】**

◆令和３年度　　システムの構築⇒動作検証⇒試行（出水期までに）

◆令和４年度　　システムの改良⇒活用（マニュアル作成）

広陵町における取組状況
（浸水想定区域における防災訓練）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	広陵町 広陵町消防団 （株）愛和
具体的取組	洪水時における避難誘導等について
主な内容	広陵町消防団による要配慮者の救護及び（株）愛和運輸による住民避難輸送

○日時・参加機関

広陵町浸水想定区域内の住民
　広陵町消防団及び（株）愛和等で実施しました。
・日時：令和３年５月２３日（日）
・場所：広陵町浸水想定区域内全域
・概要：大型台風襲来時（警戒レベル３　高齢者等避難）における、住民の避難行動のあり方等を検証することを目的に、浸水想定区域内の各自主防災会の安否確認訓練、昨年度協定を締結した（株）愛和運輸による高地の避難所へ輸送する訓練、消防団による救護輸送訓練等を実施しました。

○各訓練の様子

安否確認訓練
写真

（株）愛和輸送訓練
写真

消防団救護輸送訓練
写真

○参加機関からの意見

○自主防災会にて避難安否確認訓練を実施したことで、災害に対する意識向上が図れた。
○町内の浸水想定区域内で、水害が発生した場合の避難方法の確認ができた。
○消防団の活動の一環として、要配慮者の救護活動の再確認が図れた。
○(株)愛和運輸と協定後、初めてとなる訓練であり、避難輸送の問題点等が浮き彫りとなった。

河合町の取組状況

（大和川にかかる避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成及び公表）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・国管理区間・　県管理区間

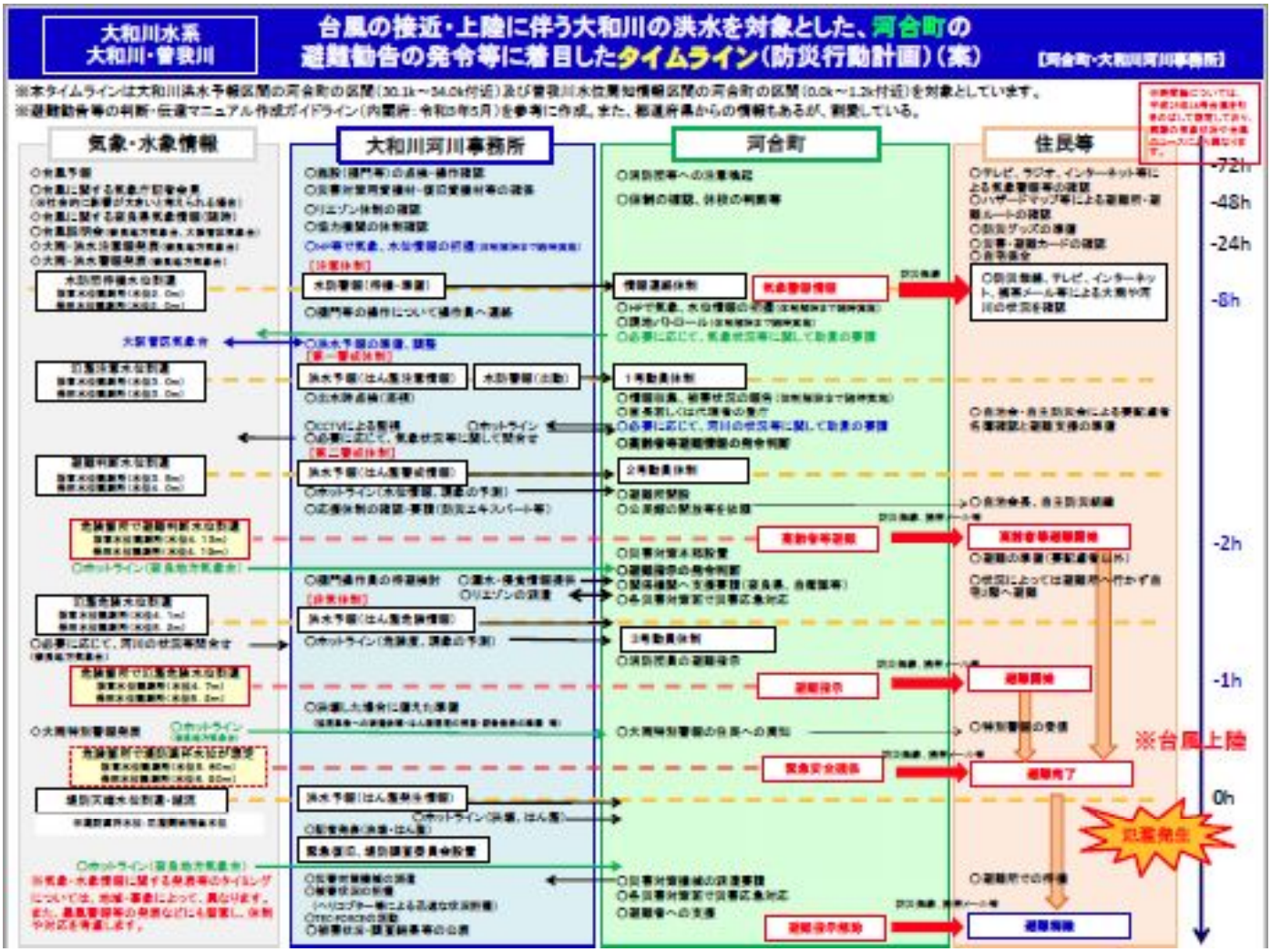
取組機関名	河合町
具体的取組	避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項
主な内容	大和川にかかる避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成及び公表

○取り組み内容

大雨や台風などの災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、対応の遅れを防ぐために防災行動「いつ」「誰が」「何をするか」と実施主体を時系列で整理したタイムラインを作成しています。

○　タイムラインを町ホームページに掲載し、公表しています。

○タイムライン



奈良県の取組状況

水防災意識社会再構築ビジョン

（洪水を安全に流すためのハード対策の実施）

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

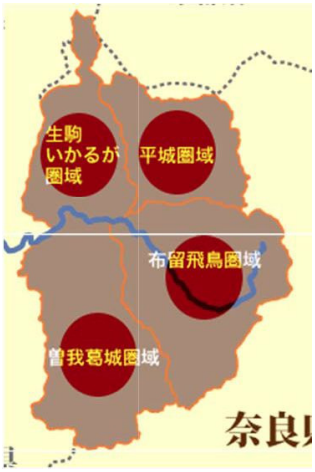
取組機関名	奈良県、奈良土木事務所、郡山土木事務所、高田土木事務所、中和土木事務所
具体的取組	洪水を河川内で安全に流す対策に関する事項
主な内容	整備計画に基づく河川改修の実施

○整備計画に基づく河川改修

計画堤防断面に対して高さや幅が不足している区間では、洪水により氾濫する恐れがあります。
洪水を河川内で安全に流す対策としては、学識経験者や地方公共団体の長や住民の方々等の意見を踏まえて策定された「大和川水系河川整備計画」に基づいて改修工事を実施しています。

大和川水系河川整備計画

平城圏域	生駒いかるが圏域	布留飛鳥圏域	曽我葛城圏域
・岩井川	・竜田川	・大和川（初瀬川）	・葛下川
・秋篠川	・富雄川	・布留川北流	・高田川
・地蔵院川	・三代川	・布留川南流	・葛城川
・蟹川	・実盛川（大門川）	・寺川	・曽我川
・菩提仙川	・岡崎川	・飛鳥川	・安位川
・乾川		・米川	・尾張川
・能登川		・中川	・広瀬川
・菰川		・新川	・小金打川
・菩提川			・土庫川



○令和３年度整備箇所

令和３年度に改修工事を実施している主要な箇所について紹介します。

秋篠川（護岸改修工事）
秋篠川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和3年度は、護岸工事を実施しています。

乾川（函渠設置工事）
乾川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和3年度は、函渠工事を実施しています。

高田川（護岸改修工事）
高田川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和３年度は、護岸工事を実施しています。

寺川（護岸改修工事）
寺川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和３年度は、護岸工事を実施しています。

奈良県の取組状況
（システム改修、水位計、カメラ設置）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

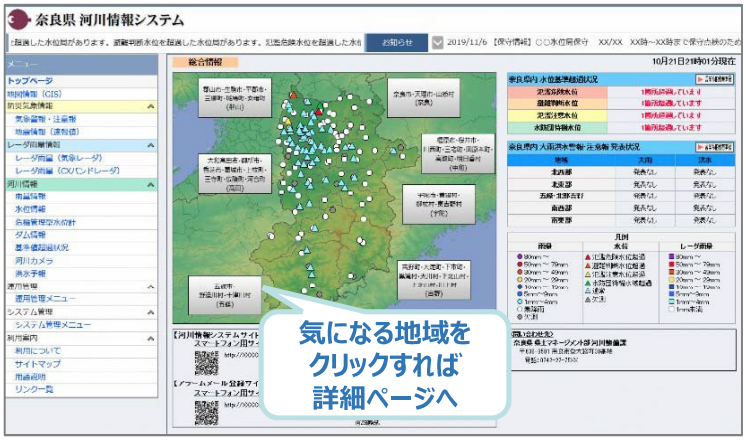
取組機関名	奈良県
具体的取組	避難行動のためのリアルタイム情報発信等に関する事項
主な内容	奈良県河川情報システムの改修及び危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置

○河川情報システムの改修、危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置

河川情報システムは新しいシステムに令和２年度末に移行しました。新しいシステムでは、地図上から雨量や水位の基準値超過情報を直接確認できるとともに、サーバーの二重化により安定的に情報を提供できるようになりました。加えて今年度は、きめ細かい情報の提供のため、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置を引き続き進めました。

雨量、水位などの情報が一目でわかる

観測した雨量や河川の水位、河川監視カメラの画像を、奈良県河川情報システム（ホームページ）で、リアルタイムに公開しています。 新しい河川情報システムでは、雨量や水位等の情報、カメラ位置、洪水浸水想定区域図を重ねて表示することができます。また、アラームメール登録・メール配信を行っており、地域や観測局を選択して登録すると、警報・注意報の発令情報や、河川水位が上昇した情報をメール受信できます。



きめ細かい情報の提供

きめ細かい水位情報やリアリティのある河川画像を提供し、早めの避難行動に活用いただくため、「危機管理型水位計」や「簡易型河川監視カメラ」の設置を進めています。R3年度末までに県内でそれぞれ68基、69基設置。
（今年度、大和川水系では危機管理型水位計を37基、簡易型河川監視カメラを30基設置。）
奈良県河川情報システムで追加設置分の情報を今年度末に公開予定です。

【危機管理型水位計】

【簡易型河川監視カメラ】

○効果等

・よりきめ細かく河川の監視ができ、河川情報の入手がより簡易になることが期待できる。

奈良県の取組状況
（ホットラインの構築・実施）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町、奈良県、奈良土木事務所、郡山土木事務所、高田土木事務所、中和土木事務所
具体的取組	県～市町村間のホットラインの整備に関する事項
主な内容	ホットライン構築による県・市町村の連絡体制強化、住民への情報提供の確実な実施

○県・市町村間のホットラインの構築、運用開始

県・市町村間の洪水対応ホットラインを構築し、大和川水系では平成30年6月1日から運用しています。

ホットラインの概要

県管理河川は中小規模の河川が多く、急激な水位上昇も考えられることから、避難の判断につながる情報の遅れや漏れを防ぐため、河川管理者から、避難指示等の発令を判断する市町村長等へ直接電話により伝達する仕組みです。

ホットライン概念図

土木事務所（河川管理者）	
水防周知河川	危険度レベル
	氾濫等の発生
	氾濫危険水位
	避難判断水位
水防警報（出動）	氾濫注意水位
水防警報（準備）	水防団待機水位
[水防情報]	

ライン②　ライン①

市町村（水防管理団体）	
避難情報	水防活動等
緊急安全確保	
避難指示	避難完了
高齢者等避難	
	水防団出動
	水防団配備

実施記録表（例）

実施後速やかに県土木事務所は県河川整備課に実施記録にて報告しました。

【○○土木事務所】

日時	連絡時刻	発信者	受信市町村	受信者	対象河川	伝達内容		
						水位観測所	観測時刻	ライン・危険水位
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								

○実施状況

令和3年度のホットラインは5月21日（梅雨前線）、7月15日（梅雨前線）、8月12日（前線）、8月15日（前線）、8月20日（前線）に行いました。大和川水系では**合計7回**（**ライン① 6回**、**ライン② 2回**）でした。土木事務所から市町村へ危険水位到達情報などが伝えられました。

実施内訳

令和3年5月21日　郡山土木→各市町村：**ライン①　2回**（竜田川、地蔵院川）
：**ライン②　1回**（竜田川）
7月15日　奈良土木→各市町村：**ライン②　1回**（秋篠川）
8月12日　郡山土木→各市町村：**ライン①　1回**（竜田川）
高田土木→各市町村：**ライン①　1回**（葛下川）
中和土木→各市町村：**ライン①　1回**（寺川）
8月15日　中和土木→各市町村：**ライン①　1回**（寺川）

○効果等

避難情報発令の判断材料となる危険水位などの情報を、河川管理者から市町村へ直接電話により伝えることで、情報伝達の遅れや漏れを防ぐことができました。

今年度の運用を踏まえて、限られた時間の中で迅速かつ的確に情報伝達できるように、協議会の場を活用して情報の伝達方法等について確認することが必要です。

奈良県の取組状況
（防災学習の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

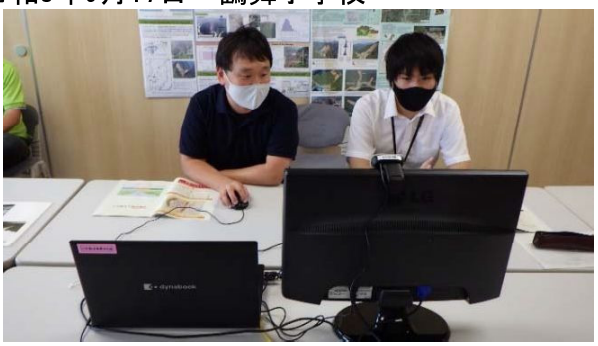
取組機関名	奈良県
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施

○日時・参加機関

・日　　時　：令和3年9月17日、令和3年10月13日
・参加機関　：（9月17日）
奈良市立鶴舞小学校、奈良県砂防ボランティア協会、
奈良県　県土マネジメント部　河川整備課、砂防・災害対策課。
小学4年生55名が参加しました。
（10月13日）
奈良市立辰市小学校、奈良県　県土マネジメント部　河川整備課。小学4年生43名が参加。
・場　　所　：　web開催
・概　　要　：　今年度は小学校を対象に水害に関する防災教育を2回行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のためweb形式で開催し、鶴舞小学校での講義では奈良県砂防ボランティア協会による紀の川大水害についての講演を行いました。web開催のため座学中心の授業でしたが、質疑応答や土砂流れの様子を模型を使って生徒に見てもらいました。

○学習の様子

○令和3年9月17日　鶴舞小学校



WEB講義の様子

模型を使用した土砂災害の説明

○令和3年10月13日　辰市小学校

WEB講義中の画面

WEB講義の様子

○効果等

・表層崩壊と深層崩壊について、どのような災害なのかを、図や絵を使って具体的に分かり易く説明した。

・大和川大水害について、当時の話を聞いてもらうことで、被害や復旧のことを知ってもらう。

・自然災害は自分の家にも関係があることを知り、改めて自然災害が恐いことを理解してもらい、適切な行動を促す。

奈良地方気象台の取組状況
（重要水防箇所合同巡視）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良地方気象台
具体的取組	水防活動支援のための情報公開、情報共有に関する事項
主な内容	重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施

○日時・参加機関

奈良県（王寺町・三郷町・斑鳩町域）
　12月 8日(水)王寺町、三郷町、斑鳩町、近畿日本鉄道(株)と参加

・場所：大和川直轄官流域
・概要：大和川において迅速かつ的確な水防活動に資するために、大和川沿川自治体・大和川河川事務所等と合同で、重要水防箇所の状況を巡視しました。
重要水防箇所評定基準の見方、洪水時の注意点を踏まえて、現地の状況を確認した他、河床掘削や堤防補強・堤防法尻補強などの説明を受けました。

○巡視の様子

奈良地方気象台の取組状況
（水災害教育等の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良地方気象台
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	小中学校や地域を対象とした水災害教育等の実施

○日時・参加機関

・場所：平城公民館にて出前講座
・概要：　7月27日(火)に平城公民館が募集した【子どもお天気教室】に、平城、西大寺北小学校区の児童9名（保護者4名）の応募があり、準備できない急な大雨と、準備のできる台風による大雨について出前講座しました。説明はなるべく短くしてお天気やキキクルに関したクイズの時間を長くして、児童が飽きることがないようにしました。特に急な大雨については、命に係わる大切なことですが、怖がらせないように気を付けて話しました。

○出前講座の様子

○参加者からの意見と感想

事後アンケート（公民館実施）には「お天気のことがよくわかった」、「また参加したい」等の声があり、大雨に対する対応、キキクル等に興味を持ってもらうきっかけになったと思いました。

大和川河川事務所の取組状況
（合同巡視による重要水防箇所の再点検を実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町 近畿日本鉄道(株)、奈良県、奈良地方気象台、近畿地整（大和川河川事務所）
具体的取組	水防活動支援のための情報公開、情報共有に関する事項
主な内容	重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施

○日時・参加機関

大阪府
- 12月 2日(木) 大阪府、柏原市、藤井寺市、松原市、八尾市、大和川右岸水防事務組合、
  大阪管区気象台、近畿日本鉄道(株)、大阪市高速電気軌道(株)
- 12月 3日(金) 大阪府、松原市、大阪市、堺市、大和川右岸水防事務組合、
  大阪管区気象台、大阪市高速電気軌道(株)、南海電気鉄道(株)、近畿日本鉄道(株)

奈良県
- 12月 8日(水) 奈良県、奈良県（郡山土木）、斑鳩町、王寺町、三郷町
  奈良地方気象台、近畿日本鉄道(株)
- 12月 9日(木) 奈良県（奈良土木）、奈良県（郡山土木）、大和郡山市、安堵町
- 12月10日(金) 川西町、三宅町、広陵町、河合町、

大和川河川事務所を含め　24機関　延べ人数112名で実施しました。
- 場所：大和川直轄官流域
- 概要：大和川において次期出水期に備え、迅速かつ的確な水防活動に資するために、大和川沿川自治体・水防事務組合・大和川河川事務所が合同で除草終了後の堤防等を巡視しました。重要水防箇所評定基準、洪水時の注意点に基づき、現地の状況や今年度の避難情報に関するガイドラインの改定に伴う危険箇所を確認した他、河床掘削や堤防補強・堤防法尻補強(粘り強い堤防)の施工状況も視察し、次期出水期に向けての注視箇所の意見聴取を行いました。

○巡視の様子

大阪府

柏原市上市地先

藤井寺市船橋町地先

八尾市若林町地先

大阪市住吉区遠里小野地先
（南海高野線鉄橋）

大阪市東住吉区久田地先

斑鳩町目安地先

奈良県

大和郡山市番条地先

広陵町萱野地先

河合町保田地先

安堵町窪田地先

三郷町立野南地先

王寺町元町地先

○参加機関からの意見

○他市域を含め合同で巡視することで他市の水防情報や危険箇所も情報共有ができた。次期出水期の水防活動に役立てたい。
○過去の大きな出水である、H29年台風21号時の河川水位上昇時の情報支援、それに対応する工事状況の確認ができた。
○河川の増水や越水に対する堤防の補強、河道掘削、堤防法尻の対策工事の状況が確認できた。
　引き続き対策工事を実施してほしい。
○ガイドラインの改定に伴い情報共有することとなった危険箇所を確認する良い機会となった。
○ヌートリアやモグラなどの巣穴による被害にも注意が必要

令和４年度 機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機　　関　　名	取組状況
1	奈良市	警戒レベルに応じた市の防災体制の見直し
2	大和高田市	
3	大和郡山市	
4	天理市	
5	橿原市	
6	桜井市	
7	御所市	
8	生駒市	職員研修の実施
9	香芝市	気象防災ワークショップ
10	葛城市	
11	平群町	
12	三郷町	岡垣内地区雨水溢水工事
13	斑鳩町	まるごとまちごとハザードマップの整備
14	安堵町	台風の接近・上陸に伴う大和川の洪水を対象とした、安堵町の避難指示発令等に着目したタイムライン（防災行動計画）
15	川西町	
16	三宅町	
17	田原本町	
18	高取町	
19	明日香村	地震を想定した防災訓練
20	上牧町	
21	王寺町	防災教育や防災知識の普及に関する事項
		避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項
22	広陵町	
23	河合町	
24	大淀町	
25	奈良県	水害リスク空白地の解消
		洪水を安全に流すためのハード対策の実施
		ホットラインの構築・実施
		防災学習の実施
		水防訓練
26	近畿日本鉄道 株式会社	
27	西日本旅客鉄道 株式会社	
28	奈良地方気象台	防災気象情報の改善
		防災教育や防災知識の普及啓発
29	近畿地整 大和川河川事務所	危険個所合同巡視

奈良市の取組状況
（警戒レベルに応じた市の防災体制の見直し）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	奈良市
概要	「避難情報に関するガイドライン」（令和３年５月、内閣府）及び同ガイドラインに基づき気象庁が作成した「防災気象情報とその利活用」（令和４年３月、気象庁）、また、令和４年６月から気象庁のキキクル（危険度分布）の発表区分等が変更となることを受け、本市の防災体制を見直した。

警戒レベル	防災気象情報等（いずれか１つ）	防災体制（基準※）	奈良市の対応（基準※）	地震等
1	早期注意情報（警報級の可能性）	－	（心構えを一段高める、連絡体制確認等）	－
2	大雨・洪水注意報 水防団待機水位到達	第１次防災体制（災害準備体制）	・危機管理課による情報収集	
	警報に切り替える可能性が高い注意報 氾濫注意情報 氾濫注意水位到達	第２次防災体制（災害注意体制）	・危機管理監又は参事等による情報収集・判断 ・本部員は自宅スタンバイ ・状況により、災害警戒本部の設置及び自主避難のための避難所の開設	震度４
3	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報 避難判断水位到達	第３次防災体制（災害警戒体制）	・高齢者等避難発令（防災スピーカー等での伝達） ・災害警戒本部の設置 ・自主避難のための避難所又は１次避難所の開設 ・避難所配置職員（1次Aペア）は自宅スタンバイ	
4	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 氾濫危険水位到達	第４次防災体制（災害対策体制）	・避難指示発令（サイレン音を含む防災スピーカー、緊急速報メール等による伝達） ・災害対策本部の設置 ・１次避難所などの開設	震度５弱以上（自動設置）
5	大雨特別警報 氾濫発生情報 堤防天端水位到達、越水	第５次防災体制（全庁的災害対策体制）	・緊急安全確保発令（サイレン音を含む防災スピーカー、緊急速報メール等による伝達） ・全庁的な災害対策 ・２次避難所を含めた避難所の開設	被害の状況による

主な修正点

・内閣府や気象庁での変更点を踏まえ、「気象庁のキキクル（危険度分布）中心の基準」から「警報・特別警報等中心の基準」に修正
…現行基準では、「避難勧告と避難指示」の判断基準に重きを置き、キキクルの「うす紫と濃い紫」が決め手となっていたことから、「キキクルを中心」に設定していた

➡「うす紫と濃い紫」のキキクルが令和４年６月から「紫」に一本化されることを受け内閣府の考え方に整合させ、「警報・特別警報等中心の基準」に修正

- 「キキクル」は、引き続き、先行指標や避難指示等の発令地域の絞り込みに活用
- 内閣府のガイドラインに整合させ、シンプルな防災体制に変更
- 内閣府のガイドラインに整合させ、災害対策本部の設置を警戒レベル３から４に変更
- あくまで「基準」であることから、「災害の状況に応じて柔軟に対応」を明記

生駒市の取組状況

（職員研修の実施）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	生駒市
具体的取組	職員研修
主な内容	令和２～４年度入庁職員に対し、土のう作成の研修を実施した。毎年新入庁職員を対象としていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により中止していたものを今年度より再開したものである。 また、災害時に避難所に参集する職員及び担当する職員に対し、それぞれの避難所において施設担当者との顔合わせ、現地施設や災害時の業務について確認を行った。これは令和３年度生駒市総合防災訓練実施後の反省として、各避難所の参集職員及び担当職員の知識不足が指摘されたため、今年度より開始したものである。会議室などで講義を行う形式ではなく、実際に現地で資機材等を確認しながら行うことで、職員の災害対応業務に関する意識向上を図った。

○土のう研修概要

■日　時　：　令和４年５月３０日（月）
■場　所　：　生駒市浄水場
■参加者　：　令和２～４年入庁職員
■実施内容　：　災害時に使用する土のうを出水期前に作成、備蓄

○避難所職員研修概要

■日　時　：　令和４年７月以降順次
■場　所　：　生駒市内各避難所・緊急避難場所35施設
■参加者　：　各避難所・緊急避難場所の参集職員及び担当職員、施設管理者等
■実施内容　：（1）避難所開設業務についての説明
（2）施設内の設備・物資の配置確認
（3）発電機・無線機等、機器の使用方法説明、訓練
（4）質疑応答等

○研修の様子

香芝市の取組状況
（気象防災ワークショップ）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	香芝市、高取町、奈良地方気象台
具体的取組	防災気象情報を活用し、避難情報発令の判断力向上を目的とする対面式ワークショップを実施する。
主な内容	防災気象情報の学習、災害対応グループワークを奈良地方気象台、高取町と合同で実施する。

○日時・参加機関

○日時
令和５年２月１０日（金）

○場所
香芝市総合福祉センター

○参加機関
香芝市、高取町、奈良地方気象台

○概要
・住民の命を災害から守る避難情報の発令判断に、防災気象情報をどのように活用するかワークショップを通し考えることで実践力を身に付けます。
・奈良地方気象台より防災気象情報について解説を受けることで、市職員の気象情報に関する知識の向上を図ります。
・災害対応グループワークを高取町職員と合同で行うことで、多様な議論や意見交換による新たな気づきが期待できます。
・香芝市の水防担当者、災害対応担当者が参加することで、今後の大和川上流部における減災対策に活きる知識の習得を見込めます。

○ワークショップの様子

※実施前のため写真無し

○参加機関からの意見

※実施前のため掲載無し

三郷町の取組状況
（岡垣内地区雨水溢水対策工事）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	三郷町
具体的取組	雨水溢水対策工事（岡垣内地区）
主な内容	大和川の水位上昇に伴う溢水箇所（岡垣内地区）の内水対策工事を実施した。

○概要

・平成２９年１０月に発生した台風２１号による大雨の影響により、町内各地で内水被害が発生したことから、これらの被害を解消、若しくは軽減すべく、実現可能な対策案の検討を行った。
→『平成３０年度　三郷町雨水溢水地区調査業務』

・岡垣内地区においては、浸水範囲が約1,000㎡、浸水深が最大0.5m、床上浸水が1棟、床下浸水が1棟の被害を受けた。

・令和３年度において、岡垣内地区内側溝壁からの擁壁立ち上げ（H=0.47m～0.96m）、逆水防止扉設置（４か所）を実施した。

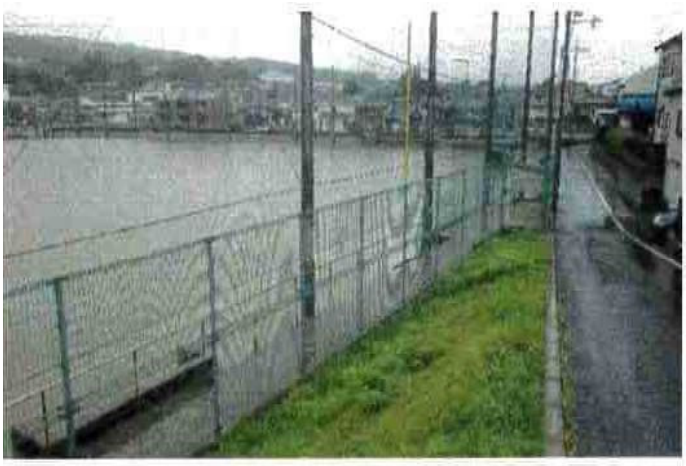
○報告書

岡垣内地区における対策工事→側溝壁からの擁壁立ち上げ、逆水防止扉設置

航空写真

※青色が溢水箇所

当時の被害状況写真



施工前

施工後

斑鳩町の取組状況
（まるごとまちごとハザードマップの整備）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

●取組機関名： 斑鳩町

●具体的取組：まるごとまちごとハザードマップの整備と活用
（令和5年度実施予定）

●主な内容：町内公共施設へのまるごとまちごとハザードマップの整備
と活用

●実施時期： 令和５年４月～

●事業概要：
浸水深や避難所等に関する情報を水害関連標識として生活空間である「まちなか」に表示することにより、日常時から水防災への意識を高めるとともに浸水深・避難所等の知識の普及・浸透等を図り、発災時には命を守るための住民の主体的な避難行動を促し、被害を最小限にとどめることを目的に、令和5年度に町内公共施設へのまるごとまちごとハザードマップを整備し、活用を予定しています。

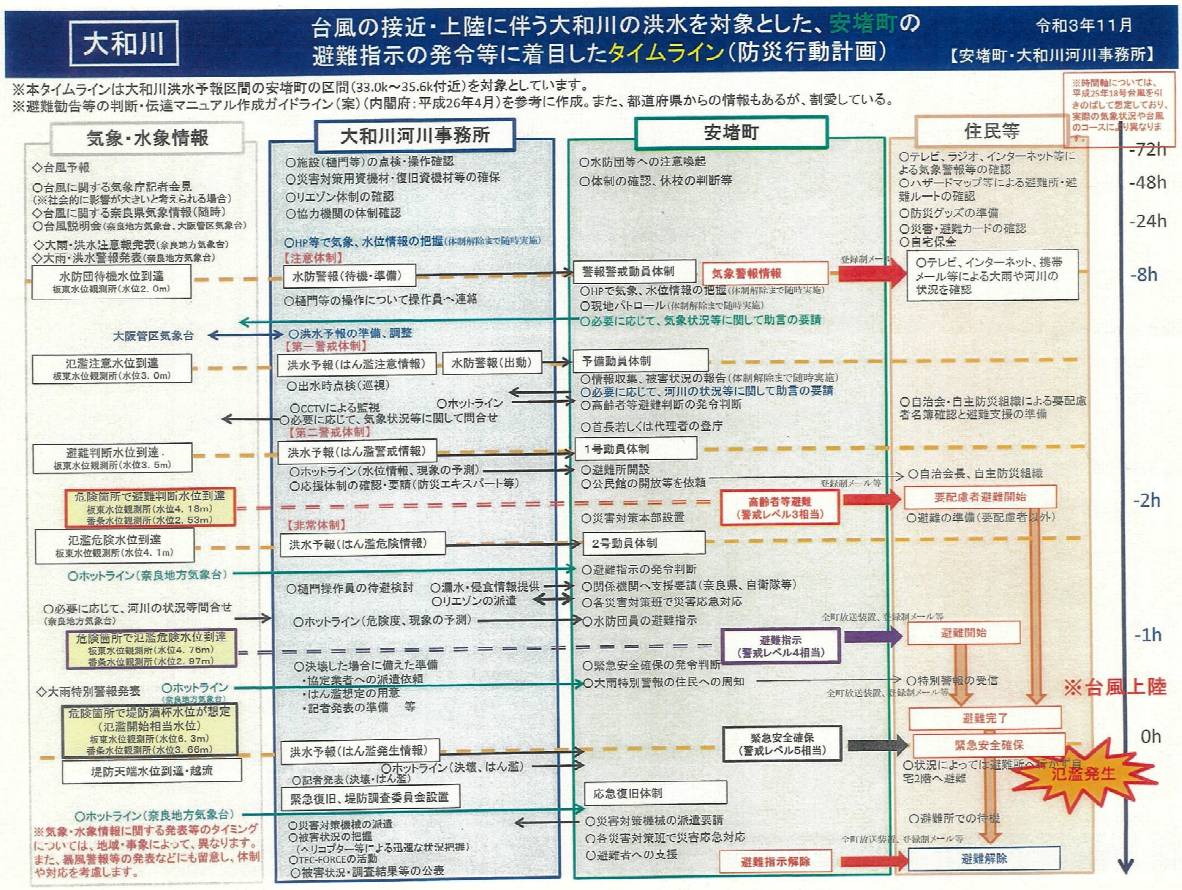
■参考（国土交通省が設置したまるごとまちごとハザードマップ）

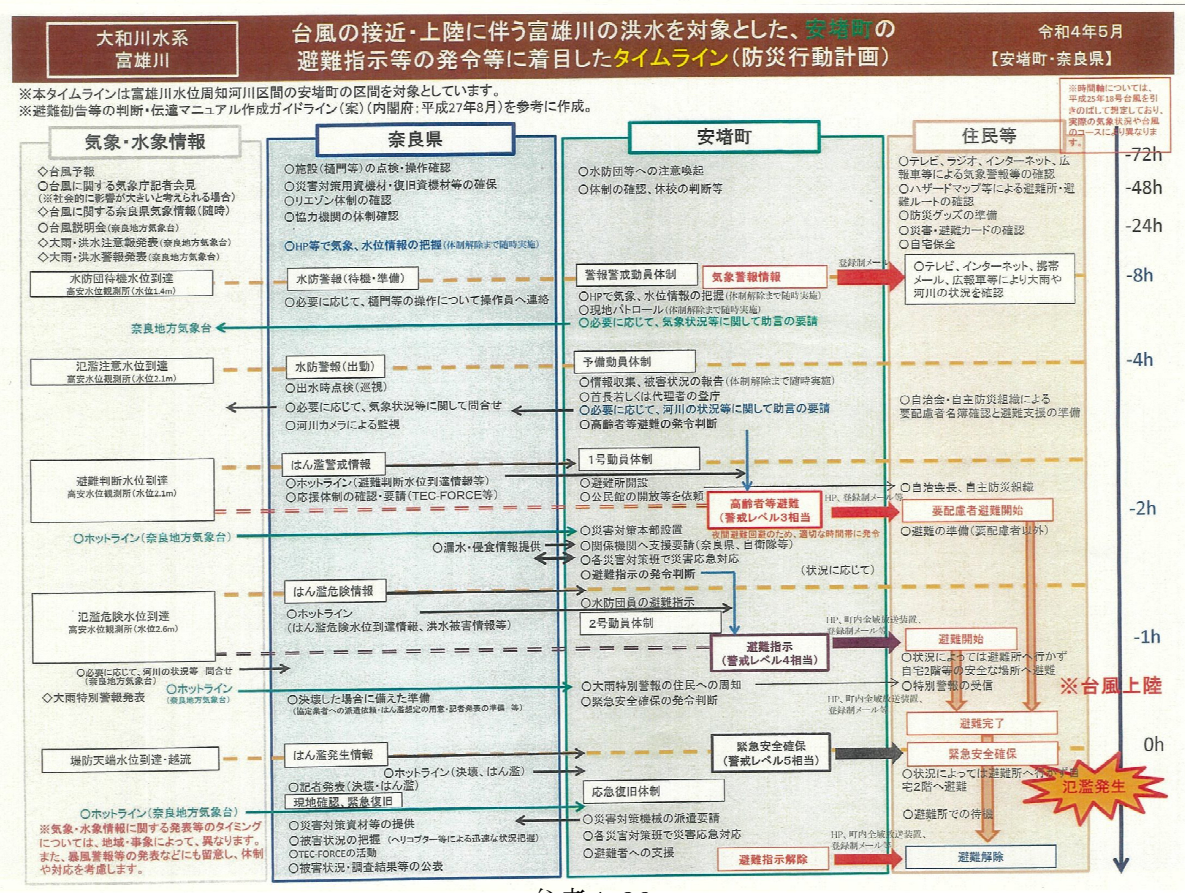
安堵町の取組状況

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	安堵町
具体的な内容	避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項





安堵町の取組状況

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	安堵町
具体的な内容	応急的な避難場所の確保
主な内容	企業と緊急避難場所に関する協定を締結して、緊急避難場所を確保した。

避難所一覧

この防災ハザードマップは、近年全国各地で発生している災害に備えて、住民のみなさんにあらかじめ地域の災害特性を知っていただき、災害時に町が発表・発令する避難情報についてまとめたものです。災害時の避難行動は、住んでいる場所や建物の構造及び身体状況等によっても変わってきます。各自にあった避難行動を考え行動していただくことが一番重要です。自分自身や大切な家族等を守るためにも、ぜひこの防災マップを参考に各自の避難行動について考えましょう。

災害時の指定緊急避難場所

【○…避難可　×…避難不可】

No	施設名	所在地	電話 0743	地震	洪水	内水氾濫	大規模火災
1	安堵中央公園	窪田628-1	－	○	×	×	○
2	あつみ台公民館	東安堵1-34	－	○	○	○	×
3	小泉苑公民館	東安堵34-6	－	○	○	○	×
4	西安堵公民館	西安堵742	57-2001	○	×	○	×
5	東安堵市公民館	東安堵1331		○	○	○	×
6	岡崎公民館	岡崎194-3	－	×	×	○	×
7	柿の里団地集会所	東安堵1787-14	－	×	×	○	×
8	若草の里集会所	西安堵17-64	－	○	×	○	×
9	かしの木台集会所	かしの木台1-4-1	－	○	×	○	×
10	上窪田公民館	窪田137	－	○	×	○	×
11	北窪田自治会館	窪田20-1	－	○	×	○	×
12	東窪田自治会館	窪田93-11	－	○	×	○	×
13	中窪田自治会館	窪田394-6	－	○	×	×	×
14	下窪田自治会館	窪田984-5	－	○	×	×	×
15	窪田中央公民館	窪田316	67-4212	×	×	○	×
16	笠目公民館	笠目534	57-3858	×	×	○	×

指定緊急避難場所について

災害の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所。洪水、津波、地震等の災害種別ごとに指定。

指定緊急避難場所のイメージ

洪水時に対する指定緊急避難場所の例
対象とする災害に対し、安全な構造である建築物

地震、大規模な火事等に対する指定緊急避難場所の例
対象とする災害の危険が及ばない学校のグラウンド　駐車場等

緊急避難場所協力施設

No	施設名	所在地	電話 0743
1	竹野株式会社 法隆寺第三工場	東安堵1577-1	59-1771
2	株式会社正英製作所 法隆寺センター	笠目520	57-2244
3	ダイゴー株式会社 法隆寺工場	岡崎268-1	57-5641
4	吉田ハイツ	笠目549-1	57-4589

災害時の指定避難所

【○…避難可　×…避難不可】

No	施設名	所在地	電話 0743	地震	洪水	内水氾濫	大規模火災
1	安堵こども園	東安堵785	57-2831	○	○	○	○
2	トーク安堵カルチャーセンター	東安堵579	57-2281	○	○	○	○
3	安堵小学校	東安堵1469-3	57-2004	○	×	○	○
4	安堵中学校	窪田465-1	57-2028	○	×	×	○
5	安堵町福祉保健センター	東安堵853	57-1590	○	○	○	○
6	安堵中央公園体育館	窪田628-1	58-4011	○	×	×	○
7	総合センター「ひびき」	東安堵557-1	57-7004	○	○	○	○
8	安堵町交流館なでしこ	東安堵165-1	57-1511	○	×	○	○
9	安堵町文化観光館「四弁花」	東安堵1352-1	57-1640	○	○	○	○

指定避難所について

災害の危険があり避難した住民等が、災害の拡大がなくなる迄で必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを想定した施設

指定避難所のイメージ

学校　体育館等の施設
公民館等の公共施設

福祉避難所

【○…避難可　×…避難不可】

No	施設名	所在地	電話 0743	地震	洪水	内水氾濫	大規模火災
1	老人総合福祉施設あくなみ苑	岡崎33-1	59-0070	○	×	○	○
2	特別養護老人ホームもちの木	東安堵218-1	59-3977	○	×	○	○

1

避難所マップ

要配慮者関連施設

No	施設名	所在地	電話 0743
1	安堵こども園	東安堵785	57-2831
2	特別養護老人ホームもちの木	東安堵218-1	59-3977
3	安堵小学校	東安堵1469-3	57-2004
4	安堵中学校	窪田465-1	57-2028
5	安堵町福祉保健センター	東安堵853	57-1590
6	老人総合福祉施設あくなみ苑	岡崎33-1	59-0070
7	介護老人保健施設若草園	岡崎58	57-5535
8	グループホーム安堵園	西安堵570-1	23-1260
9	安堵中央公園体育館	窪田628-1	58-4011
10	総合センター「ひびき」	東安堵557-1	57-7004

要配慮者関連施設と防災関連施設の記したマップは P.12 以降をご覧ください

防災関連施設

No	施設名	所在地	電話 0743
1	安堵町役場	東安堵958	57-1511
2	安堵町福祉保健センター	東安堵853	57-1590
3	安堵町上下水道課	東安堵850	57-2333
4	安堵町社会福祉協議会	東安堵853	57-2523
5	西和消防署東分署	東安堵957	57-4156
6	西和警察署安堵駐在所	東安堵931-1	0746-72-0110
7	安堵郵便局	東安堵964-2	57-2945
8	奈良県農協安堵支店	東安堵1260-1	57-2017
9	安堵町消防団	東安堵958	57-1511

2

明日香村の取組状況
（地震を想定した防災訓練）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	明日香村
具体的取組	令和４年１１月２７日（日）大地震を想定した防災訓練を実施しました。
主な内容	明日香村・明日香村消防団・全住民対象（参加者１，５１８名）による防災訓練を実施。

○日時・参加機関

明日香村・明日香村消防団・全住民（参加者１，５１８名）

令和４年１１月２７日（日）午前９：００～

当日の訓練スケジュール

【1部】避難誘導訓練

８時５５分　訓練開始の事前周知放送が防災無線で入る。

９時００分　地震発生！緊急地震速報が防災無線で鳴る！

９時０１分　地震が収まる。各大字の集合場所へ避難開始

９時２０分　各大字の集合場所へ集合完了。各大字単位で安否確認を実施。

９時３０分　村が指定する避難場所へ避難開始。

１０時００分　各大字住民がそろい次第、避難訓練終了。

【2部】防災活動体験

１１時００分～１２時００分

段ボールベットや簡易トイレ等防災資器材の見物や、ＡＥＤ体験等を指定避難所である聖徳中学校にて実施。

～防災訓練の目的と目標～

目的　：　自分とその周辺の命を守るためには、どのように避難・救助をすればよいかを考え、実践する。

目標　：　①避難連絡体制の確認。
②避難経路や避難場所、避難方法の確認と実践。
③配慮が必要な方の避難方法や支援の確認と実践。
④住民同士が協力しての、安否確認・避難行動の実践。

⇒ 地震発生時を想定し、身を守る行動～避難方法の確認・実践。

～当日までの事前準備として実施～

・令和4年10月11日(火)19:00～　明日香村中央公民館
防災訓練の事前説明会
・防災訓練の趣旨・概要説明
・質疑応答・意見交換等

○当日の様子

◆ 役場内の訓練状況

▲ 災害対策本部の設置及び、住民・消防団への情報伝達を行う様子。

◆【1部】避難誘導訓練

▲ 地域住民の避難と、集合場所での安否確認の様子。

◆【2部】防災活動体験

▲ 地域住民による段ボールベッド等の見物、消防署員の指導によるAED体験の様子。

王寺町の取組状況
（小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	王寺町
具体的な内容	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施

○事業概要

・昭和57年の台風10号による水害で、王寺駅周辺が浸水した事実をマンガで描き、当時の惨状を知ってもらう。

・当時の若手職員の目線から、災害発生→復旧・復興→防災のまちづくりの展開で描き、防災意識の芽生え、「自助」「共助」「公助」「互近助」について正しく学び、今後の防災に関する心構えを養うとともに、当時の被害状況や、そこから復興してきた様子を語り継ぐことにより災害の記憶の風化を防ぐことを目的とする。

○あらすじ

・「自然災害から人々とくらしを守る」をテーマとした社会科の授業において、57水害について調べるという課題が出たため、4年生の児童（蒼）が父（蒼一郎）といずみスクエア防災学習コーナーを訪れたところ、偶然その場に居合わせた町職員が、57水害について学ぶ親子の会話を聞くことで、当時若手職員として復旧作業に奮闘していたことを思い出す。

○イメージ

王寺町の取組状況
（タイムラインに基づく訓練の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	王寺町
具体的な内容	避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項
主な内容	タイムラインに基づく訓練の実施

○日時・概要

・令和4年7月25日（月） 14時30分～16時30分

～概要～
㈱建設技術研究所と共同で開発した、災害対応業務に必要な情報を管理し職員の参集や避難情報の発令等タイムラインに沿ってとるべき災害対応行動を共有できる「防災行動支援システム」を活用し、大雨による河川氾濫の懸念が生じた際に、タイムラインに沿って水防活動や避難指示、避難所の開設等の措置を迅速かつ的確に実施できるよう、災害対策本部運営訓練を実施

○想定

・7月30日（土）夜から31日（日）朝にかけて発生した線状降水帯による大雨に伴い、大和川王寺水位が最大6.5mまで上昇。タイムラインに従い、氾濫に備えた水防活動や避難所開設を実施

○開催の様子

奈良県の取組状況
（水害リスク空白地の解消）

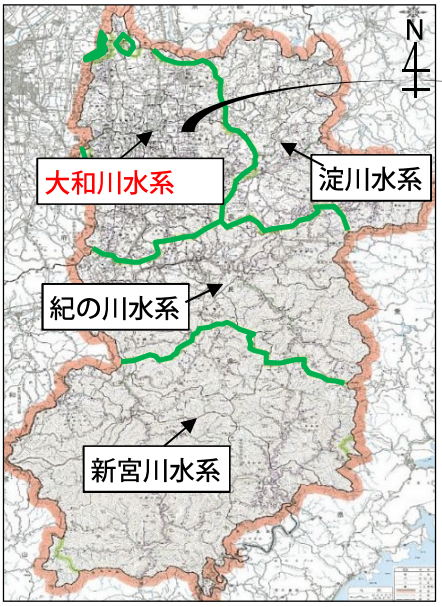
水防災意識社会
再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	奈良県河川整備課
具体的取組	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
主な内容	中小河川の浸水想定区域図の作成

○奈良県の洪水浸水想定区域図作成

水防法改正（R３年）により、浸水想定区域図作成対象が水位周知河川以外のその他河川まで拡大されたことを受けて、奈良県管理のその他河川について想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図作成を行い、水害リスク空白域の解消を図る。



大和川水系内では奈良県の人口の約85％（約110万人）が暮らしており、人口集中地帯となっています。

大和川水系内に流れる県管理河川158河川の内、作成済みの水位周知河川（18河川）及びダム等下流の5河川を除く残りの中小河川について、洪水浸水想定区域の作成を進めています。

○事業実施効果

県管理の中小河川の洪水浸水想定区域図作成については令和4年度末に作成完了予定
浸水想定区域図の情報を基に市町村は今後、洪水ハザードマップ作成・更新を進める予定

＜洪水浸水想定区域図※（国、都道府県）＞

＜洪水浸水想定区域の指定＞
想定しうる最大規模の降雨による浸水が想定される区域、その水深及び浸水継続時間等について、河川管理者が指定

＜洪水ハザードマップ（市区町村）＞

＜洪水ハザードマップの作成・周知＞
市町村において、水害時の住民避難に活用するために、浸水想定区域や浸水深、避難場所・経路、地下街等、要配慮者施設等の情報を示した洪水ハザードマップの作成・周知を行う。

奈良県の取組状況
（洪水を安全に流すためのハード対策の実施）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

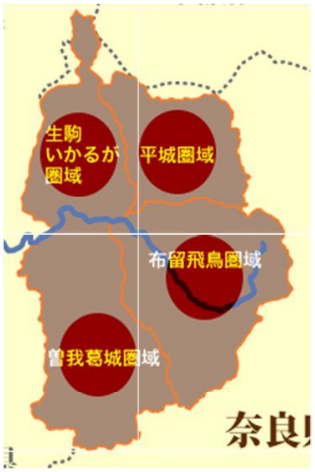
取組機関名	奈良県奈良土木事務所、郡山土木事務所、高田土木事務所、中和土木事務所
具体的取組	洪水を河川内で安全に流す対策に関する事項
主な内容	整備計画に基づく河川改修の実施

○整備計画に基づく河川改修

計画堤防断面に対して高さや幅が不足している区間では、洪水により氾濫する恐れがあります。
洪水を河川内で安全に流す対策としては、学識経験者や地方公共団体の長や住民の方々等の意見を踏まえて策定された「大和川水系河川整備計画」に基づいて改修工事を実施しています。

大和川水系河川整備計画

平城圏域	生駒いかるが圏域	布留飛鳥圏域	曽我葛城圏域
・岩井川	・竜田川	・大和川（初瀬川）	・葛下川
・秋篠川	・富雄川	・布留川北流	・高田川
・地蔵院川	・三代川	・布留川南流	・葛城川
・蟹川	・実盛川（大門川）	・寺川	・曽我川
・菩提仙川	・岡崎川	・飛鳥川	・安位川
・乾川		・米川	・尾張川
・能登川		・中川	・広瀬川
・菰川		・新川	・小金打川
・菩提川			・土庫川



○令和４年度整備箇所

令和４年度に改修工事を実施している主要な箇所について紹介します。

秋篠川（護岸改修工事）

秋篠川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和4年度は、護岸工事を実施しています。

富雄川（護岸改修工事）

富雄川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。 令和4年度は、護岸工事を実施しています。

曽我川（護岸改修工事）

曽我川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和4年度は、護岸工事を実施しています。

小金打川（護岸改修工事）

小金打川では、概ね10年に一度の確率で発生する降雨の洪水を安全に流下させるため、河川改修を行っています。
令和4年度は、護岸工事を実施しています。

奈良県の取組状況
（ホットラインの構築・実施）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町、奈良県、奈良土木事務所、郡山土木事務所、高田土木事務所、中和土木事務所
具体的取組	県～市町村間のホットラインの整備に関する事項
主な内容	ホットライン構築による県・市町村の連絡体制強化、住民への情報提供の確実な実施

○県・市町村間のホットラインの構築、運用開始

県・市町村間の洪水対応ホットラインを構築し、大和川水系では平成30年6月1日から運用しています。

ホットラインの概要

県管理河川は中小規模の河川が多く、急激な水位上昇も考えられることから、避難の判断につながる情報の遅れや漏れを防ぐため、河川管理者から、避難指示等の発令を判断する市町村長等へ直接電話により伝達する仕組みです。

ホットライン概念図

土木事務所（河川管理者）	
水防周知河川	危険度レベル
	氾濫等の発生
	氾濫危険水位
	避難判断水位
水防警報（出動）	氾濫注意水位
水防警報（準備）	水防団待機水位
[水防情報]	

ライン②　ライン①

市町村（水防管理団体）	
避難情報	水防活動等
緊急安全確保	
避難指示	避難完了
高齢者等避難	
	水防団出動
	水防団配備

実施後速やかに県土木事務所は県河川整備課に実施記録にて報告しました。

実施記録表（例）

【○○土木事務所】

日時	連絡時刻	発信者	受信市町村	受信者	対象河川	伝達内容		
						水位観測所	観測時刻	ライン・危険水位
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								
令和　年　月　日	時　分						時　分	
【連絡・確認事項】								

○実施状況

令和４年度のホットラインは6月22日、8月10日、8月17日、9月3日、9月9日、9月27日に行いました。大和川水系では**合計9回**（**ライン①　6回**、**ライン②　3回**）でした。土木事務所から市町村へ危険水位到達情報などが伝えられました。

実施内訳

令和4年6月22日	郡山土木→各市町村：	ライン①　1回	（地蔵院川）
	奈良土木→各市町村：	ライン①　1回	（地蔵院川）
8月10日	高田土木→各市町村：	ライン①　1回	（高田川）
8月17日	中和土木→各市町村：	ライン①　1回	（寺川）
		ライン②　1回	（寺川）
9月　3日	奈良土木→各市町村：	ライン②　1回	（秋篠川）
9月　9日	奈良土木→各市町村：	ライン②　1回	（寺川）
		ライン①　1回	（地蔵院川）
9月27日	高田土木→各市町村：	ライン①　1回	（葛下川）

○効果等

避難情報発令の判断材料となる危険水位などの情報を、河川管理者から市町村へ直接電話により伝えることで、情報伝達の遅れや漏れを防ぐことができました。

今年度の運用を踏まえて、限られた時間の中で迅速かつ的確に情報伝達できるように、協議会の場を活用して情報の伝達方法等について確認することが必要です。

奈良県の取組状況
（防災学習の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	奈良県河川整備課、砂防・災害対策課
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	教育機関や地域を対象とした水害境域の実施

○日時・参加機関

・日時：①令和4年10月11日　②令和4年10月17日　③令和4年11月22日
・概要

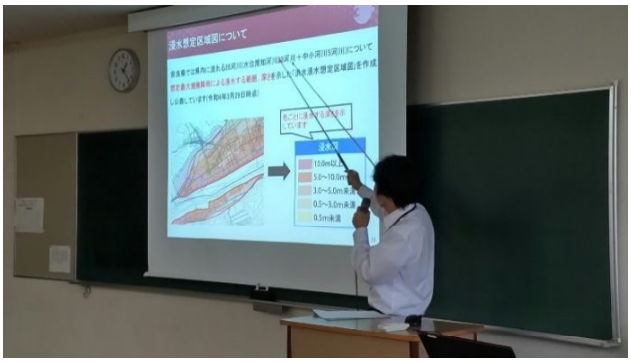
①令和4年10月11日
（参加機関）奈良県河川整備課　　辰市小学校
新型コロナウイルス感染症拡大防止のためweb形式で開催し、小学4年生55名に水害から身を守るための防災学習を行いました。

②令和4年10月17日
（参加機関）奈良県河川整備課、砂防・災害対策課　奈良佐保短期大学
短大生18人を対象に対面で開催。奈良県の地理的特性を踏まえて、水害と土砂災害の事例を紹介しました。介護福祉士を目指している学生が多いため、要配慮者利用施設の避難確保計画作成の重要性を中心に説明しました。

③令和4年11月22日
（参加機関）奈良県河川整備課、砂防・災害対策課　ＦＭヤマト
奈良県の中和地域を放送エリアとするＦＭヤマトで防災学習を開催。一般の方が5名参加し、避難に必要な情報収集として、奈良県の河川情報システムと土砂災害警戒システムを紹介し、利用促進を促しました。最後に参加者へのアンケートを実施し、講義の評価をしていただきました。

○学習の様子

奈良佐保短期大学の様子



ＦＭヤマトの様子

奈良県防災総合訓練への参加
（水防訓練）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	奈良県、橿原市、橿原市消防団、航空自衛隊幹部候補生学校、海上自衛隊
具体的取組	洪水時に堤防決壊を想定した水防訓練
主な内容	土のう積み訓練

○日時・参加機関

訓練名：奈良県防災総合訓練
日　時：令和4年10月23日　9時～12時
場　所：橿原運動公園
参加者：奈良県、橿原市、関係団体を含めて80機関が参加
概　要：令和4年10月23日午前8時頃、橿原市付近を震源とする最大震度７の地震が発生。地震発生と同時に橿原市全域において、建物・家屋の倒壊、土砂崩れの発生、道路の損壊、河川の決壊、水道・電気・ガス・電話などの施設の被害が相次いで発生。

○水防訓練の様子

奈良県防災総合訓練に参加し、水防訓練として「土のう積み」を実施しました。奈良県河川整備課、中和土木事務所　橿原市、橿原市消防団、航空自衛隊幹部候補生学校、海上自衛隊の6機関30名で参加し、洪水時の堤防決壊を想定した訓練を行いました。
橿原市消防団の指揮の下で土のう作成と運搬に役割分担を決めて、改良積土のう工の方式で土のう積を作成し、制限時間30分の中、各機関で連携しトラブル無く時間通りに訓練が終了しました。

訓練前の整列の様子

土のう袋作成の様子

土のう袋積みの様子

改良土のう工　完成

奈良地方気象台の取組状況（防災気象情報の改善）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	大阪管区気象台・奈良地方気象台
具体的取組	防災気象情報の改善に関する事項
主な内容	キキクル「黒」の新設と「うす紫」と「濃い紫」の統合

○日時・概要

・日時：令和４年６月30日から
・概要：キキクル（危険度分布）に警戒レベル５相当の**「災害切迫」（黒）**を新設するとともに、警戒レベル４相当を**「危険」（紫）**に統合することで、より分かりやすく危険度を伝えることができるように改善した。

キキクルの色	警戒レベル
黒 災害切迫	5相当
紫 危険	4相当
赤 警戒	3相当
黄色 注意	2相当
白(水色) 今後の情報等に留意	－

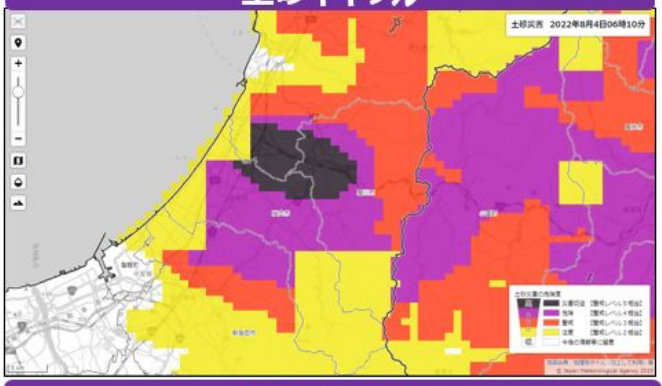
特別警報基準値超過を「黒」で表示

警戒レベル4の「紫」と一致

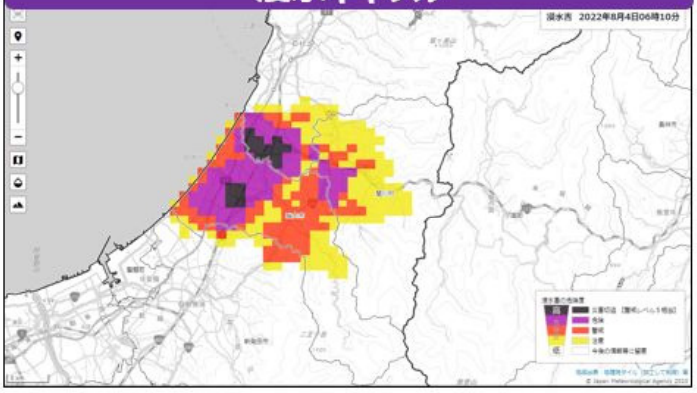
これまでのキキクル

これまでのキキクルの色	警戒レベル
濃い紫	－
うす紫	4相当
赤	3相当
黄色	2相当
白(水色)	－

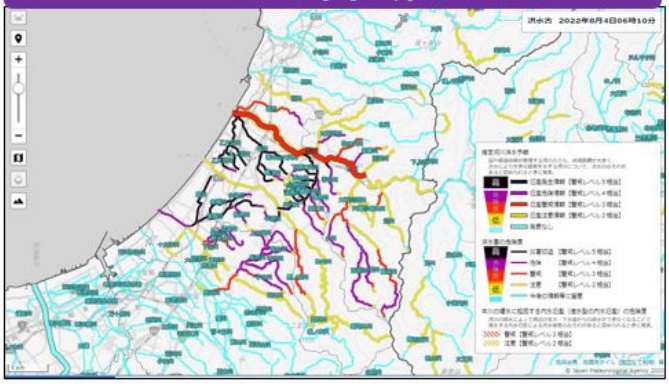
土砂キキクル



浸水キキクル



洪水キキクル



実際に黒が出現した事例　新潟県付近2022年８月４日06時10分

「黒」と「紫」の意味と住民等の行動例（左：洪水害、右：土砂災害）

色が持つ意味	状況	住民等の行動の例※1･2
災害切迫 大雨特別警報（浸水害）の指標に用いる基準に実況で到達	重大な洪水災害が切迫。洪水災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立退き避難がかえって危険な場合) **命の危険 直ちに身の安全を確保！**
＜警戒レベル４までに必ず避難！＞		
危険 3時間先までに警報基準を大きく超過した基準に到達すると予想	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害が発生する可能性が高い状況。	**水位が一定の水位を超えている場合には、安全な場所へ避難する。**※3

色が持つ意味	状況	住民等の行動の例※1
災害切迫 大雨特別警報（土砂災害）の指標に用いる基準に実況で到達	命に危険が及ぶ土砂災害が切迫。土砂災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立退き避難がかえって危険な場合) **命の危険 直ちに身の安全を確保！**
＜警戒レベル４までに必ず避難！＞		
危険 2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況。	**土砂災害警戒区域等の外へ避難する。**

「災害切迫」（黒）は、災害がすでに発生している可能性が高い状況であり、「災害切迫」（黒）を待つことなく、「危険」（紫）が出現した段階で、速やかに安全な場所に避難することが極めて重要である。

奈良地方気象台の取組状況（防災気象情報の改善）

水防災意識社会再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	大阪管区気象台・奈良地方気象台
具体的取組	防災気象情報の改善に関する事項
主な内容	大雨特別警報（浸水害）の新たな指標の導入

○日時・概要

・日時：令和４年６月30日から
・概要：大雨特別警報（浸水害）について、災害発生との結びつきが強いキキクル（危険度分布）の技術を用いて、災害が発生・切迫している警戒レベル５相当の状況に一層適合するよう改善した。

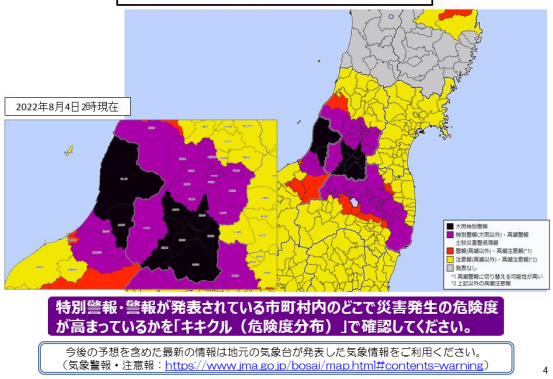
特別警報の指標に用いる基準値

大規模な浸水害を高い確度で適中させるよう指標、基準値を設定

中小河川氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように**流域雨量指数**の指標、基準値を設定	**内水氾濫に起因**する大規模な浸水害を適中させるように**表面雨量指数**の指標、基準値を設定
洪水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。	浸水キキクル「災害切迫」（黒）の判定に用いる。

- ✓ **大雨特別警報（浸水害）の対象地域を大幅に絞り込んだ発表が見込まれる。**
- ✓ **島しょ部など狭い地域への発表も可能となる。**
- ✓ **警戒レベル５相当の情報としての信頼度を高め、住民や自治体等の防災対応を強力に支援。**

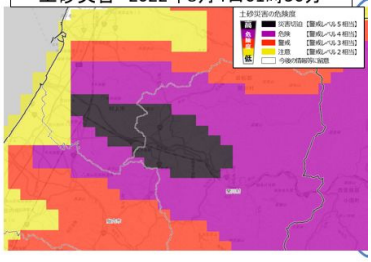
特別警報・警報の発表状況



３日19時15分に
山形県に大雨特別警報（浸水害）を発表
長井市、南陽市、米沢市、飯豊町、川西町、高畠町の6市町に発表
４日02時41分に小国町に大雨特別警報（浸水害・土砂災害）を発表

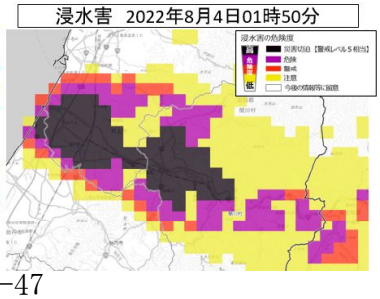
４日01時56分に
新潟県に大雨特別警報（浸水害・土砂災害）を発表
村上市、関川村の2市村に発表
４日04時05分　胎内市に発表

土砂災害　2022年8月4日01時50分



洪水害　2022年8月4日01時50分

浸水害　2022年8月4日01時50分



新潟県に
大雨特別警報発表時
のキキクル
2022年８月４日
01時50分

奈良地方気象台の取組状況（防災気象情報の改善）

水防災意識社会再構築ビジョン

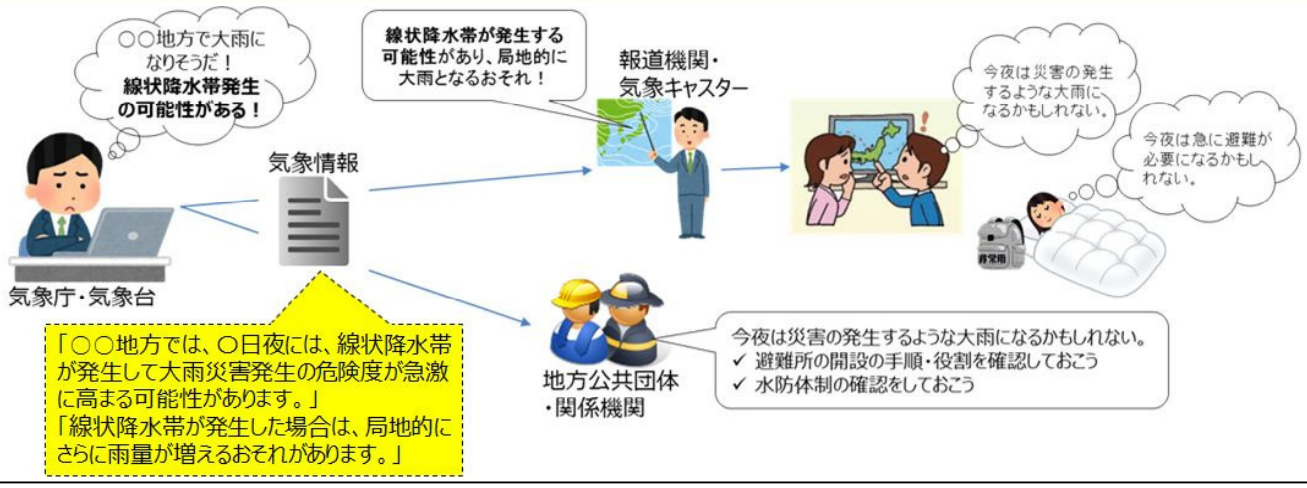
共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	大阪管区気象台・奈良地方気象台
具体的取組	防災気象情報の改善に関する事項

○日時・概要

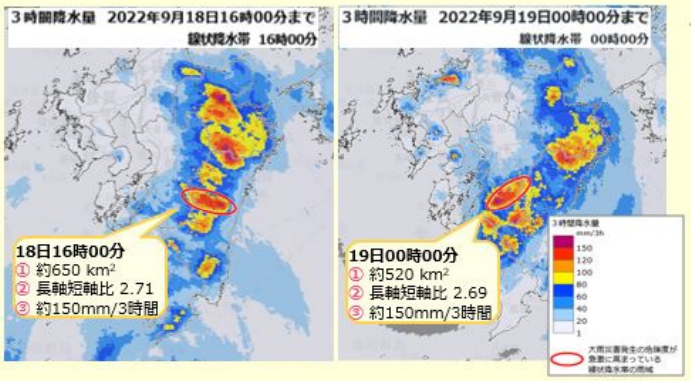
・日時：令和４年６月１日から
・概要：「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性がある程度高い場合、「気象情報」において半日程度前から地方予報区単位等での呼びかけを開始した。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。
- 市町村の防災担当の方々には、避難所開設の手順や水防体制の確認等災害に備えていただくことが考えられます。住民の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもってハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。
- この呼びかけのみで避難を促すのではなく他の大雨に関する情報とあわせてご活用ください。



９月17～19日に、半日程度前からの呼びかけを実施した事例

○ 線状降水帯が発生したときの３時間降水量



・9月17日早朝から18日の気象情報において、九州南部・奄美地方、九州北部地方に線状降水帯が発生する可能性がある旨を発表した。
・宮崎県（九州南部・奄美地方）、熊本県（九州北部地方）に線状降水帯が発生。

令和４年６月からの全国では

線状降水帯発生の呼びかけ「あり」発生「あり」は **13回に３回** 適中

線状降水帯発生の呼びかけ「なし」発生「あり」は **11回に８回** 見逃し

奈良地方気象台の取組状況
（防災教育や防災知識の普及啓発）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	奈良地方気象台
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	奈良新聞の解説原稿協力による啓発活動の実施

○日時・参加機関

・場所：奈良新聞紙面
・概要：県内地方紙の奈良新聞社が小学校に配布している「小学生新聞」に、水災害をはじめとした気象災害に係る解説原稿を提供。
また、デジタル版の「生活情報」に、台風シーズンに備えた風水害・土砂災害についての啓発・解説記事掲載の協力を行った。

○紙面の様子

小学生新聞紙面

奈良新聞デジタル

○今後の取組

・報道関係機関との取組は流域住民に対して、広く効率的に知識の共有や広報できる最も有効な手段であるため、機会を逃さず協力をお願いしていきたい。

大和川河川事務所の取組状況（危険箇所合同巡視）

水防災意識社会再構築ビジョン

取組機関名	奈良県、王寺町、三郷町、安堵町、河合町、広陵町、三宅町、川西町、大和郡山市、奈良市、奈良地方気象台松原市、松原市消防本部、大阪市、堺市、柏原市、藤井寺市、八尾市、大阪管区気象台、大阪市高速電気軌道(株)、大和川右岸水防事務組合、南海電気鉄道(株)、近畿地整（大和川河川事務所）
具体的取組	危険箇所の確認、情報共有に関する事項
主な内容	各市町域の危険箇所を各機関の防災関係者と確認、H２９の台風２１号時に浸水・溢水した範囲の確認、水位計・カメラの設置箇所等の確認、危険箇所解消のための工事実施箇所の確認

○日時・参加機関

奈良県
　１２月２０日（火）王寺町域･三郷町域･安堵町域 （参加機関:王寺町、三郷町、安堵町）
　１２月２１日（水）河合町域･広陵町域･三宅町域･川西町域 （参加機関:河合町、広陵町、三宅町、川西町）
　１２月２３日（金）大和郡山市域･奈良市域 （参加機関:大和郡山市、奈良市、奈良県、奈良地方気象台）
大阪府
　１月１２日（木）松原市域･大阪市域･堺市域 （参加機関:松原市、松原市消防本部、大阪市、堺市、大阪管区気象台
大阪市高速電気軌道(株)、大和川右岸水防事務組合、南海電気鉄道(株)）
　１月１３日（金）柏原市域･藤井寺市域･八尾市域 （参加機関:柏原市、藤井寺市、八尾市、大和川右岸水防事務組合
大阪管区気象台）

大和川河川事務所を含め　22機関　延べ人数77名で実施しました。
・場所：大和川直轄区間流域
・概要：大和川においていざ出水があった場合のために、水防事務組合・大和川沿川自治体・鉄道機関・気象台・大和川河川事務所が合同で、危険箇所の状況を巡視しました。その他にも、H２９の台風２１号時に浸水・溢水した範囲の確認、水位計・カメラの設置箇所等の確認、危険箇所解消のための工事実施箇所の確認を行いました。

○巡視の様子

河川合同巡視(上流)の様子

三郷町域

安堵町域

広陵町域

川西町域

大和郡山市域

奈良市域

河川合同巡視(下流)の様子

松原市域

堺市域

八尾市域

柏原市域（台風２１号で浸水・溢水範囲）

松原市域（危険箇所解消の工事実施）

大阪市域（カメラの設置箇所の確認）

○参加機関からの意見

○出水があった時に向けて、危険箇所の把握はしているが、改めて現地にて合同で確認できてよかった。
○普段、活用している川の防災情報で見ているカメラや水位計の位置を現地にて確認することができたため
　今後、現地をイメージしながら川の防災情報を活用できると思うのでよかった。
○現地において、河川の増水や越水に対する堤防補強の対策工事の状況が確認できた。
○鉄道会社から見れば、橋梁付近の状況だけでなく、河川全体の危険箇所を理解する良い機会となった。

令和５年度 機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機　　関　　名	取組状況
1	奈良市	
2	大和高田市	
3	大和郡山市	
4	天理市	
5	橿原市	
6	桜井市	
7	御所市	
8	生駒市	生駒市総合防災マップ（2023保存版）の配布
9	香芝市	
10	葛城市	
11	平群町	
12	三郷町	惣持寺地区調整池整備工事
13	斑鳩町	
14	安堵町	防災ハザードマップの更新
15	川西町	
16	三宅町	
17	田原本町	防災出前講座の実施（防災課、まちづくり建設課）
		雨水貯留施設2箇所
18	高取町	
19	明日香村	
20	上牧町	
21	王寺町	
22	広陵町	
23	河合町	
24	大淀町	大淀町出前講座
25	奈良県	水害リスク空白域の解消
		水害に備えての出前講座
26	近畿日本鉄道 株式会社	
27	西日本旅客鉄道 株式会社	
28	奈良地方気象台	
29	近畿地整 大和川河川事務所	WEBホットラインの運用方法（案）の確認

生駒市の取組状況

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関名	生駒市
具体的取組	生駒市総合防災マップ（2023保存版）の配布
主な内容	市民の方の防災意識の向上や災害への事前の備えを心がけていただくことを目的とし、今まで災害種別（土砂災害、洪水、ため池決壊）ごとに作成していたハザードマップを1冊にまとめた防災情報冊子「生駒市総合防災マップ2023保存版」を生駒市内約5万世帯に配布した。

○生駒市総合防災マップ配布概要

■時　期　：令和５年６月に配布完了
■対　象　：生駒市内の約５０，０００世帯

○生駒市総合防災マップ（2023保存版）

三郷町の取組状況
（惣持寺地区調整池整備工事）

水防災意識社会
再構築ビジョン

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関名	三郷町
具体的取組	惣持寺地区調整池整備工事
主な内容	大和川の水位上昇に伴う溢水箇所（惣持寺地区）の内水対策工事を実施中。

○概要

・平成２９年１０月に発生した台風２１号による大雨の影響により、町内各地で内水被害が発生したことから、これらの被害を解消、若しくは軽減すべく、実現可能な対策案の検討を行った。その中でもこの惣持寺地区での調整池築造工事は町内でも最大規模の内水対策工事となる。

・惣持寺地区においては、浸水面積約３０，０００㎡、床上浸水１１棟、床下浸水１４棟の被害が発生した。

・令和４～５年度においては、惣持寺地区において地下調整池（計画貯水量16,500㎥）を整備中。

○報告書

惣持寺地区において地下調整池を整備中。

当時の被害状況写真

施工中写真（令和５年１１月時点）

○今後の予定

・地下調整池は今年９月末に完成予定。

・地下調整池付近の雨水管渠整備は令和６年度から令和７年度にかけて施工予定。

・地下調整池完成後は、地下調整池の上面利用を計画中。

安堵町の取組状況
（減災対策協議会担当者会議）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	減災対策協議会構成メンバー（安堵町）
具体的取組	防災ハザードマップの更新
主な内容	奈良県が水位周知河川以外の中小河川の想定最大規模に対応した浸水想定区域を２０２３年５月に発表したため、本町における対象河川に係るものを洪水ハザードマップに追加し更新を予定。

○対象河川について

・発表日時：2023年5月30日
・対象河川：岡崎川、三代川、秋葉川
・更新予定：2024年3月
　※現在、鋭意更新作業を行っており出水期までに全戸配布を予定しています。

○更新予定防災ハザードマップ

○現行防災ハザードマップ

田原本町の取組状況
（防災出前講座の実施）

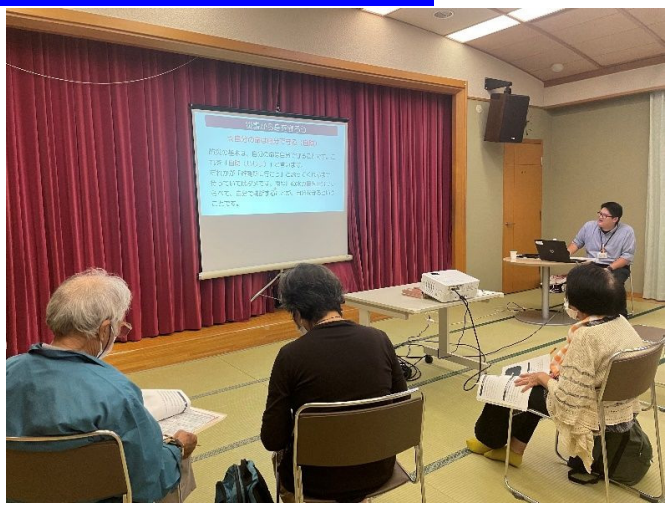
水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	田原本町（防災課）
具体的取組	防災出前講座
主な内容	防災出前講座及びマイ・タイムラインの作成

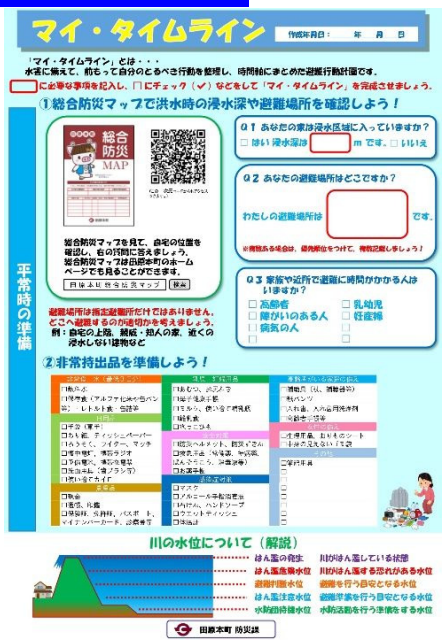
○日時・参加機関

・日時：2023年10月13日（金）
・場所：田原本町ふれあいセンター
・参加者：ふれあいセンター利用者
・概要：ふれあいセンターにおいて、防災意識の向上及び防災知識の普及を目的に防災出前講座を実施した。地震、水害、避難について、災害から身を守る、自助・共助・公助について講座を行った。
また参加者全員に町が作成したマイ・タイムラインを記入してもらい、自身の周りのリスク等を認識してもらった。
講座終了後、アルファ化米を試食してもらい、非常に好評であった。

○出前講座の様子



○マイ・タイムライン



田原本町の取組状況
（防災出前講座の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	田原本町（防災課）
具体的取組	防災出前講座
主な内容	水害について

○日時・参加機関

・日時：2023年6月29日（木）
・場所：田原本町立南幼稚園
・参加者：園児（約50名）
・概要：園児に対し、雨が降ったらどうなるか、水害とは何かをイラストを使い、園児にも分かるよう工夫し講座を行った。またクイズを行い、園児に興味を持ってもらうようにした。

○出前講座の様子

○資料（クイズ）

問題１

① まわりにきをつけてはやくかえる

② そらをみあげながらかえる

③ きにせずのんびりかえる

幼稚園から帰るとき、急に暗くなってきた。
空を見たら、真っ黒で大きな雲が見えたよ。
どうしたらいいかな？

田原本町の取組状況
（防災出前講座の実施）

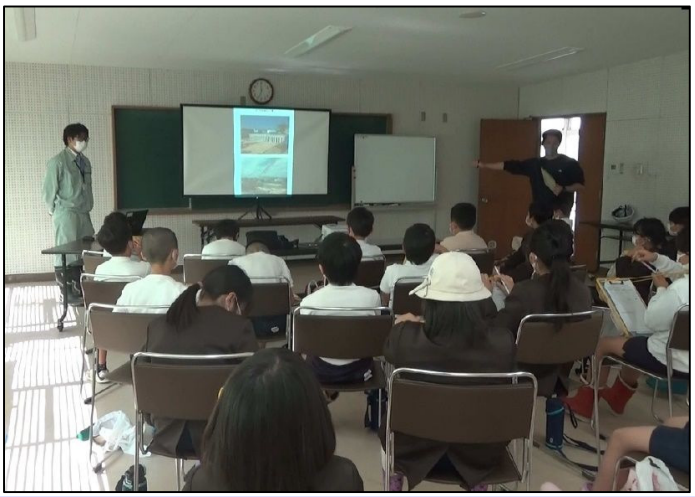
水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	田原本町（まちづくり建設課）
具体的取組	災害学習による地下貯留施設の見学
主な内容	水害対策授業・社会福祉協議会駐車場他雨水貯留施設見学

○日時・参加機関

・日時：2023年11月10日（金）・11月14日（火）・11月17日（金）　３クラスを３日間に分けて実施
・場所：田原本小学校３年生
・参加者：児童（約１００名）
・概要：令和3年に整備完了した社会福祉協議会駐車場の地下にある貯留施設を見学し、施設のしくみや必要性についての学習を行い、実際に地下貯留施設の中に入り、貯留施設の大きさを実感してもらい、ポンプを運転して水が流入するところや排出するところを見学してもらった。
また座学では、なぜ田原本町で水害が発生するのかについて、過去の水害や田原本町の地理的特徴を説明し、貯留施設に水をためるしくみや田原本町で生活する住民のために貯留施設が必要であることを学習してもらった。

○見学・座学の様子



○資料（座学）

田原本町の取組状況
（雨水貯留施設2箇所）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	田原本町（まちづくり建設課）
具体的取組	雨水貯留施設の建設（奈良県平成緊急内水対策事業）
主な内容	浸水常襲箇所の解消のため、雨水貯留施設の建設

○概要

平成２９年の台風２１号で、田原本町を含め大和川流域の広範囲で内水被害が発生し、内水対策（流域貯留事業）の重要性・必要性を再認識
↓
平成３０年５月に奈良県主導により、大和川流域内における内水被害地区の解消にむけた奈良県平成緊急内水対策事業が発足
↓
令和元年１０月　社会福祉協議会駐車場他雨水貯留施設　起工
令和３年３月　　社会福祉協議会駐車場他雨水貯留施設　竣工
↓
令和３年　雨水貯留施設の２箇所となる旧県水資材置場雨水貯留施設　起工
令和５年　旧県水資材置場雨水貯留施設　竣工

○社会福祉協議会駐車場他雨水貯留施設

総貯留量　5,000m3（表面貯留除く）

構造　プレキャスト式雨水地下貯留施設

諸元　①貯留量 3,873m3
　　設置面積 1,148m2
　　内空高 4.0m
　　②貯留量 1,127m3
　　設置面積 497m2
　　内空高 3.0m

R5.6/2　大雨洪水警報発表時
　　初稼働　貯留施設周辺で床下浸水等
　　の被害なし。効果があったと所見する。

○旧県水資材置場雨水貯留施設

諸元　貯留量 8400m3
　　設置面積 約2,500m2
　　堤高 3.3m

R5.6/2　大雨洪水警報発表時
　　工事中であったが緊急的に稼働。
　　貯留施設周辺で床下浸水等の
　　被害なし。効果があったと所見する。

大淀町の取組状況
（大淀町出前講座）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大淀町
具体的取組	住民に対する出前講座（風水害）
主な内容	ハザードマップの見方、防災情報について、防災情報の入手先、避難行動について（水害時の避難方法、垂直避難、水平避難）、備蓄について、マイタイムラインについて

○日時・概要

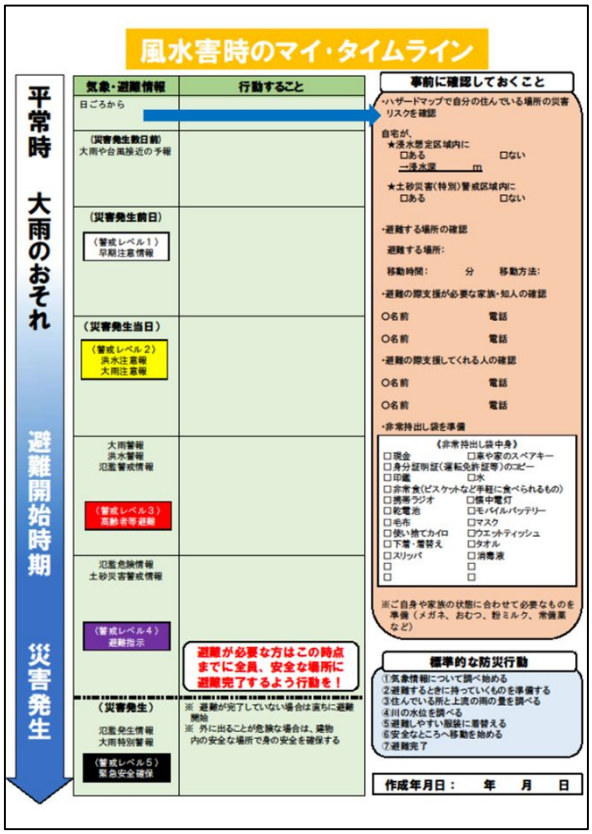
・日時・対象：①2023年9月5日（火）大淀町中央女性学級（社会教育団体）
②2023年11月5日（日）中増区（自治会）
③2023年11月12日（日）吉野平区（自治会）

・概要：令和5年度は全国的に水害による被害が多く発生したことから、水害についての出前講座の依頼が多かったため、防災の基本的な内容を中心に、水害・土砂災害の危険性、避難方法や情報収集の方法（キキクルの紹介）など、より具体的な内容で講座を行いました。

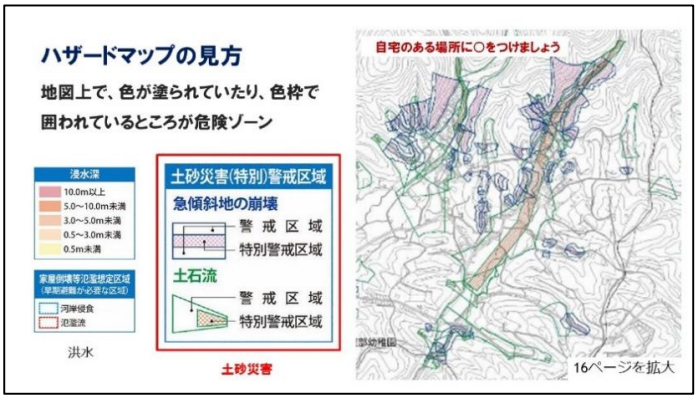
○工夫した点

①令和3年に作成した町ハザードマップを参加者全員に配布。改めて自宅周辺の危険区域や避難場所について確認をしてもらった。

②9月5日実施の防災出前講座では、マイ・タイムラインの様式を配布。その場で、開設を交えながら、参加者にマイ・タイムラインを作成してもらった。



○工夫した点



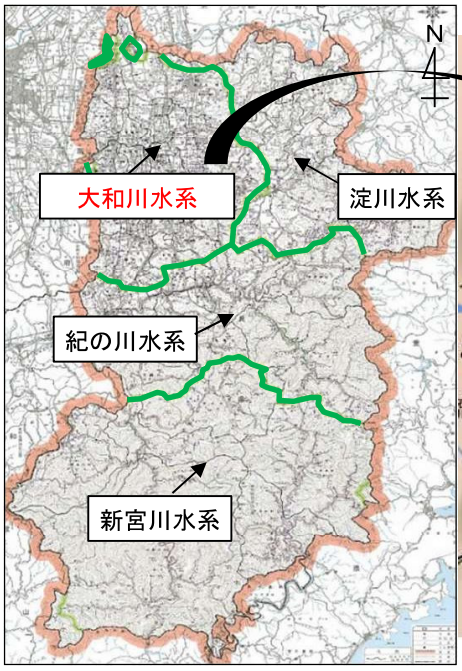
奈良県河川整備課の取組状況
（水害リスク空白域の解消）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良県河川整備課
具体的取組	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
主な内容	中小河川の浸水想定区域図の作成

○奈良県の洪水浸水想定区域図作成

水防法改正（R３年）により、浸水想定区域図作成対象が水位周知河川以外のその他河川まで拡大されたことを受けて、奈良県管理のその他河川について想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図作成を行い、水害リスク空白域の解消を図る。



大和川水系内では奈良県の人口の約85%（約110万人）が暮らしており、人口集中地帯となっています。

大和川水系内に流れる<u>県管理河川158河川について、令和5年5月30日に洪水浸水想定区域図を作成し、公表を行った。</u>

○事業実施効果

県管理の中小河川の洪水浸水想定区域図作成については令和5年5月30日に完了。浸水想定区域図の情報を基に市町村は今後、洪水ハザードマップ作成・更新を進める予定。

＜洪水浸水想定区域図※（国、都道府県）＞

＜洪水浸水想定区域の指定＞
想定しうる最大規模の降雨による浸水が想定される区域、その水深及び浸水継続時間等について、河川管理者が指定

＜洪水ハザードマップ（市区町村）＞

＜洪水ハザードマップの作成・周知＞
市町村において、水害時の住民避難に活用するために、浸水想定区域や浸水深、避難場所・経路、地下街等、要配慮者施設等の情報を示した洪水ハザードマップの作成・周知を行う。

奈良県河川整備課の取組状況
（水害に備えての出前講座）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良県河川整備課
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	教育機関や地域を対象とした水害境域の実施

○日時・参加機関

「水害に備えて」というテーマで防災教育や防災知識の普及に関する出前講座を実施。
講座内容は大和川大水害を事例に写真を使って水害の概要を紹介し、水害に対する県の取組も伝えた。また、早期避難のために災害情報や避難グッズの準備の重要性を説明した。最後に自助・共助・公助を紹介し、災害への備えについて大切な心構えを伝えた。
また、開催地に合わせてた洪水ハザードマップを用意し、浸水範囲や避難場所を紹介した。

令和5年度実績
○令和5年　5月11日
　参加団体：東王塚　若葉会サロン　参加人数10名

○令和5年10月31日
　参加団体：川西小学校　参加人数69名

○令和5年11月21日
　参加団体：田原本小学校　　参加人数97名

○令和6年　1月26日
　参加団体：高田地区民生児童委員協議会　参加人数21名

○学習の様子

川西小学校の様子

田原本小学校の様子

大和川河川事務所の取組状況
（減災対策協議会担当者会議）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	WEBホットラインの運用方法（案）の確認
主な内容	WEBホットラインの運用ルール（実施タイミング、令和５年台風第７号での試行的取組、出水時の情報提供内容など）、流域タイムラインの更新（案）に関する共有・意見の確認

○日時・参加機関

・日時：2023年11月17日（金）
・場所：大和川河川事務所（WEB併用）
・参加機関：大和川河川事務所を含め　３８機関で実施しました。
【対面】大阪府、大阪市、堺市、松原市、橿原市、三郷町、西日本旅客鉄道（株）
【ＷＥＢ】大阪管区気象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、柏原市、藤井寺市、東大阪市、大和川右岸水防事務組合、奈良県、奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町、近畿日本鉄道（株）、大阪市高速電気軌道（株）、阪神電気鉄道（株）、阪堺電気軌道（株）
・概要：台風接近時などの出水対応時に、減災対策協議会構成機関の防災対応等を支援するため、WEB会議ツールを活用し、危機感の共有を図っています。令和５年台風第７号では、急激な水位上昇が生じた令和５年台風第２号の状況を踏まえ、試行的に①近畿地方に上陸する台風進路予測による早めのWEB会議接続、②３時間おきの水位予測情報の共有、を実施しました。次年度以降も円滑にWEBホットラインを実施するため、WEBホットラインの運用方法及び試行的に実施した項目、流域タイムラインの更新(案)等について説明し、構成メンバーの意見を確認しました。

○減災対策協議会担当者会議の様子

○当日出た意見

【WEBホットライン全体について】
- WEBホットラインは良い取り組みだと感じた。

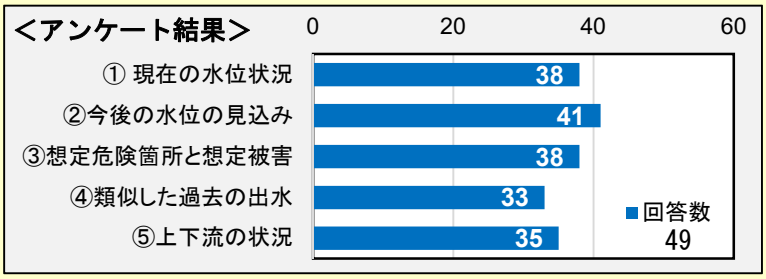
【WEBホットラインの運用について】
- ひっ迫している状況下で会議の参加は困難となることも考えられるため、WEBホットラインで用いた資料の配布をしていただきたい。

【流域タイムライン更新(案)について】
- 段階的な洪水予報の発表は自治体にとっては対応の生命線であり、自治体にとって洪水予報をとり逃すということはあってはならことであるため、段階的な洪水予報の発表をお願いしたい。
- 急激な水位上昇について流域タイムラインに反映されていれば、情報共有や引き継ぎの際に有効であると思われるため、反映いただきたい。

【その他意見】
- 大阪府管理河川で作成しているタイムラインでは、出水後にチェックリストで行動を検証しているので、流域タイムラインでも出水後の検証を取り入れることも検討いただきたい。

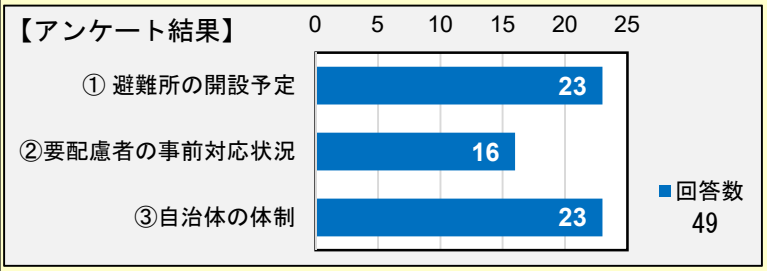
○担当者会議後のアンケート結果・意見（一部抜粋）

【WEBホットラインの情報提供内容について】
水象情報について必要な情報や大和川沿川でリアルタイムカメラ映像により確認したい情報等があれば教えてください。



＜アンケート意見（一部抜粋）＞
- 水防活動のリアルタイム映像

【河川事務所からの情報提供後に、WEB会議の場を活用し、流域自治体や鉄道事業者間で共有したい情報について】
WEB会議の場で共有したい情報について、教えてください。



＜アンケート意見（一部抜粋）＞
- 状況によりますが、時間的余裕があるようであればWeb会議の場を活用させて頂き、市町村間の情報共有の場にもさせて頂けたらと思います。

○今後の予定

減災対策協議会担当者会議および会議後のアンケートの意見を踏まえ、『WEBホットライン運用方法』・『流域タイムライン』を更新する。更新内容については、令和５年度末の減災対策協議会担当者会議で周知し、令和６年度の出水期からの運用を目指す。

令和６年度 機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機　　関　　名	取組状況
1	奈良市	奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備
2	大和高田市	
3	大和郡山市	
4	天理市	
5	橿原市	
6	桜井市	
7	御所市	
8	生駒市	まるごとまちごとハザードマップの検討
9	香芝市	小中学校や地域を対象とした災害教育の実施
10	葛城市	
11	平群町	小学校や地域を対象とした災害教育の実施
12	三郷町	惣持寺地区調整池整備工事
13	斑鳩町	自主防災組織間の連携強化/災害情報の収集・把握・管理システムの導入
14	安堵町	防災フェスタでハザードマップ配布し防災減災関連の啓発活動を実施
15	川西町	
16	三宅町	
17	田原本町	
18	高取町	
19	明日香村	
20	上牧町	水害リスクの程度に応じた水災害意識の広報（出前講座の実施）
21	王寺町	
22	広陵町	
23	河合町	
24	大淀町	水害リスクの程度に応じた水災害意識の広報（出前講座の実施）
25	奈良県	
26	近畿日本鉄道 株式会社	
27	西日本旅客鉄道 株式会社	
28	奈良地方気象台	学校管理職員向けの学校安全教育
29	近畿地整 大和川河川事務所	まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知（訓練への活用）
		小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
		水災害意識啓発の広報
		住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
		要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
		タイムラインに基づく訓練の実施／水防団（消防団含む）との伝達訓練の実施
		重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
		排水に関する訓練の実施

奈良市の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	奈良市	連携機関	なし
取組内容	No37　奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備		

【目的】

- 水位センサーを市内の中小河川等に10基程度設置し、それぞれの水位状況をリアルタイムで確認することができるシステムを構築することで、水防活動や地域住民の避難の支援に利活用する。
- 令和7年度4月運用開始予定。

例：押熊川

【効果】

・水位センサからのリアルタイム水位情報を自動的に収集することで、現場確認のための人員を減少させるとともに、限られた人員を効率的に配分することができる。

・カメラでは判断できない具体的な水位情報を得られることで、数値分析による予測精度を高めた住民への避難情報発令が可能となる。

生駒市の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	生駒市	連携機関	なし
取組内容	No23　まるごとまちごとハザードマップの検討		

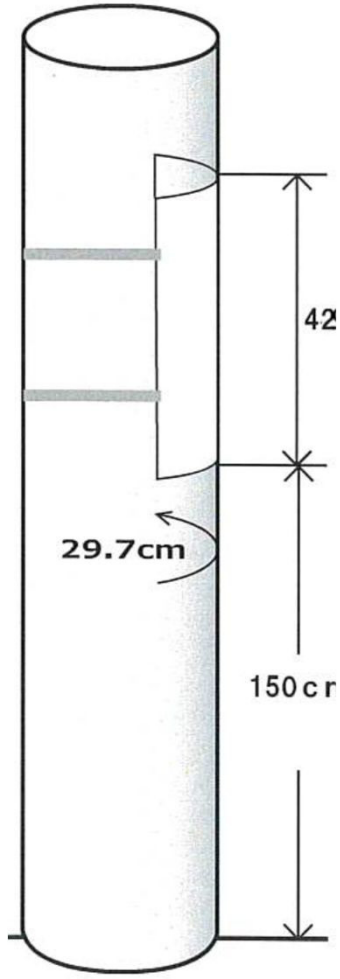
◎取組概要

まるごとまちごとハザードマップを設置中

〇設置枚数：20枚
〇取付場所：生駒市内　浸水想定区域から選定
〇実施期間：令和6年7月23日～令和6年12月27日

<u>主な内容</u>

避難誘導・想定浸水深表示板を電柱等に設置予定です。
平時においては住民、通行者及び旅行者等へ災害リスクを周知し、災害時には避難誘導の助けになることが期待されます。



香芝市の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	香芝市	連携機関	奈良地方気象台
取組内容	No29　小中学校や地域を対象とした災害教育の実施		

◎取組概要

市内小中学校の教職員を対象とした学校危機管理（気象災害への対応）に関する研修の実施

○日　　時：令和6年8月8日
○主　　催：香芝市危機管理課、学校支援室
○参　加　者：市内14小中学校教職員（校長・教頭）
○講　　師：奈良地方気象台

研修の目的
教職員が、各小中学校の地域特性に応じて、危険箇所の把握や休校判断などができるようになることを目指し、児童・生徒の安全な登下校を確保するため、市防災担当課と学校担当課が合同で防災研修会を実施しました。

研修内容
① 奈良地方気象台より講師を招き、市内全小中学校の教職員（校長・教頭）に対し、防災気象情報の解説とその活用方法について講義を行いました。

② 防災気象情報について学んだ後、過去に避難情報が発令された大雨時の気象情報を基に、各学校区に分かれて防災マップを用いたグループワークを実施しました。参加者は、児童・生徒の安全を確保するための対応策について話し合い、各班で結果を発表しました。

平群町の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	平群町	連携機関	なし
取組内容	No29　小学校や地域を対象とした災害教育の実施		

◎取組概要

地域を対象とした水害教育等の実施

○ 日　　時 ：①令和6年5月19日(日)②令和6年9月12日(木)③令和6年10月21日(月)
○ 参加機関 ：①平群町 － 光ヶ丘自治会
②平群町 － 平群北小学校
③平群町 － 若井自治会
○ 実施期間 ：随時実施

工夫した点

③ 用語を小学生(4年生48名)にわかる内容に簡単に水害から身を守るための防災学習を実施した

三郷町の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	三郷町	連携機関	
取組内容	No53　惣持寺地区調整池整備工事		

◎取組概要

・令和4年度より、浸水常襲地域である惣持寺地区において地下調整池（計画貯水量16,500㎥）を整備を開始し、R6年度に竣工した。
（平成29年10月台風29号　惣持寺地区浸水実績）→浸水面積約30,000㎡、床上浸水11棟、床下浸水14棟。

・雨水幹線の排水系統の切替工事をR6年度より実施。
　排水区を二つに分けることで浸水の解消を図ります。（R6年度より実施、R7年度完了予定。）

・惣持寺地区調整地については、竣工時に地元住民・町内小学生や他府県からの学生の見学会等も実施し、浸水対策事業についての周知の場を設けた。

斑鳩町の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	斑鳩町	連携機関	町内自主防災組織等
取組内容	No33　自主防災組織間の連携強化／災害情報の収集・把握・管理システムの導入		

◎取組概要

斑鳩町自主防災連絡会の運営

〇町内の自主防災組織、防災士、防災に関心のある者の相互の連携強化を目的として令和5年度に設立した「斑鳩町自主防災連絡会」の総会（研修・意見交換会）を実施した。

日　　時：令和6年7月21日（日）

参加機関：①町内自主防災組織　②町内防災士
③町内の防災に関心のある方
④奈良県防災士会　⑤気象庁　奈良地方気象台

実施内容：意見交換会等を通じ、各団体の活動や、課題などの共有を行った。

災害情報の収集・把握・管理システムの導入

〇効率的な災害情報の収集・把握・管理・情報配信を目的に、㈱アルカディアが運用するSpeeCAN Timeline、映像通報システムを導入した。

導入日：令和6年7月1日～

実施概要：
◆SpeeCAN Timeline（スピーキャン　タイムライン）

・現場に出動した職員からの情報や写真について、役場（災害対策本部）との共通の地図上で管理し、情報共有を行う。

・連携する防災アプリ（ハザードン）へ情報連携することが可能であり、住民への通行止情報、浸水区域、避難所開設情報等の情報伝達を行う。

安堵町の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	安堵町	連携機関	なし
取組内容	No.24　防災フェスタでハザードマップ配布し防災減災関連の啓発活動を実施		

◎取組概要

安堵町で災害協定先団体等による防災フェスタを開催し、住民などにハザードマップを配布し、防災減災関連を学ぶ啓発を実施

〇日　　時：令和６年１１月２４日

〇参加機関：自衛隊・警察・消防・大和川河川事務所・幸田町、他災害協定締結先団体等

〇町災害協定締結団体等による防災関連ブースを設けた他、安堵町消防団や自主防災組織、町ハザードマップ配布ブースを設けて住民に配布を行い防災意識の高揚を図った。

〇消防庁から派遣された語り部による防災講演会を実施

防災フェスタの様子

工夫した点

①防災講演会において、安堵町は町南部において大和川、富雄川、岡崎川の3河川が合流する地点となっており毎年大雨洪水警報等により水害が多く発生しており講演会の内容を水害対策に沿ったものに選定した。

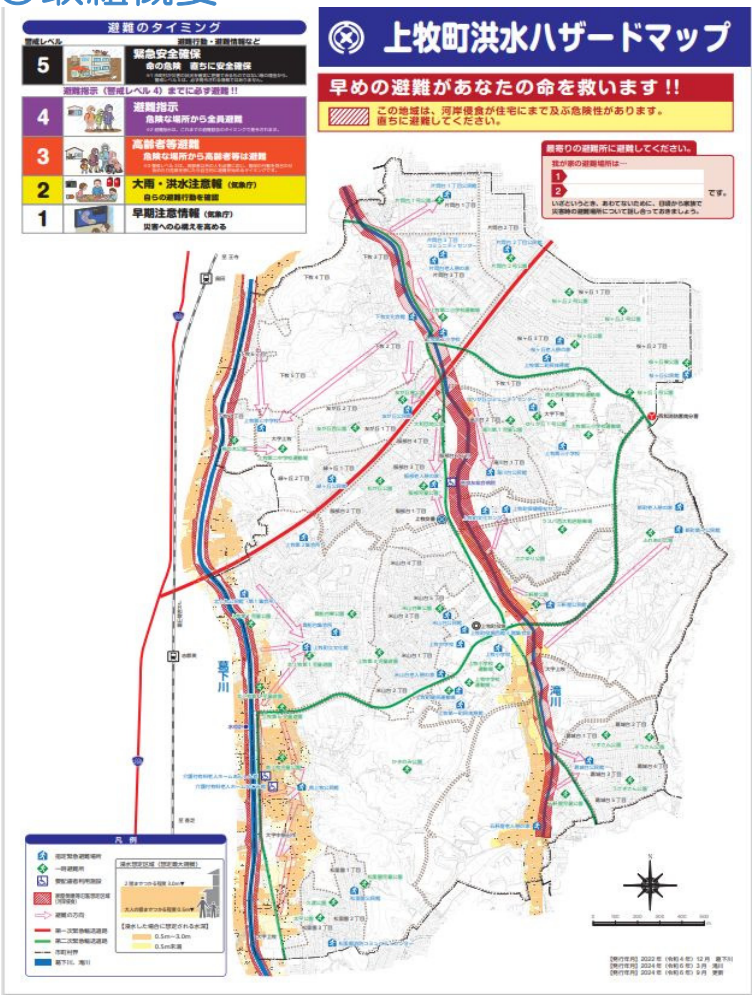
②自衛隊・警察・消防・ドローン等を体験型としてブースを設置し、多くの住民に直接触れてもらうことで、啓発を行った。

上牧町の令和6年度の取組状況

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	上牧町	連携機関	奈良県
取組内容	No30　水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要



防災出前講座の実施

【ワークショップの開催】
　上牧町では、自分達の命を自分達で守るために、「土砂災害・水害等の地域防災マップ」を作成しながら、地域の危険な場所を教えあい、話し合い、どうやって避難するかを話し合う場を設け、「土砂災害・水害等の地域防災マップづくり」を通して自助・共助について考える機会を作り、防災意識の向上を目的としたワークショップを開催

【ミニ講座】

【マップ作り】

上牧町ホームページ（防災ページURL）
https://www.town.kanmaki.nara.jp/life_scene/bousai_syoubou/345.html

大淀町の令和6年度の取組状況

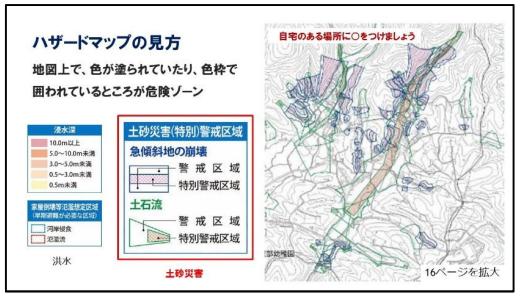
共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	大淀町	連携機関	なし
取組内容	No54　水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要

防災出前講座の実施

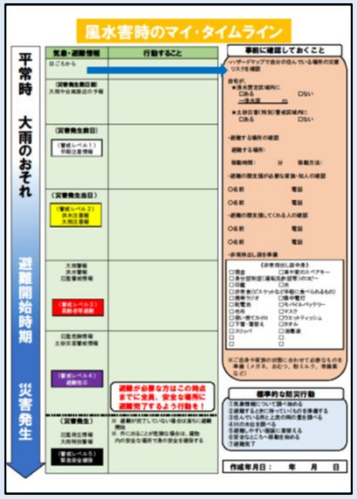
令和5年度は全国的に水害による被害が多く発生したことから、水害についての出前講座の依頼が多かった。防災の基本的な内容を中心に、水害・土砂災害の危険性、避難方法や情報収集の方法など、より具体的な内容で講座を行った。



工夫した点

①令和3年に作成した町ハザードマップを参加者全員に配布。改めて自宅周辺の危険区域や避難場所について確認をしてもらった。

②8月5日実施の防災出前講座では、マイ・タイムラインの様式を配布。その場で、開設を交えながら、参加者にマイ・タイムラインを作成してもらった。



奈良地方気象台の取組状況
（学校管理職員向けの学校安全教育）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良地方気象台、香芝市
具体的取組	教職員研修
主な内容	・気象情報の適切な利用を解説 ・対応演習（登校時間に警報が発表されると予想された場合の前日からの対応を検討）

○日時・参加者等

・日時：2024年8月8日（木）
・場所：香芝市役所
・参加者：約80名（香芝市立小中学校全校長・教職員・香芝市職員）
・概要：奈良地方気象台は香芝市の依頼により、香芝市立小学校及び中学校の校長や教頭、保健指導等担当の教職員を対象に学校危機管理（気象災害への対応）を題材とした教職員研修を実施しました。
　第一部：防災気象情報に関する知識や地域の特性などの講演
　第二部：防災気象情報と防災マップを利用した学校区別のグループワーク

○講座の様子

研修の様子（防災気象情報の説明）

三橋香芝市長の挨拶

森永気象台長の挨拶

グループワークの様子（場面検討）

グループワークの様子（場面検討）

グループワークの様子（発表）

○参加者からの感想

・早期注意情報や警報発表状況などの存在を知り、適切な判断のための材料にできそうだと感じました。
・気象台が発表する、防災気象情報についてもお話があり、より正確で的確な状況判断のため、今後もっと活用していくべきであると感じました。
・警報の有無だけで休校等の判断するのではなく、予報をもとにした根拠のある的確な判断をする必要性と、その根拠となるソースを知ることができました。
・その校区の地理的特性を理解した上で、対応を検討・判断していきたいと考えています。
・様々な情報を元にして子どもたちの安全のために判断しなければならないと思ったが、短時間で判断するのは難しいと感じました。新しい情報は保護者にも積極的に伝えていくことが大切だと感じました。

○今後の予定

・教育委員会との連携を強化し、防災気象に関する学校安全について意識向上を目指す。

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（Phase1に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

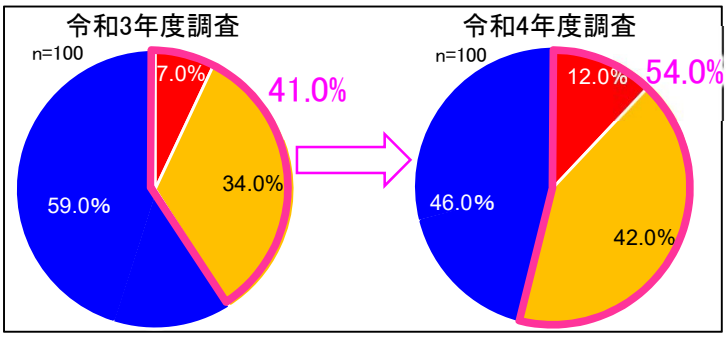
取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No. 19】まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知（訓練への活用）
主な内容	大和川流域自治体へのアンケート調査の実施 ・試行実験として標識設置に協力いただける自治体把握 ・標識設置に関する課題・要望調査

○アンケート調査の概要

【日　時】令和6年9月6日～9月30日
【対　象】流域自治体

○試行実験実施の背景・目的

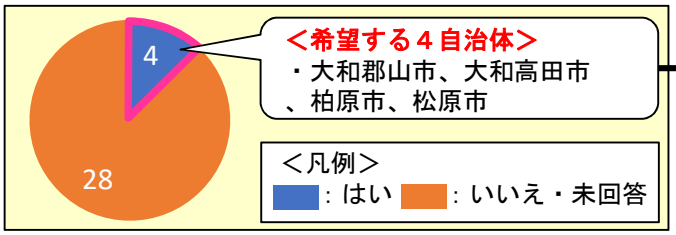
■現行手引き策定以降、大和川流域において、標識設置数が0枚となっている複数市町存在する。
■取組の進捗が低い理由の一つとして、具体的な効果や設置の進め方がわからないなどの意見がある。
■藤井寺市では標識設置による住民防災意識への効果が把握されている（右図）が、設置密度や地域による分析はできていない。
■そこで、まるごとまちごとハザードマップ整備拡大の**試行実験**として、標識設置を市町と協働して実施し、住民防災意識の変化により標識設置効果の分析を進める。



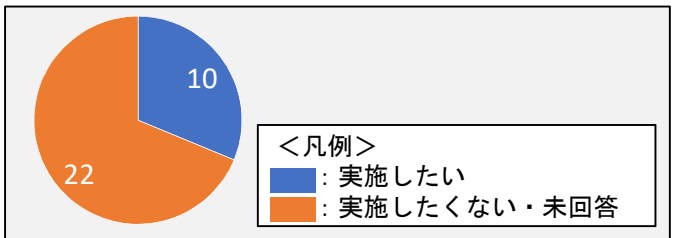
参考　藤井寺市の結果

○アンケート結果

●試行実験を希望する自治体



【参考】今後、標識設置と考えている自治体



	主な回答
実施したい	・浸水想定が住民に理解されやすいと考えるため ・標識設置することにより住民の目に留まり、防災意識の向上が期待できるため ・その有用性については理解しているため
実施したくない	・日常生活の中で水害の危険性について啓発できるツールではあるが、標識の設置・維持管理に係る予算確保が難しいため ・費用対効果が不明 ・人員不足

○試行実験に向けた調整と今後の対応

試行実験を希望する4自治体に対してヒアリングを実施

- まるまち実施の現状把握
- まちまち整備への意見聴取

令和6年10月～11月

意見・課題等の整理

具体的検討

(1)標識設置箇所の検討（自治体と協働）
(2)標識設置形式の検討（自治体と協働）
(3)設置前の住民意識調査（河川事務所）
(4)まるまち標識の設置（河川事務所）

フィードバック

整備後の住民アンケート調査
※必要に応じて自治体へのヒアリングも予定

標識設置による住民意識の変化の分析
結果を**減災対策協議会で共有**

令和7年度以降実施

※令和７年度は、試行実験希望の4自治体で標識設置予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（Phase1～5に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

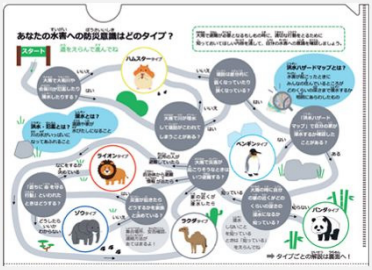
取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No. 24】小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
主な内容	・大和川の付け替えの歴史 ・大和川の概要 ・流域治水について ・はたらく車について（災害対策車両） ・クイズで学ぶ防災知識 ・質問コーナー

開催概要

○ 日　時：令和6年12月19日(月)　10:45～11:30
○ 場　所：岸和田市立城東小学校
○ 参加者：岸和田市立城東小学校4年生36名　教職員3名
　　大和川河川事務所　係員3人
　　※大和川を多くの人に知ってもらうために事前申込みのあった小学校を対象とした

○活用資料・防災教育の様子

●活用資料



防災アニマル診断の
クリアファイル

●防災教育の様子

←岸和田市総合防災マップを使用し、身近な場所の危険性について調べて貰いました！

←防災に関する知識について、クイズで楽しく分かりやすく学び、さまざまな意見が飛び交いました！

○参加者の感想

- 避難グッズは、災害が起こってからでは準備出来ないので、家に帰って準備しようと思った。
- 大和川は昔に洪水が多かった事を知らなかった。
- 普段遊びに行くような場所も昔は海だったのがびっくりした！

※令和７年度も実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（Phase1～5に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・奈良地方気象台・報道機関
具体的取組	【No. 25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・大和川河川事務所から、大和川の特性及び事業概要、出水時における河川情報について説明 ・奈良地方気象台から、奈良県の気象特性について説明

開催概要

○ 日　　時：令和6年6月20日(木)　13:30～15:30
○ 場　　所：奈良地方気象台
○ 参加機関：大和川河川事務所、奈良地方気象台、奈良県（防災統括室、河川整備課、砂防・災害 対策課）、広陵町、香芝市、河合町、大和郡山市、明日香村、三郷町、毎日新聞奈良支局、産経新聞奈良支局、奈良テレビ、NHK奈良放送局　　（対面２０名、その他web参加者多数）

○勉強会の様子

気象台による説明

大和川河川事務所による説明

質疑・意見交換

気象台業務の説明と設備見学

→奈良県内の大和川の氾濫特性や大雨に備えるために住民に確認して欲しい河川情報について、NHK奈良放送局より取材依頼があり、6月25日に放送されました。（https://www.nhk.or.jp/nara/）

○参加者の感想

- 先日6月18日の降雨では、大和川の水位上昇が急激であったように見受けられたが、流域の特性などその理由について教えてもらい勉強になった。
- 報道機関、気象台、河川管理者との交流・意見交換ができて良かった。今後も引き続き同様の機会を持ちたい。また、現場を見てもらいながらの意見交換等も行えたら良いと思う。
- 気象台の予報業務がどのように実施されているかを見ることができ、参考になった。

※令和７年度も実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（Phase1～5に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No. 25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・各ブースで学び、スタンプラリーを回った方には自分でできる流域治水グッズを進呈 ・小学生でもわかるマイタイムライン（避難計画）の作成キットの配布 ・イベントブース内でいざという時の避難行動

○開催概要

○ 日　　時：令和６年８月４日(日)～５日（月）10：00～18：00
○ 場　　所：イオンモール大和郡山 １階 北小路コート
○ 一般参加：５９９人（スタンプラリー＋アンケート回答者）

○イベントの様子

流域治水がわかる動画を見て理解してもらい、住民の皆さんに流域治水をしてもらいました

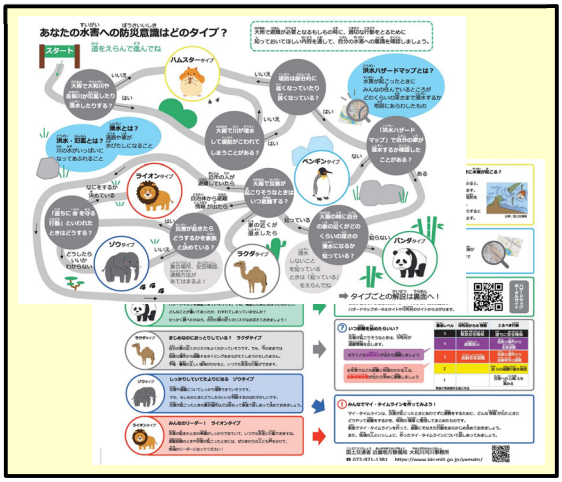
大和川のどこにいるのか分かるサイト（大和川流域番地）で、お住いの近くの川の名前と大和川とのつながりを知ってもらいました

奈良県の大和川流域を立体的に表した模型で、流域治水対策のある時とない時で水被害がどれだけ減るか視覚的に体験してもらいました

もし実際に水災害が起きた時にどのように避難するか計画を立ててもらい、お住まいの地域のハザードマップをお渡ししました
小学生向けに、夏休みの自由研究としても使える避難計画作成キットを活用し、水災害への理解や避難計画を作成してもらいました

●【配布物】小学生向けの避難計画作成キット

●【配布物】動物のイラストを用いた防災意識アンケート（防災アニマル診断）



大和郡山市長もご来場されました

流域治水グッズ

雨を貯留できる桶

貯留施設の紹介カード

パンフレット等

○参加者の感想

- とても分かりやすかったです。一人一人の心がけが大切だということが分かりました。ありがとうございました。
- 今迄、災害とは無関係な感じだったが、これからは考えていこうと思う。なかなか面白かったです。
- 模型がとても分かりやすくイメージしやすかった。

※令和７年度も流域の施設で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（Phase1～5に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No. 25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・災害対策用車両である照明車を展示し、出動時の状況を参加者に説明 ・大和川流域で行っている流域治水対策の取組や水害への備えの必要性についてのパネルを展示 ・自分の防災意識レベルがわかる防災意識アンケートを配布し、防災意識向上を図るとともに、マイ・タイムライン（防災行動計画）が作成できる「マイ・タイムラインノート」を配布

○開催概要

○日　時：令和6年10月20日(日) 9：00～12：15
○場　所：奈良市都祁生涯スポーツセンター（奈良県奈良市都祁馬場町）
○主　催：奈良県、奈良市
○参加機関：80機関

○イベントの様子

奈良県知事への取り組み内容説明

照明車の災害対応について説明

流域内自治体のハザードマップQRコード展示

防災意識アンケートについて説明

●【配布物】マイ・タイムラインノート

○参加者の感想

- 国交省が、このような車で災害対応しているのを初めて知った。
- 被災地でボランティアをしているとき、照明車が照らしてくれているのを経験したことがある。とても明るくて、ありがたかった。
- 展示しているQRコードで住んでいる場所のハザードマップを確認することができて良かった。
- 「マイ・タイムラインノート」を使って家でマイ・タイムラインを作成し、避難に備えるようにしたい。
- 大和川河川事務所のHPやSNSで発信している情報をいつも参考にしている。

※令和７年度も流域の防災イベントで実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援
（Phase1～5・率先避難者に向けて）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・奈良県・田原本町
具体的取組	【No. 22】住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
主な内容	・近年の気象災害と情報の活用に関する講座 ・マイ・タイムラインの作成

○開催概要

○日時：令和6年9月22日(日)
　　10：00～12：00
○場 所：田原本町社会福祉協議会大ホール
○参加者：53名（田原本町住民）
○講　師：気象予報士　澤　麻美氏

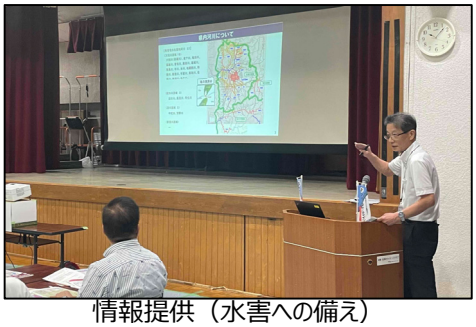
気象予報士　澤麻美氏

○講習会の様子

講習会の様子

マイ・タイムラインの作成（気象予報士　澤麻美氏）

自宅の水害リスクを確認



情報提供（水害への備え）
奈良県河川整備課

開会挨拶
高江田原本町長

閉会挨拶
大和川河川事務所長

○参加者の感想

- 風水害のタイムラインも大変勉強になりました。こういった準備があれば、地震時にも役立つことがあると思います。備えることが出来ると思います。
- 在宅避難が良いのか？避難所への避難した方が良いのか？迷うが、どの場面 で避難所へ行けばよいのか、自身の中で明確にする必要がある。
- 避難先へのルートが自宅より浸水しやすいエリアを通る必要がある場合は、避難するべきかどうかの判断が難しいのではないかと思いました。
- 今後もこの様な講習会を実施してほしい。
- タイムラインでさらに自身の行動すべき事項などを作成したい。

○水平展開に向けた取組

- 講習会運営の流れをとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。

※令和７年度も流域の自治体で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援
（要配慮者利用施設に向けて）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・大阪市東住吉区
具体的取組	【No. 23】要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
主な内容	・要配慮者利用施設の避難訓練の運営支援・訓練に関する助言

○訓練概要

【日　　時】令和6年10月5日（土）15：15～16：10
【場　　所】医療法人西中医学会　西中介護老人保健施設ヴィーブルジョワ サービス付き高齢者向け住宅リアン ド ヴィーブル
【参加者】施設職員　15名

○訓練までの背景

①：事前打ち合わせ

＜施設職員＞

これまでの避難訓練では、いつも同じ訓練を実施している。

＜河川事務所＞

避難の実行性を高めるためには、訓練で行動内容を明確化させることが重要です。
各職員の役割を決めるために、班を設定してみてはいかがでしょうか。

②：机上訓練

＜施設職員＞

いただいた助言を踏まえ、作成したタイムラインの読み合わせを行い、各職員が洪水時のイメージを持つことができました。

＜河川事務所＞

皆さんは、各班の行動が同時に行われていることをイメージできますでしょうか。
施設全体の避難行動を整理するために、施設タイムラインを作成してみてはいかがでしょうか。

要配慮者利用施設
タイムライン

③：実動訓練　施設タイムラインを用いた実動訓練の実施

○訓練の様子

○施設職員によるふりかえり

○ホワイトボードやノートに行動の記録を行うことで、避難の進行状況の把握や今後の改善に役立つと実感した。

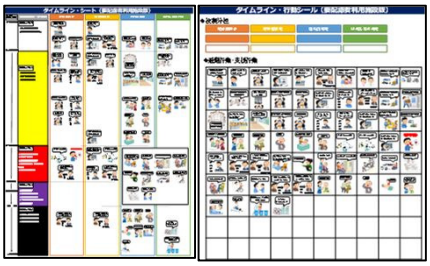
○今回初めて班編成を行った上で避難訓練を実施したが、班編成及び役割分担を行うことで「誰かがやるだろう」というのが無くなった。また、指揮者等少人数で訓練のシナリオを考えていたが、各班で考えるようになり、職員の意識が高まった。

○班と本部の連絡については携帯電話を使用していたが、本部が他の班と連絡していると連絡がとれない場合があるため、無線等を活用しても良いかも知れない。

○水平展開に向けた取組

① 要配慮者利用施設の実動訓練の様子をとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。

② 訓練を踏まえ、施設職員の行動整理や、自治体等職員の施設側の出水時行動の流れ把握等で活用する要配慮者利用施設タイムラインシートの行動拡充を行った。



※令和７年度も流域の要配慮者利用施設で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援（要配慮者利用施設に向けて）

水防災意識社会再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・松原市・大阪管区気象台　（見学：大阪府、東大阪市）
具体的取組	【No. 23】要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
主な内容	・避難訓練の必要性に関する講義（松原市） ・防災気象情報に関する講義（大阪管区気象台） ・意見交換会（大和川河川事務所）

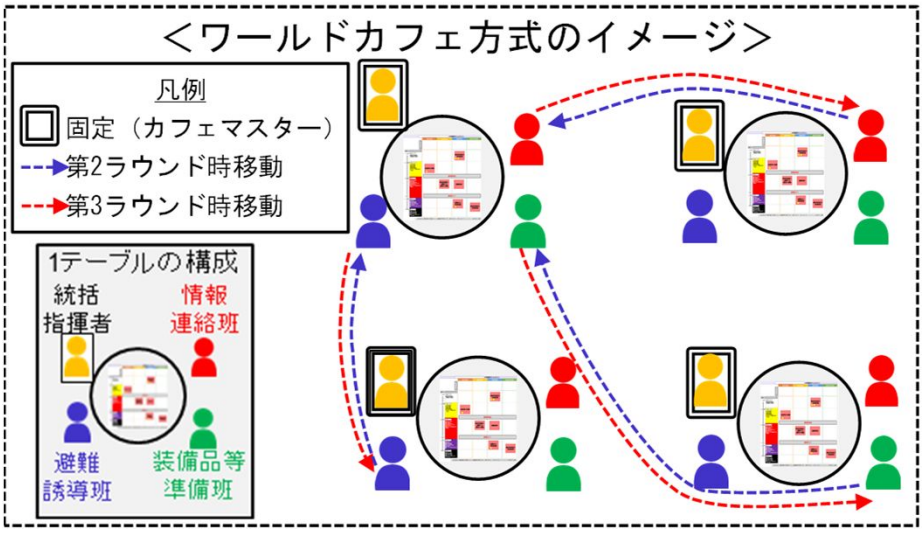
○開催概要

【日　　時】令和6年12月6日（金）14時～16時
【場　　所】松原市役所
【参加者】要配慮者利用施設関係者 29施設37名、行政関係者（気象台、大阪府、自治体）12名

○講習会の様子

ワールドカフェによる意見交換

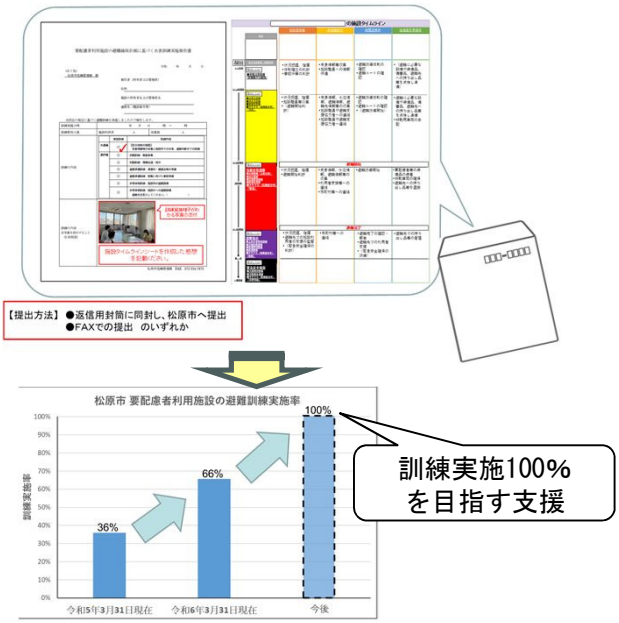
完成したタイムラインシートを撮影（記録）し、各施設のタイムライン作成に活用



4人1班で役割を決めて意見交換し、その後別班に移動、その班の意見を収集し、元の班に戻り、意見を集約してタイムラインシートを完成させる。

○講習会後について

- 後日、各施設でタイムラインを検討（机上訓練）してもらい、避難訓練実施を郵送で報告



○水平展開に向けた取組

- 講習会運営の流れをとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。

※令和７年度も流域の自治体で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1．避難】行政機関の防災体制整備 ／【2．防ぐ】

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No. 13】タイムラインに基づく訓練の実施 【No. 36】水防団（消防団含む）との伝達訓練の実施
主な内容	・出水に備え、FAX、電話およびWEBホットラインによる河川水位などに関する情報伝達訓練

開催概要

- 日時：令和6年5月8日（木）～5月9日（木）
- 場所：大和川河川事務所・WEB会議システム
- 参加者：減災対策協議会構成メンバー

訓練シナリオ・活用資料

●訓練シナリオ

訓練前日（5月8日）

- 16:00 中国・四国地方に線状降水帯の予測発表
- 訓練開始
- 16:30 メールにより、WEBホットラインの開始を周知
- 17:00 WEB会議ログイン 5月9日の訓練予定の周知

訓練当日（5月9日）

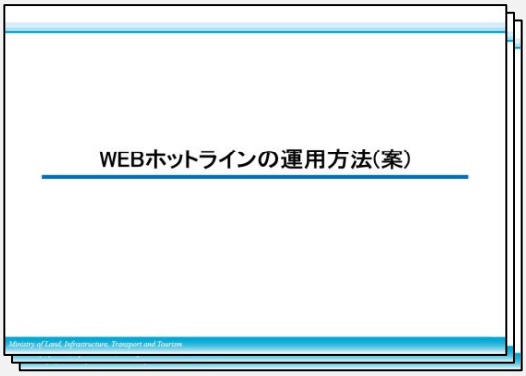
- 8:30 水位予測情報をメールで共有
- 9:30 水位予測情報をメールで共有（各鉄道事業者）
- 洪水予報（柏原・板東）
  水位到達情報（保田・番条）
  水防警報（柏原・板東・保田・番条）
  を適宜発表、伝達確認 → FAXの着信確認
- 10:30 氾濫危険情報発表によるWEBホットライン実施をメールで周知
- 11:00（30分程度）
  WEBホットラインの実施
  ＜情報提供内容＞
  ①現在の水位状況 ②今後の水位上昇と降雨状況
  ③上下流の状況 ④現地状況（河川空間監視カメラ映像）
  ⑤類似する過去の出水 など
  首長等とのホットライン（電話）の実施
  ※実施自治体は事前調整により決定させていただきます
  WEBホットラインの録画データ・活用資料をメールで送付
- 訓練終了
- WEB会議ログアウト

訓練後日

- WEBホットライン運用方法の訓練に関するアンケートを実施

＜凡例＞
:与条件 :対応行動（河川事務所） :対応行動（構成メンバー）

●活用資料

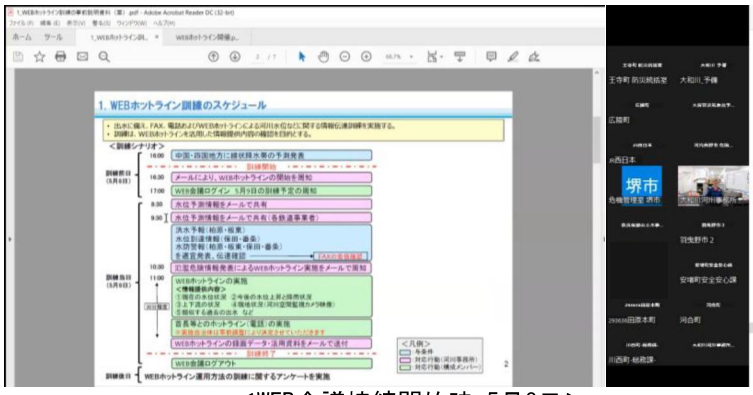


WEBホットライン運用方法（案）

流域タイムライン

訓練の様子

＜氾濫危険情報発表時のWEBホットライン（5月9日）＞
（大和川河川事務所災害対策室）



＜WEB会議接続開始時_5月8日＞

※令和７年度は、出水期前（5月~~7~~8日（木）・~~8~~9日（金））に実施予定

大和川河川事務所の取組状況
【2. 防ぐ】

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No. 40】重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
主な内容	・出水時にいち早く危険水位や越水する水位に達する自治体毎の危険箇所の位置の確認 ・危険箇所の状況を把握できる危機管理型水位計や簡易カメラ位置の確認

開催概要

○ 日　　時：令和6年４月24日(水)～5月14日（火）合計6回

○ 場　　所：大和川、佐保川、曽我川の危険箇所（越水）、危険箇所（避難）

○ 参加機関：【奈良県域】 12機関

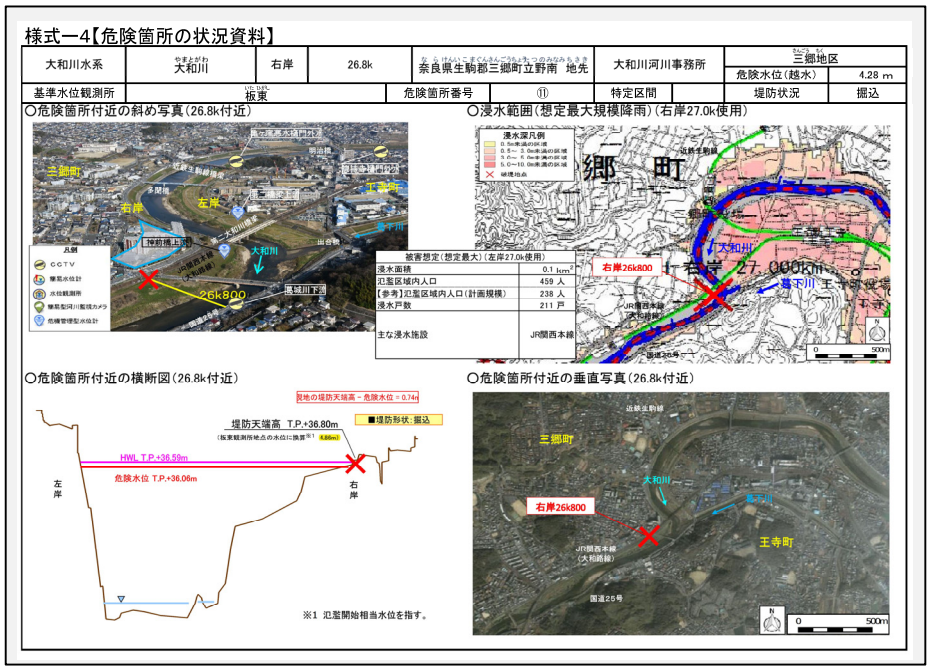
奈良地方気象台、奈良県、大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町、近畿日本鉄道株式会社

【大阪府域】 12機関

大阪管区気象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市、近畿日本鉄道株式会社、大阪市高速電気軌道株式会社、南海電気鉄道株式会社、大和川右岸水防事務組合

○活用資料・合同巡視の様子

●活用資料



●合同巡視の様子

○参加者の感想

- 6月1日からの出水期前に、危険箇所や危険箇所での想定氾濫区域を確認できた。出水期に向けて準備を行っていきたい。
- 職場内でも、危険箇所の情報を共有していきたい。
- 当該市域にない危険箇所でいち早く越水することで、氾濫が広がり、浸水する恐れがあることを確認できた。避難に関する情報として活用したい。
- 4月の異動で、大和川の危険箇所を理解していなかったが、合同巡視に参加でき、水位上昇でいち早く危険になる箇所を確認できたことで、今後の出水期に備えたい。

※令和７年度は、出水期前（4月頃）に実施予定

大和川河川事務所の取組状況
【3. 回復】

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・川西町
具体的取組	【No. 46】排水に関する訓練の実施
主な内容	・排水ポンプ車・排水作業準備計画の説明内水調整池から飛鳥川への排水訓練

開催概要

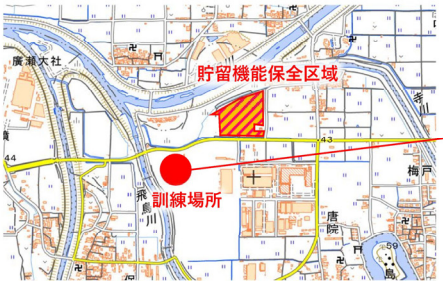
○ 日　時：令和6年12月23日(月)

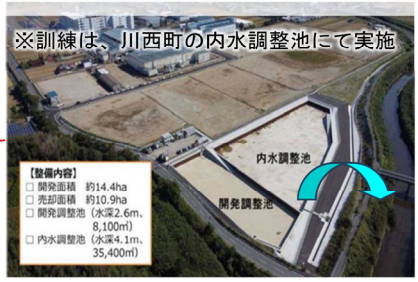
○ 場　所：川西町保田地先　内水調整池

○ 参加者：15名

・大和川河川事務所職員

・川西町職員





○排水訓練の様子

排水作業準備計画の説明

排水の様子

○参加者の声

- 実際の排水能力を見て、非常時には大きく期待できると思った。
- 訓練することによって、排水作業準備計画のイメージが明確になった。

令和７年度 機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機　　関　　名	取組状況
1	奈良市	奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備
2	大和高田市	「まるごとまちごとハザードマップ」標識設置
3	大和郡山市	・共助の仕組みの強化
4	天理市	・水害ハザードマップへの反映
5	橿原市	・小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施 ・水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）
6	桜井市	住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有
7	御所市	簡易水位計、量水標、CCTVカメラの設置検討・整備
8	生駒市	まるごとまちごとハザードマップの検討
9	香芝市	小中学校や地域を対象とした災害教育の実施
10	葛城市	防災マップ及び避難所看板の作成
11	平群町	小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
12	三郷町	惣持寺地区調整池整備工事
13	斑鳩町	ハザードマップの周知啓発
14	安堵町	「防災・減災を考える②」安堵町災害ボランティアセンター設置・運営訓練
15	川西町	・避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新
16	三宅町	・水害ハザードマップへの反映 ・まるごとまちごとハザードマップの検討
17	田原本町	水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）
18	高取町	ホットライン構築による県・市町村の連絡体制強化、住民への情報提供の確実な実施
19	明日香村	明日香村防災講演会
20	上牧町	住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有
21	王寺町	小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
22	広陵町	まるごとまちごとハザードマップ（指定緊急避難場所の看板及び指定避難所誘導看板設置）
23	河合町	ハザードマップの改訂
24	大淀町	水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）
25	奈良県	・大和川水系の水害リスクマップの作成・公表 ・自治会・小学校へ水害に備えての出前講座を実施
26	近畿日本鉄道 株式会社	
27	西日本旅客鉄道 株式会社	
28	奈良地方気象台	中学生を対象とした職場体験学習の実施
29	近畿地整 大和川河川事務所	・自治体等と危険箇所の合同巡視 ・大和川水辺の楽校まつり ・マイ・タイムライン講習会 ・流域治水アンバサダーと作る！マイ・タイムライン講習会 ・要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会 ・松原市立松原東小学校で出前講座 ・奈良県内のメディア機関と「大和川流域勉強会」の実施 ・メディアと連携　NHKアナウンサーと大和川でフィールドワークの実施 ・近畿府県合同防災訓練に災害対策用機械・防災アニマル診断の展示 ・行基さん大感謝祭り2025へ出展、「流域治水模型」を用いた実演や特性説明

奈良市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	奈良市	連携機関	なし
取組内容	No.37　奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備		

◎取組概要

【目的】

- 水位センサーを市内の中小河川等に12基設置し、それぞれの水位状況をリアルタイムで確認することができるシステムを構築することで、水防活動や地域住民の避難の支援に利活用する。
- 令和7年度4月より運用開始。

例：佐保川

【効果】

・水位センサからのリアルタイム水位情報を自動的に収集することで、現場確認のための人員を減少させるとともに、限られた人員を効率的に配分することができる。

・カメラでは判断できない具体的な水位情報を得られることで、数値分析による予測精度を高めた住民への避難情報発令が可能となる。

大和高田市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	大和高田市	連携機関	国土交通省近畿地方整備局　大和川河川事務所
取組内容	No.23　「まるごとまちごとハザードマップ」標識設置		

◎取組概要

想定浸水深表示標識の設置

近年のゲリラ豪雨による道路冠水が頻発するアンダーパスがある地点に、人流が多いにもかかわらず、市が危険を示す標識がなかった。試験的に、人の目につきやすい2箇所に標識を設置することによって、無理な横断を抑止するよう日頃から認知してもらうことが、
可能となった。

中小河川の浸水深について　奈良県より令和5年度に提供されたシェイプファイルを確認、高田川、葛城川について
「大和高田市総合ハザードマップ更新業務委託令和5年3月」を確認

「まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き」によると計画規模降雨、想定最大規模降雨のどちらの表記を選ぶのかは検討の余地ありのため
→想定最大規模降雨を標記することを選択し表示することとした。

・水害リスクの意識向上。

大和郡山市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	大和郡山市	連携機関	なし
取組内容	No.32　共助の仕組みの強化		

◎取組概要

地区ごとに自主防災組織と消防団で情報交換・防災意識の向上のための集会を開催

〇日時：①令和7年5月20日②令和7年5月22日③令和7年5月26日④令和7年5月29日
〇参加者：市内防災組織、各管轄区域消防団、災害対策課
〇実施期間：毎年実施

内容
・市が実施している防災事業（補助金、届出避難所　等）について紹介
・市内で活発に防災活動をされている自主防災組織の会長より活動内容の共有、意見交換
・消防団との顔合わせ、名刺交換

天理市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

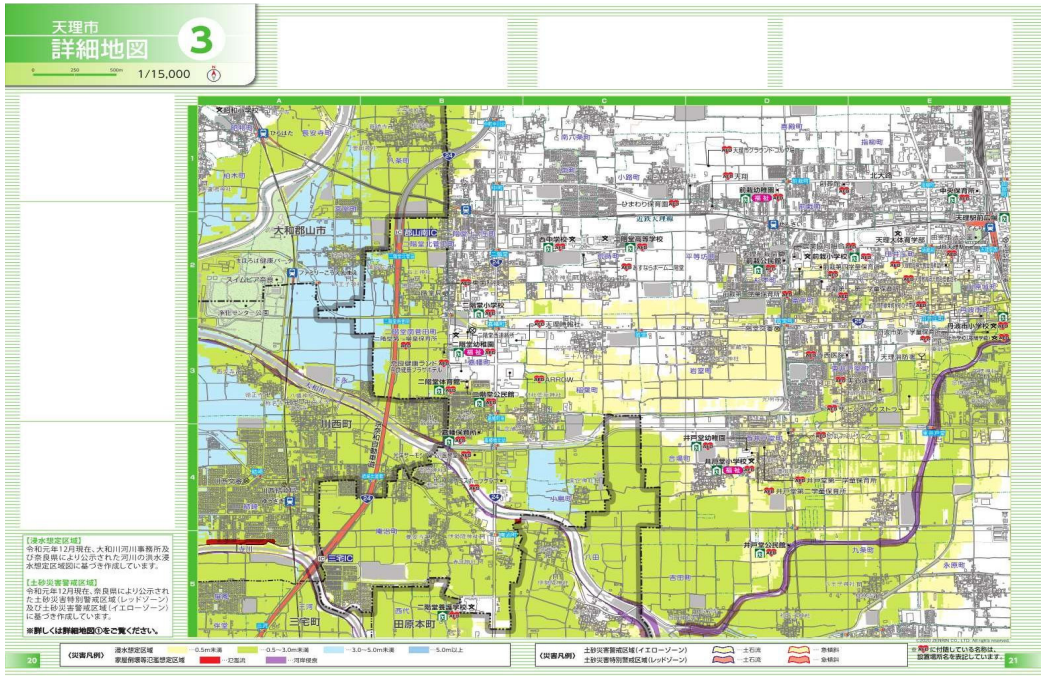
取組機関	天理市	連携機関	なし
取組内容	No.18　水害ハザードマップへの反映		

◎取組概要

天理市総合防災マップの改訂

・水位周知河川の内マップに未反映であった高瀬川の浸水想定区域図、及び令和5年に公表された中小河川の浸水想定区域図（想定最大規模降雨）を反映したハザードマップの更新作業を今年度進めています。

・紙ベースでは記載しきれない想定浸水深の詳細についても、マップ面の一部にQRコードを用いる等して「奈良県災害リスク情報システム」へのインターネットによるアクセスを促し、容易に確認できるよう啓発・周知に取り組みます。



参考：現天理市総合防災マップ

橿原市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	橿原市	連携機関	なし
取組内容	No.29　小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施 No.30　水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要

橿原市では、住民の防災知識・意識の向上、自助・共助の促進、地域防災力の向上のため出前講座を約20件実施するとともに、夏休みに放課後児童クラブ(小学生)の7クラブへ防災教育を実施(令和7年10月末時点)
また、定住外国人の防災意識の高揚を図るため、外国人技能実習生に対する防災講座を初めて実施。

子どもたちへの防災講座

○講座時期
7月中旬から8月末まで

○対象
各橿原放課後児童クラブ

○内容
パワーポイントを使用し、防災に対する心構え等、洪水ハザードマップやクイズなどで分かりやすく説明。
また、避難生活のイメージをしてもらえるよう段ボールベッド等を使用する講座を実施。

定住外国人への防災講座

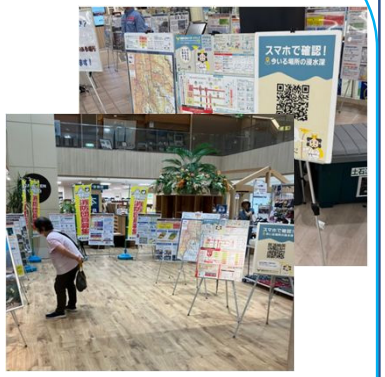
○講座時期
8月15日(金)

○対象
奈良県ビルド工業協同組合

○内容
パワーポイントを使用し、防災に対する心構えや情報収集方法等をやさしい日本語資料や通訳も交え説明。
また、配布資料も情報収集できるサイト等示し、自助の重要性を伝える講座を実施。

防災パネル展の実施

○実施時期
6月下旬及び9月上旬まで



○会場
橿原イオンモール及び近鉄百貨店橿原店

○内容
広く市民に洪水ハザードマップ等周知するため、2ヶ所でパネル展を実施。
また、従来から作成しているその場の浸水深や安全確保行動が分かるQRコードを設置しておくことで、立ち止まっていただく工夫もする。

桜井市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	桜井市	連携機関	自治会
取組内容	No.31　住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有		

◎取組概要

自治会主催の防災訓練にて、市の備蓄品の展示

・市でどのようなものを備蓄しているのかを知ってもらうと同時に、個人での備蓄も呼びかける。
・間仕切りやベッドの組み立てを参加者と一緒に行い、発災時に自力で組み立てられるようにする。

御所市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	御所市	連携機関	なし
取組内容	No.37　簡易水位計、量水標、CCTVカメラの設置検討・整備		

◎取組概要

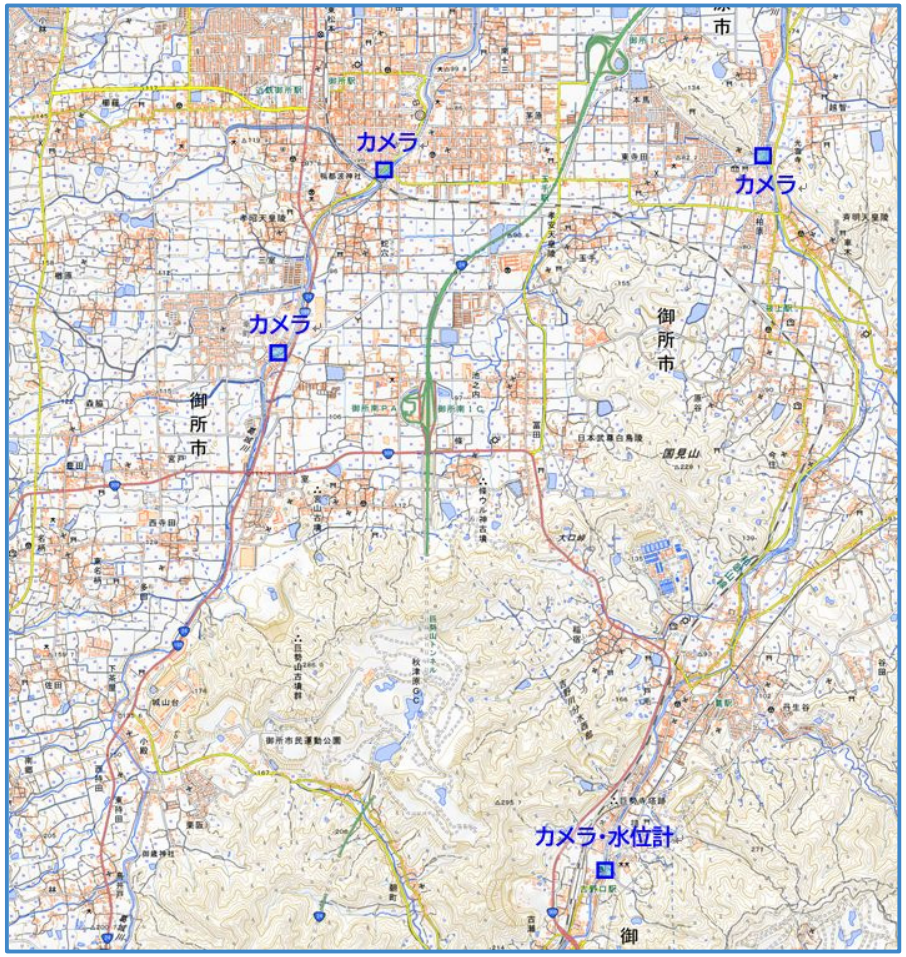
水位計、河川監視カメラの設置

令和7年度末までに、曽我川、葛城川の浸水常襲地や被害実績箇所へ水位計（1箇所）及び河川監視カメラ（4箇所）を設置する。

これにより、リアルタイムで河川の状況を把握することができ、今まで以上に迅速な避難情報の発令が可能となる。

旋回型監視カメラ

レーダー式
水位計



生駒市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	生駒市	連携機関	なし
取組内容	No.２３　まるごとまちごとハザードマップの検討		

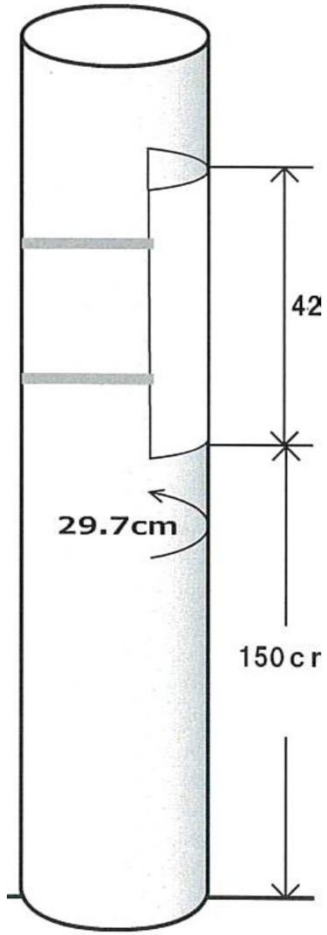
◎取組概要

まるごとまちごとハザードマップを設置中

〇設置枚数：50枚
〇取付場所：生駒市内　浸水想定区域から選定
〇実施期間：令和7年7月7日～令和8年2月27日

<u>主な内容</u>

避難誘導・想定浸水深表示板を電柱等に設置予定です。
平時においては住民、通行者及び旅行者等へ災害リスクを周知し、災害時には避難誘導の助けになることが期待されます。



香芝市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	香芝市	連携機関	奈良地方気象台
取組内容	No.29　小中学校や地域を対象とした災害教育の実施		

◎取組概要

市内小中学校の教職員を対象とした学校危機管理（気象災害への対応）に関する研修の実施

○日　　時：令和7年6月17日
○主　　催：香芝市危機管理課、学校支援室
○参　加　者：市内14小中学校教職員（校長・教頭等）、市職員
○講　　師：奈良地方気象台

研修の目的

教職員が、各小中学校の地域特性に応じて、危険箇所の把握や休校判断などができるようになることを目指し、児童・生徒の安全な登下校を確保するため、市防災担当課と学校担当課が合同で防災研修会を実施しました。
昨年度より、本研修を実施しており、今年度は昨年度未受講の教員及び職員を中心に受講しました。

研修内容

① 奈良地方気象台より講師を招き、市内全小中学校の教職員（校長・教頭等）に対し、防災気象情報の解説とその活用方法について講義を行いました。

② 防災気象情報について学んだ後、過去に避難情報が発令された大雨時の気象情報を基に、各学校区に分かれて防災マップを用いたグループワークを実施しました。参加者は、児童・生徒の安全を確保するための対応策について話し合い、各班で結果を発表しました。

葛城市の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

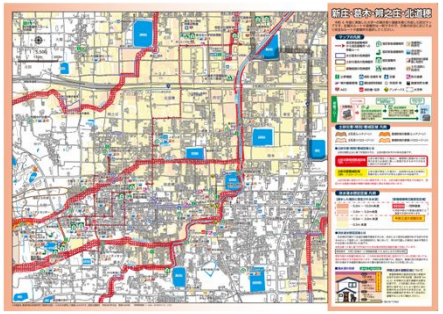
取組機関	葛城市	連携機関	なし
取組内容	No.２３　防災マップ及び避難所看板の作成		

◎取組概要

最新の土砂災害(特別)警戒区域、洪水浸水想定区域等を反映した防災マップを作成し、併せて避難所等の看板を設置した。

防災マップ作成

令和7年度に下記項目を反映した防災マップを作成した
・土砂災害(特別)警戒区域
・中小河川を含む洪水浸水想定区域図
・各大字からの聞き取り内容
・マイタイムライン等



避難所看板作成

令和7年度に市内避難所及び避難場所の看板を更新し、未設置の箇所には新規で設置した
・市内21箇所に設置
・日本語と英語の標記
・蓄光機能を追加
・図記号の標準化

平群町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	平群町	連携機関	なし
取組内容	No.29　小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施		

◎取組概要

町内小学校及び自治会を対象とした水災害教育を実施

○実 施 日

小学校
　①9月16日
自治会
　①5月19日　②7月6日　③7月12日　④10月5日

○実施内容

小学校
　風水害について・「公助」について
自治会
　町の災害対策について・「自助」「共助」の必要性について

実施状況

実施目的
過去の災害をふまえ「自助」「共助」の重要性を知っていただき、日頃から災害に備えた対策を行っていただくことを目的とする。

三郷町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	三郷町	連携機関	
取組内容	No.５３　惣持寺地区調整池整備工事		

◎取組概要

・令和4年度より、浸水常襲地域である惣持寺地区において地下調整池（計画貯水量16,500㎥）を整備を開始し、令和6年度に竣工した。
（平成29年10月台風29号　惣持寺地区浸水実績）→浸水面積約30,000㎡、床上浸水11棟、床下浸水14棟。

・雨水幹線の排水系統の切替工事をR6年度より実施中。
排水区を二つに分けることで浸水の解消を図る。
（令和6年度より実施、令和7年度に排水区の一部が完成。
残り排水区についても、工事および設計を実施中。令和9年度に完了予定。）

斑鳩町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	斑鳩町	連携機関	
取組内容	No.18　ハザードマップの周知啓発		

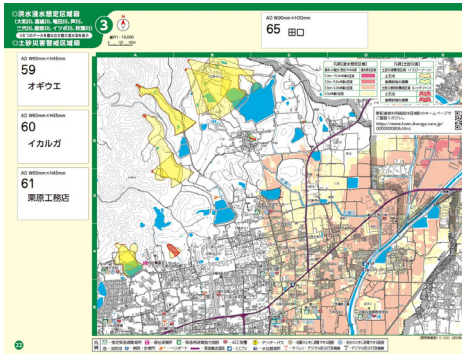
◎取組概要

水害ハザードマップの作成及び周囲啓発

令和6年度末に下記項目を反映したハザードマップを作成した。

- ・中小河川(三代川、芦川、服部川、イツボ川、秋葉川)の浸水想定区域図を反映
- ・マイタイムラインについてのページを追加
- ・デジタル防災行政無線、町公式LINEなど、情報伝達手段を追加更新
- ・その他情報面等更新

令和7年3月から各戸配布を行い、令和7年度において、出前講座などで周知啓発を実施した。



備え

マイ・タイムライン

風水害から身を守る!「マイ・タイムライン」をつくってみよう!

チェック
ほかにも…
防災ハザードマップを確認しましょう!
避難するときに配慮が必要な家族や支援してくれる隣人などを考えてみましょう!

知って備える	住んでいる地区の災害リスクを知る	【記入例】●住んでいる地域:土砂災害警戒区域、○○川浸水想定区域
	避難場所・経路を調べる	●避難場所:○○小学校 ●移動時間:30分 ●移動手段:徒歩
	警報等の内容を調べてどんな行動をとるか知る	●避難開始のタイミング:高齢者等避難が発令されたとき
	災害発生前後の情報収集方法を調べる	●情報収集先:ラジオのニュース、気象庁HP
	避難スイッチ ※前もって避難するタイミングを決めておこう。	●警戒レベル3で必ず避難 ●○○川の水位が○mを超えたら避難する 等

状況	警戒レベル	あなたの行動
災害発生又は切迫	レベル5 緊急安全確保(町が発令)	【記入例】●避難が出来ない時は2階や崖から離れた部屋に移動
災害発生のおそれ高い	レベル4 避難指示(町が発令)	●避難完了 ●ラジオ、携帯電話等で最新の状況を確認
災害発生のおそれ	レベル3 高齢者等避難(町が発令)	●離れている家族や知人に避難することを連絡 ●避難場所へ避難開始
気象状況悪化	レベル2 大雨・洪水・高潮注意報(気象庁が発表)	●避難場所や交通手段を再確認 ●携帯電話の充電を確認
気象状況悪化のおそれ	レベル1 早期注意情報(気象庁が発表)	●テレビやインターネットで天気予報をチェック ●非常用持出品を確認

安堵町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	安堵町	連携機関	安堵町社会福祉協議会等
取組内容	No.３１　「防災・減災を考える②」安堵町災害ボランティアセンター設置・運営訓練		

◎取組概要

安堵町で住民や、町内各関係機関に「災害ボランティア」の体験を通じて「災害ボランティアセンター」の存在と機能を把握し、発災後における災害ボランティアセンターを運営する社会福祉協議会をはじめ、住民同士の支え合いや様々な関係機関とのネットワーク構築を図ることを目的として実施し、参加住民などにハザードマップの配布と簡易テントや段ボールベット他を展示し、触れる機会を設けて合わせて防災減災関連を学ぶ啓発を行った。

〇日　時：令和7年11月29日（土）

〇参加機関：安堵町社会福祉協議会・防災士会・町内自主防災組織・一般住民・他関係団体

〇実施場所：トーク安堵カルチャーセンター

〇安堵町社会福祉協議会や防災士会などが主体となり、町は、災害対策本部としての役割りを担い、連携して自主防災組織、町ハザードマップの配布などを行い、防災意識の高揚を図った。

ボランティア設置訓練の様子

工夫した点

①当初はボランティアの設置・運営訓練のみとしていたが、「防災・減災を考える②」をテーマとして、参加者が避難所に設置する防災資機材等を実際に触れ、防災意識の高騰を図るとともに、自主防災組織などにも参加してもらい参加者全員が意見交換を行える場を設ける工夫を講じた。

川西町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	川西町	連携機関	大和川河川事務所
取組内容	No.１１　避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新		

◎取組概要

開催概要

○日時：令和7年11月29日（土）
　　15：00～17：00
○場所：川西町　中央公民館けやきホール

○参加者：約40名（川西町自主防災会）

○講師：気象予報士　澤 麻美氏

○主な内容：川西町は、大和川河川事務所との共催により、町内に4本の河川が流れる川西町の自主防災組織の方々を対象に、マイタイムライン講習会を開催しました。講師には流域治水アンバサダーの澤麻美氏（気象予報士）をお招きし、マイタイムラインの作成方法の説明や最近の気象災害や情報の活用方法をこうえんしていただきました。

三宅町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	三宅町	連携機関	なし
取組内容	No.１８　水害ハザードマップへの反映 No.２３　まるごとまちごとハザードマップの検討		

◎取組概要

洪水・内水ハザードマップの作成及びまるごとまちごとハザードマップの更新

三宅町における危険区域（洪水・内水氾濫）の情報に基づき、災害時の避難場所等にかかる情報を分かりやすく提供する「ハザードマップ」を作成し、住民及び滞在者、その他のものの生命、財産を災害から保護するとともに、災害による被害を軽減し、社会秩序の維持と公共福祉の確保を図ることを目的 として現在、作成を進めており、今年度完成予定。

また、洪水・内水ハザードマップの作成に伴い、現在、電柱に設置している想定浸水深表示板（以下表示板）と想定浸水深が変化した表示板の今年度中に改修予定。

田原本町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

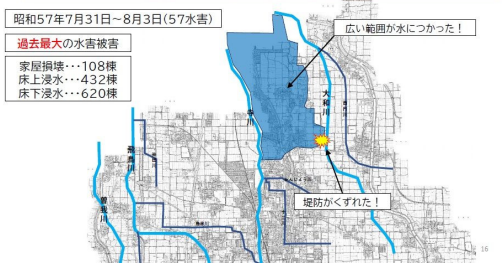
取組機関	田原本町	連携機関	
取組内容	No.30　水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要

防災出前講座の実施

自治会等の要望を受けて出前講座を実施し、災害のリスクや備えについて説明し、啓発をおこなった。

昭和57年　台風１０号



マイ・タイムラインをつくろう

☆マイ・タイムラインってなに？

避難指示が発令されたとき、“自分だけはだいじょうぶ”と思ったことはありませんか。いざというときにあわてずに行動するために、「いつ」「何をするのか」を整理しておきましょう。それがマイ・タイムラインです。

洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップとは、自分の住んでいる地域や会社周辺で台風、大雨、といった水害が起こったときに、どこにどのような危険があるか、また、災害が起こった場合はどこに避難したら良いのかという情報を地図上にまとめたもののことを言います。

洪水ハザードマップ

田原本小学校は0.5m～1.0m浸水する可能性がある。

実施日	対象	参加者
9/26	福祉センター	16名
9/28	自治会	30名
10/5	自治会	100名
11/10	小学校	86名

令和7年10月末までの実施状況

- 毎年継続的に地域住民への啓発を実施
- 避難や事前の備えの啓発
- ハザードマップの見方やマイタイムラインについても周知

高取町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	高取町	連携機関	なし
取組内容	No.８　ホットライン構築による県・市町村の連絡体制強化、住民への情報提供の確実な実施		

◎取組概要

メール配信による防災行政無線の聞き直しに対応
住民への情報提供の多重化に成功

豪雨等により聞こえにくい状態であっても、確実に住民へ情報を届けることが可能になった。

明日香村の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	明日香村	連携機関	無し
取組内容	No.３０　明日香村防災講演会		

◎取組概要

明日香村内自治会／自主防災会／民生児童委員などをはじめ、各種団体関係者が集う機会(明日香村人権を考える集会)を捉えて、同集会に引き続き「令和7年度防災講演会」を同日開催。

開催日時　：　令和7年7月5日(土)、15時30分～
テ ー マ　：『　災害への備え　～私たちにできること～　』
講　　師　：　奈良県知事公室防災統括室　参事　米津浩之　氏
参 加 者　：　約200名

令和5・6年度は、実施訓練第一部として防災行政無線活用による全世帯サ参加型の避難誘導・安否確認訓練を実施し、引き続き開催の第二部ではマイタイムライン作り・土嚢づくり・AED救命・応急処置などの体験型訓練／講習や防災備蓄品紹介などを実施してきた。

そこで、令和7年度は一転『座学』開催とし、近年国内各地域で多発する多種多様な大規模災害の被災体験を教訓とさせていただき、紀伊半島豪雨災害や能登半島地震などの被災地において現地自治体で災害対策本部や被災現場での救援活動等の指揮・指導にあたられた元自衛官である講師を招請して、本村の地域特性からみて村内発生する可能性が高い災害への知識習得・認識の高揚を図るとともに、平時から一人一人が心がけ、取り組むべき備えについて、臨場感ある講話に多くの参加者が真剣に耳を傾け『備えることの大切さ』を学ぶ機会とした。

上牧町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	上牧町	連携機関	
取組内容	No.３１　住民参加型の避難訓練の実施状況、今後の予定等の共有		

◎取組概要

令和7年度上牧町防災訓練を実施予定

〇予定日時　令和8年2月15日(日)

〇実施場所　上牧町立上牧小学校

〇参加機関　上牧町職員、上牧小学校校区８自治会、
かんまき自主防災ネットワーク、各種支援団体

（昨年度の上牧町総合防災訓練の写真）

〇訓練内容

・発災当日を想定し安否確認訓練、避難行動訓練、避難所開設準備～開設受入訓練を行う。
・新たに導入される通信機器(ハザードトーク)を用いて、自治会住民と災害対策本部ならび避難所運営に おいて同機器を用いての情報伝達訓練を行う。
・炊き出し訓練を行う。
・学校に隣接する井戸を利用して、開栓方法と給水(生活用水)と避難所への運搬訓練を行う。
・防災関連のパネル、被災地の様子、初団体の活動紹介、並びに防災倉庫備蓄品について見学。

王寺町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	王寺町	連携機関	なし
取組内容	No.29　小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施		

◎取組概要

町水災害の歴史と亀の瀬地すべり歴史資料館での学習会

指定避難所になっている王寺工業高校で、生徒たちに王寺町の水災害の歴史と防災について勉強し、亀の瀬地すべり歴史資料館に出向き、本町で最大の被害をもたらした「昭和57年水害」の歴史と、現在行われている対策工事についての課外学習を実施。
そのうえで、起こりうる災害に備えるため「工業校生」として地域防災に貢献できることを検討した。

検討の結果

「移動式かまど」の制作と、地域連携を目的とした防災訓練の実施

工業高校で培ったモノづくりの技術を活用し、「移動式かまど」を製作。また地域で防災活動を行う「王寺町防災士ネットワーク」と連携し、避難所設営体験やHUGゲームを通じ、地域連携を深め、大規模災害に備えた防災体制の確立を行った。
さらに、避難所生活で重要となる「食」にも注目し、制作した移動式かまどを用いた防災食のレシピを開発し、炊き出し訓練と防災食の普及を行った。

亀の瀬地すべり歴史資料館での課外学習

移動式かまど

訓練の様子

広陵町の令和7年度の取組状況

様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	広陵町	連携機関	なし
取組内容	No.２３　まるごとまちごとハザードマップ（指定緊急避難場所の看板及び指定避難所誘導看板設置）		

◎取組概要

まるごとまちごとハザードマップ事業の一環で広陵町内における指定緊急避難場所25箇所(指定避難所について令和6年度実施)の看板及び指定避難所誘導看板(各指定避難所の交差点等に計45枚)を設置予定。
町内は東半分が浸水区域になっており、西側の浸水区域外への避難を促す計画である。

（設置例）

・町内に住む住民、または広陵町を訪れた方に対して、浸水区域と避難所を表して緊急時に備える意識を身につける。
・ピクトグラムを用いて、外国人やこどもでも分かる表示で避難を誘導する。

河合町の令和7年度の取組状況

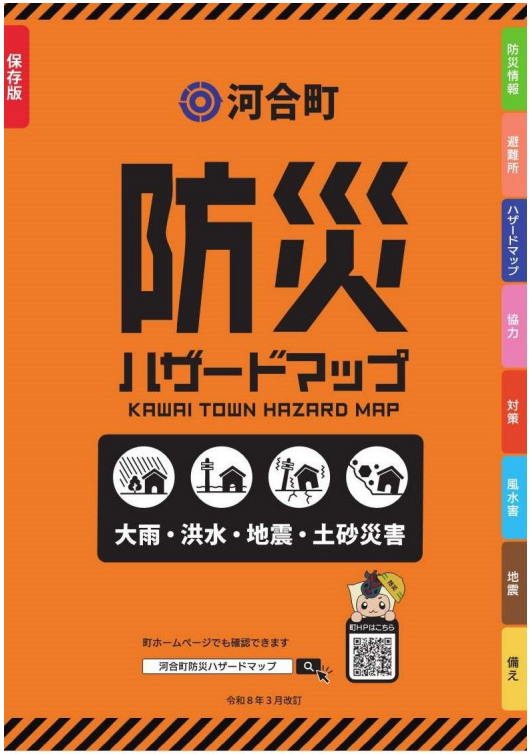
様式2

共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	河合町	連携機関	なし
取組内容	No.２３　ハザードマップの改訂		

◎取組概要

ハザードマップ改訂内容
・県中小河川の洪水ハザードマップの追加
・水害等防災情報を最新版に更新
・ハザードマップは、総合防災マップという冊子版にて作成中
・避難所、避難場所などマップ上に重要施設の記載
・その他各種の情報を更新、追加など



※令和7年度改訂版

大淀町の令和7年度の取組状況

様式2

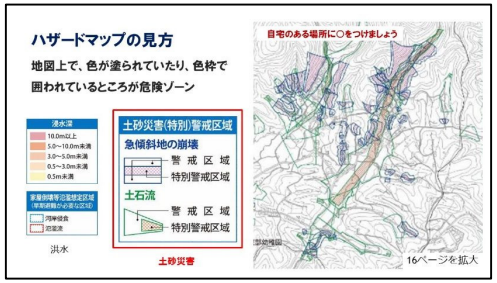
共通　・　国管理区間　・　県管理区間

取組機関	大淀町	連携機関	なし
取組内容	No.54　水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要

防災出前講座の実施

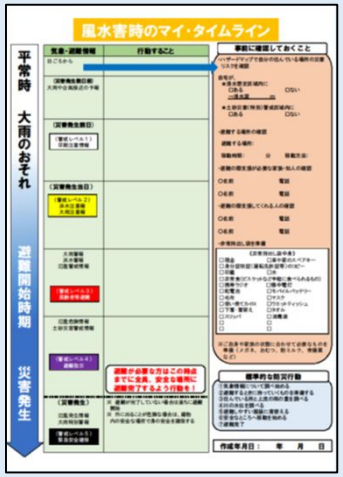
令和6年度は能登半島地震発生に伴い、地震についての講座依頼が多かったが、出水期を中心に、水害についての出前講座の依頼も増加した。防災の基本的な内容を中心に、水害・土砂災害の危険性、避難方法や情報収集の方法など、具体的な内容で講座を行った。

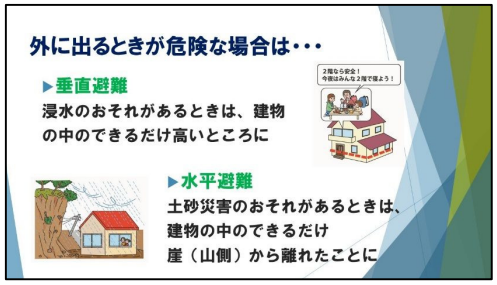


工夫した点

①令和3年に作成した町ハザードマップを参加者全員に配布。
改めて自宅周辺の危険区域や避難場所について確認をしてもらった。

②防災出前講座では、マイ・タイムラインの様式を配布。
その場で、開設を交えながら、参加者にマイ・タイムラインを作成してもらった。





奈良県河川整備課からの情報提供

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

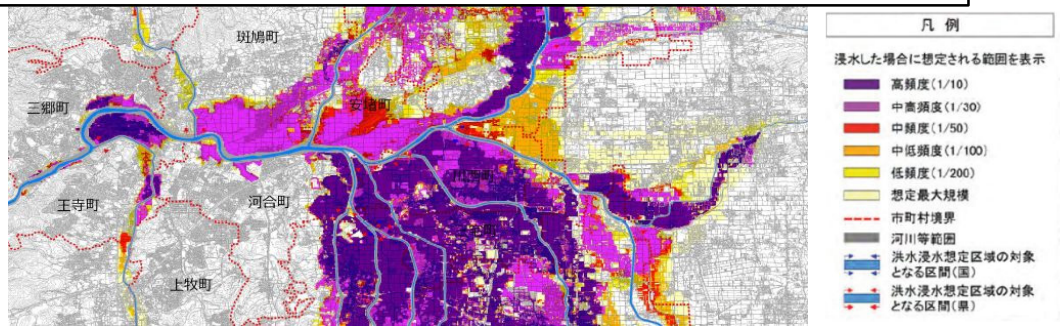
取組機関	奈良県	連携機関	なし
取組内容	大和川水系の水害リスクマップの作成・公表		

◎取組概要

〇本県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し、公表してきた。

〇これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水頻度を明らかにするために、「水害リスクマップ」を作成・公表し、水害リスク情報の充実を図る。

令和7年6月16日に大和川水系の水害リスクマップを公表



※直轄部の大和川等の水害リスクマップはすでに国において公表済みであり、新たに県管理の水位周知河川*の水害リスクマップを重ねて公表

＊ 大和川、葛下川、竜田川、富雄川、曽我川、高田川、葛城川、飛鳥川、寺川、米川、地蔵院川、秋篠川、能登川、布留川、高取川、佐保川、高瀬川、岩井川

活用例
- **事前に土地の水害リスクを把握し、防災まちづくりや企業立地等の参考。**
- **水害リスクの意識向上。**
- **10～50年に1度の雨量という、従来のハザードマップと比べてより身近な規模の災害リスクをカバー。**
- **立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用。**

など

奈良県河川整備課からの情報提供

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関	奈良県	連携機関	なし
取組内容	自治会・小学校へ水害に備えての出前講座を実施		

◎取組概要

「水害に備えて」というテーマで防災教育や防災知識の普及に関する出前講座を実施。
講座内容は大和川大水害を事例に写真を使って水害の概要を紹介し、水害に対する県の取組も伝えた。また、早期避難のために災害情報や避難グッズの準備の重要性を説明した。最後に自助・共助・公助を紹介し、災害への備えについて大切な心構えを伝えた。
また、水害リスクの情報収集の方法として、水害リスクマップや災害リスク情報システム、河川情報システムを紹介した。

令和7年度実績
○令和7年　11月9日
　参加団体：橿原市新賀町防災会　参加人数50名

○令和7年　11月27日
　参加団体：要約筆記サークル連絡会　参加人数23名

○令和7年　11月30日
　参加団体：手話通訳問題研究会　参加人数8名

○令和7年　12月2日
　参加団体：生駒市立俵口小学校　参加人数82名

○橿原市新賀町防災会の様子

○要約筆記サークル連絡会の様子

○手話通訳問題研究会の様子

○生駒市立俵口小学校の様子

奈良地方気象台の取組状況
（職場体験学習の実施）

水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	奈良地方気象台
具体的取組	中学生を対象とした職場体験学習の実施
主な内容	・気象台の業務説明・観測施設の見学 ・目視観測の演習・天気予報の作成体験 ・防災気象情報の解説と避難行動について学ぶワークショップの実施

○概要

11/06-07　奈良市立都跡中学校　2年生4名
11/13-14　奈良県立青翔中学校　2年生5名

○中学生の感想

- 天気予報や雲の観測などを実際にやってみて難しかったが、とても楽しかった。地震や奈良の災害のことなどいろいろなことが知れ、貴重な体験だった。
- 空や地震についての話を聞くうちにますます気象台について興味が湧いた。
- 雲の種類を覚えるのは難しかったが雲の観測は楽しかった。
- 体験を通じて、多くのことを学ぶことができた。観測測器を見ることができ、とても興味を持った。
- 天気予報の作成作業を知ることができ、気象台の防災情報の重要性を改めて知ることができた。
- 気象情報を活用できるようになったので、気象の変化に対応できるようにしていきたい。

○職場体験学習の様子

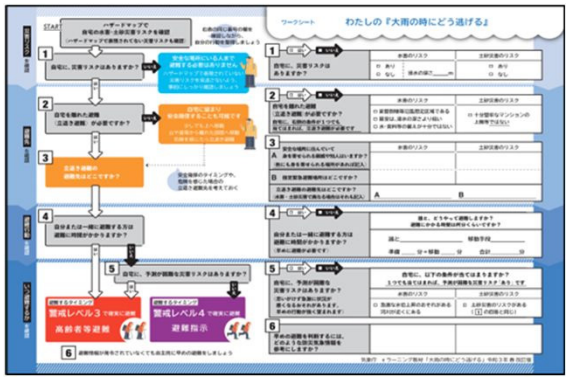
地上気象観測施設の見学

目視観測の演習

避難行動についてのワークショップ

●ワークショップ教材　?大雨からの避難を学ぶ?「大雨の時にどう逃げる」

動画教材


記入用ワークシート

気象庁ホームページ　eラーニング「大雨の時にどう逃げる」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jmael/dounigeru.html

６月からの出水期に備え、自治体等と危険箇所の合同巡視を実施しました

～迅速な水防活動や避難に資する情報を共有～

国土交通省

R7. 4-28

○大和川流域では、一昨年6月に台風第2号・前線に伴う大雨により、藤井観測所（王寺町藤井）で計画高水位を超過、板東観測所（大和郡山市額田部）において氾濫危険水位を超過する洪水が発生しました。
○大和川河川事務所では、梅雨や台風等に伴う本格的な大雨時期である出水期の前に、洪水時の迅速な水防活動や避難に資する情報を共有するため、自治体職員等と、合同巡視を行いました。
○合同巡視では、出水時に越水の恐れがある危険箇所と、その危険箇所の状況が把握できる危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラを確認してもらいました。

【日　　時】令和7年4月21日(月)～4月28日(月)　合計5回
【場　　所】大和川、佐保川、曽我川の危険箇所
【参加機関】奈良県域　10機関
　　奈良市、大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町
　　大阪府域　8機関
　　大阪管区気象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市
【報道機関】ＮＨＫ奈良

合同巡視の様子

ＮＨＫ奈良に取材していただきました！

佐保川右岸　4.0k

危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラ

大和川左岸　10.0k

【参加職員の声】
- 出水期前に、こういう機会を作ってもらい、防災担当課の職員としてありがたい。
- 令和5年台風第2号の出水画像を用いた説明により、出水時の川の様子も踏まえて、危険箇所を確認することができた。
- カメラの映像や正しい情報を市民に情報発信していきたい。

【問い合わせ先】
国土交通省 近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒582-0009
大阪府柏原市大正2-10-8
TEL 072-971-1381

すみずみで守る、を主流に。

大和川水辺の楽校まつりが開催されました

国土交通省

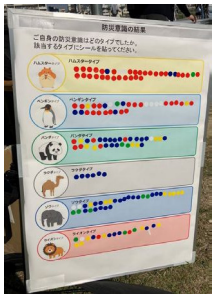
R7.5.13

○大和川を子どもたちの自然学習の場とするとともに、水辺を地域の憩いの場として体験してもらうことを目的に「大和川水辺の楽校まつり」が開催されました。
○大和川河川事務所は大和川への関心度向上や防災意識向上を図るため、流域治水模型を用いた水害対策の説明や、『防災アニマル診断』を活用した意識調査、大和川の水質や清掃活動、かわまちづくり事業に関するパネル展示を行いました。

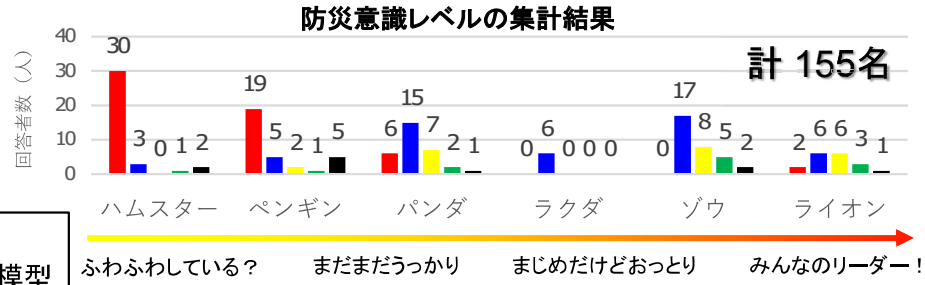
【日時】令和7年4月27日（日）10時～15時
【場所】大和川公園及び河川敷
　　堺市堺区香ヶ丘町５丁（旧浅香山浄水場下流）
【主催】「楽しいんやさかい大和川」子どもの水辺協議会
　　浅香山校区自治連合協議会
【共催】大和川河川事務所、堺市

防災アニマル診断を用いた防災意識調査

【防災アニマル診断とは】
・大雨で避難が必要となるもしもの時に適切な行動をとるために、知っておいてほしい内容を通して自分の水害への意識を確認してもらいます。
・防災意識のレベルによって、初心者のハムスターから上級者のライオンまで6タイプに分類しています。



＜凡例＞
19歳未満：●
20歳以上40歳未満：●
40歳以上60歳未満：●
60歳以上80歳未満：●
80歳以上：○



●会場の様子

大和川の水質、清掃活動、かわまち等のパネル展示

流域治水模型で実験

【実施結果・今後について】
・来場した子供たちからは「大和川について考えるきっかけになった」等の声があり、診断や模型など見て触って体験できる内容に楽しんでいる様子がみられました。
・意識調査では子供たちはもちろん若い世代の方に多く参加いただき、今回の診断をきっかけに、楽しみながら学ぶことで防災意識の定着に一定の効果をもたらすことを実感しました。
・今後も大和川河川事務所では、地域と連携しながら防災や環境学習の機会を提供していく予定です。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局　大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009 大阪府柏原市大正２－１０－８
TEL ０７２－９７１－１３８１

マイ・タイムライン講習会を開催

～住民一人ひとりが安全に避難するための取り組み～

国土交通省
－大和川河川事務所－

R7.6.24

○　大和川河川事務所は、王寺町の住民を対象に、マイ・タイムライン講習会を開催しました。
○　自分がどういった防災意識を持っているかを分かりやすく楽しく診断出来る「防災アニマル診断」を実施後、マイ・タイムラインの作成手順などを説明しました。
○　王寺町からはハザードマップの説明を行い、様々な観点から参加者の防災意識の向上を図りました。

開催概要

【日　　時】 令和7年6月15日（日）14時～16時
【場　　所】 王寺一丁目公民館
【参 加 者】 王寺町一丁目住民 17名
【実施内容】 ①防災アニマル診断を用いた意識調査
②マイ・タイムラインの作成による水害への備え

自治会長による挨拶

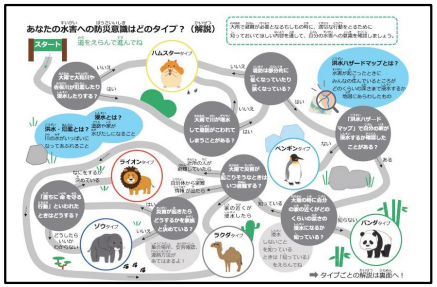
王寺町防災ハザードマップの説明

講習会の説明の様子

自宅のリスクの確認

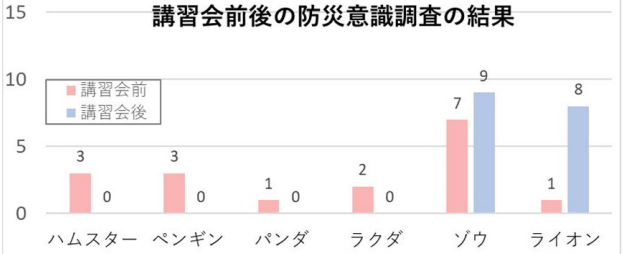
【講習会資料】

王寺町防災
ハザードマップ



防災アニマル診断

マイ・タイムラインノート



低 ← 防災意識レベル → 高

・講習会前後に「防災アニマル診断」により参加者の防災意識を調査し、講習会後に意識が高まったことを確認出来ました。

参加者の感想

- 災害時の警戒レベル5の時に避難が完了するのでは遅く、警戒レベル4の時に避難が完了する必要があることを知った。
- マイ・タイムラインを作成する前は防災アニマル診断でハムスタータイプであったが、マイ・タイムラインの作成後はライオンタイプまで防災意識が高まった。
- 家族の人数が多いから早めに避難することが必要だと思った。

【問合せ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒582-0009
大阪府柏原市大正2丁目10番8号
TEL　072-971-1381（代表）

流域治水アンバサダーと作る！マイ・タイムライン講習会を開催
～住民一人ひとりが安全に避難するための取り組み～

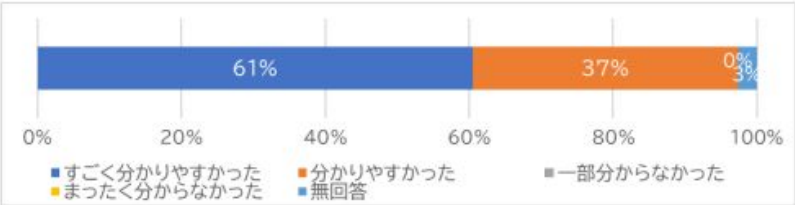
国土交通省
－大和川河川事務所－
R7.12.08

○大和川河川事務所は、川西町との共催により、昭和５７年洪水などで浸水被害が発生している川西町の自主防災組織の方を対象に、マイ・タイムライン講習会を開催しました。
○講師には流域治水アンバサダーの澤麻美氏（気象予報士）をお招きし、マイ・タイムライン作成方法や最近の気象災害や情報の活用方法を講演していただきました。

■ 開催概要

【日時】令和7年11月29日（土）15時～17時
【場所】川西町中央公民館 けやきホール
【講師】気象キャスター　澤　麻美氏
【参加者】川西町自主防災組織　４０名
【実施内容】①最近の気象災害と情報について
②マイ・タイムライン作成
③まとめ・質疑応答

Q.気象予報士(水害の専門家)による講習会の内容は分かりやすかったですか。



98%が「すごく分かりやすかった」「分かりやすかった」と回答頂き、「まったく分からなかった」は0%であった。

■ 参加者の感想

- 近年、大雨に関する報道が増えていますが、講習会を通して、『どれくらいの雨が降ったら危険なのか』『いつ避難を考えなければならないのか』ということを知り、大変勉強になりました。

■ 講習会の様子

開会挨拶
川西町長

流域治水アンバサダーの澤麻美氏による
講演

閉会挨拶
大和川河川事務所長

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009
大阪府柏原市大正2－10－8
TEL 072－971－1381

要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会を開催しました

～避難の実効性を高める取り組み～

国土交通省
－大和川河川事務所－

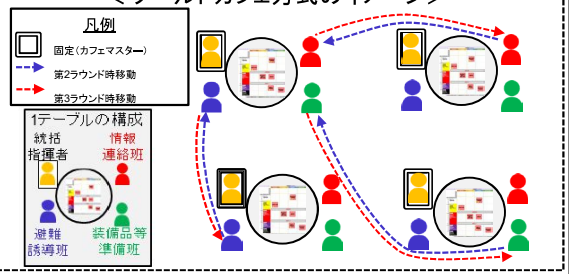
R7.11.10

○藤井寺市において、洪水浸水想定区域内にある要配慮者利用施設の管理者等を対象に避難訓練の実施率を上げる事を目的とした施設タイムラインの作成に関する講習会を開催しました。
○意見交換会は、各警戒レベルで何をするべきか、リラックスした雰囲気で少人数による対話を行うワールドカフェ方式で行われ、各施設が抱える避難に係る課題抽出と解決策について意見を出し合い施設タイムラインを作成しました。
○参加していただいた各施設の方には、講習会終了後に各班で作成したタイムラインシートの写真を持ち帰っていただき、今後すすめていく訓練の参考としていただくことで、避難訓練の実施率向上を図ります。

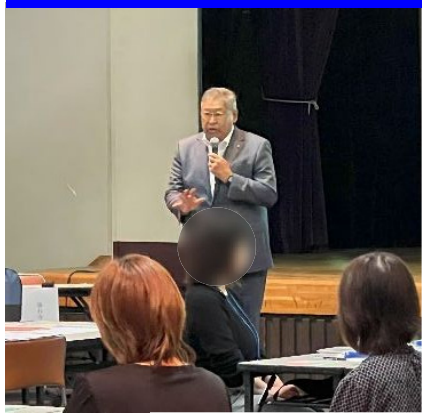
■ 実施概要

【日　時】令和７年１０月２７日（月）　１４時００分～１６時００分
【場　所】藤井寺市立市民総合会館　中ホール
【参加者】要配慮者利用施設関係者　２０施設２７名
　　行政関係者（気象台、大阪府、奈良県、大阪市、藤井寺市）　１５名
【議　題】①避難訓練の必要性について（藤井寺市）　②防災気象情報について（大阪管区気象台）
　　③意見交換会　テーマ：施設利用者と施設職員の命を守る行動

＜ワールドカフェ方式のイメージ＞

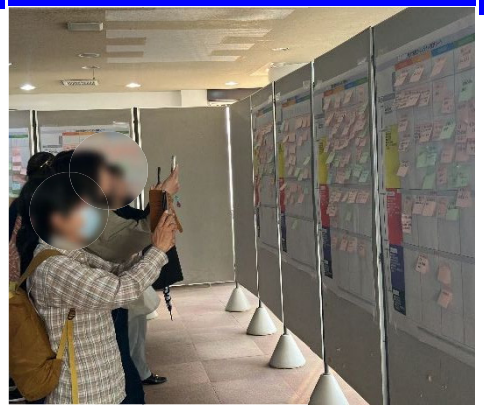


講習会あいさつ（藤井寺市長）

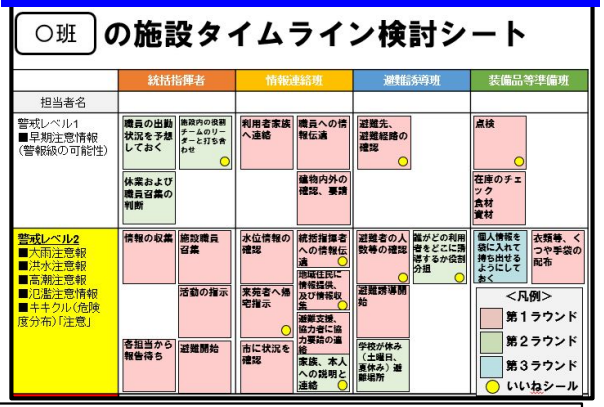


意見交換会の様子

講習会終了後



作成された施設タイムラインシートの一例
※警戒レベル2までを抜粋



【参加者の声】
- 老人ホームや病院、学校など他の施設の方と意見を出し合うことで、今まで考えていなかった視点もあったので、施設に持ち帰って共有を図りたいです。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局　大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009 大阪府柏原市大正2－10－8
TEL 072－971－1381

大和川について学ぼう！

～松原市立松原東小学校で出前講座を行いました～

国土交通省
－大和川河川事務所－

R7.10.9

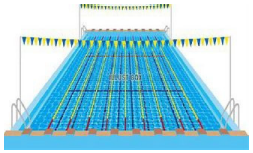
大和川河川事務所では、大和川を多くの人に知ってもらうために事前申し込みのあった学校を対象に出前講座を行うCDST（Class Delivery Service Team）を行っています。
今回は松原市立松原東小学校に訪問し、大和川の概要、歴史、防災・減災や環境（水質・生き物）について、90分の講座を行いました。

日時：2025年9月18日（木）10:45～12:25
場所：松原市立松原東小学校
参加者：松原市立松原東小学校4年生66人　教職員3名

排水ポンプ車で25mプールの水を抜くのにどれくらいかかる？

①12分　②30分

③1時間　④3時間



引用：illust-box.jp

参加者の質問

・河川パトロールカーはどのような役割がありますか？
→堤防などにひびが入っていないか、河川管理施設に問題がないかなどを確認しています。

・微生物はプラスチックを分解できますか？
→微生物は分解できません。プラスチックごみが川や海に流れないようにボランティアの方々と協力してごみ拾いを行っていますが、みなさんもごみのポイ捨てはしないで下さい。

真剣に水質実験の説明を聞いていただいています！

生徒達に楽しんでクイズに参加いただきました！

大和川の出前講座では「大和川の歴史」、「川の防災・減災」や「川の環境問題」について学ぶことが出来ます！

出前講座は随時募集しています！！！

出前講座の申し込みはこちらから↓→
出前講座　申込み｜国土交通省近畿地方整備局 大和川河川事務所 (mlit.go.jp)

【問い合わせ先】
国土交通省 近畿地方整備局
大和川河川事務所
〒582-0009
大阪府柏原市大正2-10-8
kkr-yamatogawa-cdst@gxb.mlit.go.jp

奈良県内のメディア機関と「大和川流域勉強会」を実施しました

～大和川流域の特徴とリスクを知り、住民の命を守るための情報発信について考える～

国土交通省
－大和川河川事務所－
R7.9.19

○『大和川河川事務所』『奈良県』『奈良地方気象台』の三者で、奈良県内の報道機関を対象に、大和川流域の特徴とリスクに関する講演を実施しました。
○大和川河川事務所からは、大和川流域の地勢やこれまでの浸水被害、そして令和７年度から運用を開始した保田遊水地といった大和川の特徴と、報道機関に確認してほしい出水時の河川情報について講演を行いました。

【日　　時】令和７年９月１６日（火）　１３時３０分～１６時００分
【場　　所】ＮＨＫ奈良放送局（ＷＥＢ会議システム併用）
【行政機関】大和川河川事務所、奈良県、奈良地方気象台、奈良市、王寺町、大阪市、柏原市
【報道機関】ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、近鉄ケーブルネットワーク、こまどりケーブル、ならどっとＦＭ、ＦＭヤマト、ＦＭまほろば、ＦＭハイホー、毎日放送、ＮＨＫ大阪放送局、

大和川河川事務所からの講演の様子

【報道機関の声】

- メディアに従事する私たちは、**住民の避難行動の目安となる「避難判断水位」「氾濫危険水位」に注目しがち**であるが、河川管理者が「氾濫注意水位」などの河川水位に対して、どのような危機意識を持っているかを知ることができ、大変勉強になりました。
- 私たちメディアも、「避難判断水位」や「氾濫危険水位」に到達してから水位を確認するのではなく、**少し強めの雨が予想される場合は、早い段階から河川の水位を注視**し、危機感を高めていくことが必要であると感じました。
- 令和7年度から運用が開始された**保田遊水地に水が溜まる様子を、河川監視カメラを通じて確認できる**と伺いました。今後は「**川の防災情報**」でその様子を確認し、防災意識を高めていきたいと思います。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009　大阪府柏原市大正2丁目10番8号
TEL 072－971－1381　（代表）

メディアと連携 NHKのアナウンサーと大和川でフィールドワークを実施しました

～大和川流域の特徴とリスクを知り、住民の命を守るための情報発信について考える～

国土交通省
－大和川河川事務所－
R7.10.7

○災害等ハザード・リスク情報が地域の人々の避難行動に結びつくよう、マスメディアと連携し、情報提供・共有方法の充実を図ることを目的に今回はNHKのアナウンサーと大和川でフィールドワークを実施しました。
○大和川河川事務所の災害対策室にて、出水時に活用できる『水害リスクライン』『川の防災情報』『浸水ナビ』について説明し、住民へ発信する情報について意見交換を実施しました。
○大和川の危険箇所や個別対応区域、特定区間危険箇所等を合同で巡視し、背後地の地形や設置されている水位観測所・危機管理型水位計、河川監視カメラ等の位置を確認してもらいました。

【日　時】令和７年９月２２日（月）　９時３０分～１５時３０分
【場　所】大和川河川事務所 災害対策室、大和川の危険箇所・特定区間危険箇所・個別対応区域
【参加者】ＮＨＫ大阪放送局／奈良放送局のアナウンサー　計５名

災害対策室での説明の様子

フィールドワークの様子

【参加者の声】
- 災害対策本部を設置した際に、河川管理者が情報をどのように確認しているか把握できて、勉強になった。
- 水が流れにくく、水位が上がりやすい『亀の瀬狭窄部』等に設置されている河川監視カメラ映像を活用して、住民の方へ危機感を伝えていきたい。
- 異動等でメンバーが入れ替わるため、定期的に意見交換を実施できる環境を作っていきたい。

【今後の展望】
- フィールドワークを通してメディアへ情報提供・共有を進めることができた。引き続き意見交換を行っていきたい。

【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009
大阪府柏原市大正2丁目10番8号
TEL 072－971－1381　（代表）

近畿府県合同防災訓練に災害対策用機械・防災アニマル診断を展示しました

～地域全体の防災力を高め、災害に強いまちづくりに貢献する～

国土交通省
－大和川河川事務所－

R7.10.30

〇防災関係機関の連携強化と住民の防災意識啓発を目的とした近畿府県合同防災訓練に参加しました。
〇大和川河川事務所は、災害対策用機械(照明車)の展示と防災アニマル診断による来場者の防災意識調査を行いました。また、来場者にはマイ・タイムライン（防災行動計画）を作成してもらうため「マイ・タイムラインノート」を配布しました。

■ 実施概要

【日　時】令和７年１０月２６日（日）　９時００分～１２時００分
【場　所】奈良県第二浄化センタースポーツ広場
【内　容】防災アニマル診断による防災意識調査、マイ・タイムラインの広報、照明車の展示

照明車の展示

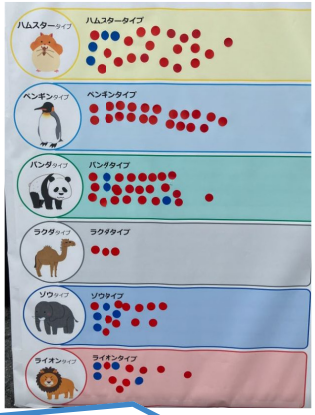
照明車の展示

防災アニマル診断を用いた防災意識調査

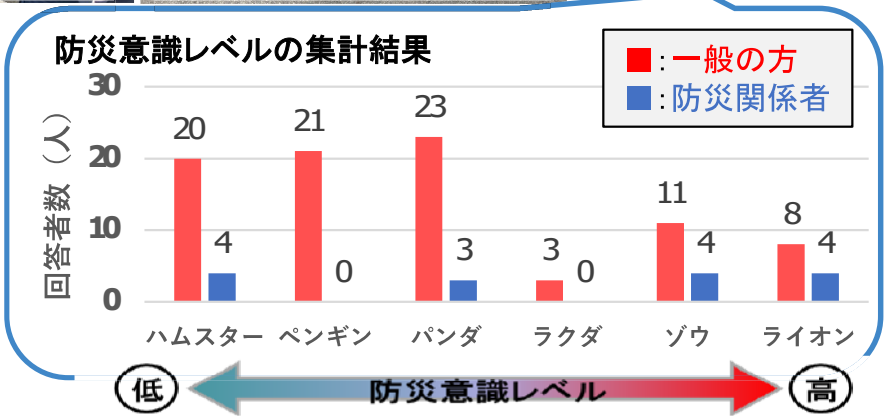
防災意識アンケートについて説明

奈良県知事への取り組み内容説明

広陵町長への取り組み内容説明



【参加者の声】
- ハザードマップを見ていない『ペンギン』タイプ・浸水深を知らない『パンダ』タイプが多いので、引き続き普及する必要があると感じました。（防災関係者）
- 照明車の明るさに驚きました。（一般の方）
- 家に帰って早速マイ・タイムラインを作成しようと思います。（一般の方）



【問い合わせ先】
国土交通省　近畿地方整備局　大和川河川事務所　流域治水課
〒582－0009 大阪府柏原市大正2－10－8
TEL 072－971－1381

大和川流域について模型を用いて説明しました

～行基さん大感謝祭2025へ出展!!～

国土交通省
－大和川河川事務所－

R7.11.28

概要

日本における土木事業の始祖であり、数多くの道路や橋、治水などのインフラ整備を行った行基さんに感謝するため、毎年『行基さん大感謝祭』が春日大社（奈良県奈良市）で開催されています。

今年は「行基誕生1357年シンポジウム」や「宮大工体験教室」など、たくさんの催しが行われ、大和川河川事務所からは「流域治水模型」を用いた実演を行い、大和川流域の特性や当所の事業内容などを説明し、訪れた多くの方々に興味を持っていただきました。

- 実施日時　令和７年１１月１６日（日）　11:00～15:00
- 実施場所　春日大社境内
- 主な内容　流域治水模型を使用した大和川流域の特性説明

実演の様子

大和川流域の特性説明,大和川河川事務所の事業説明

参加者の声

- 自分たちの住んでいる町で行われていた土木事業について初めて知った。
- 大和川流域の特性について詳細に知ることができて良かった。
- 模型を用いた説明だから子供にもわかりすくて助かる。

【問合せ先】
国土交通省　近畿地方整備局
大和川河川事務所　流域治水課
〒５８２－０００９
大阪府柏原市大正２－１０－８